

平成二十九年 度
(2017 年度)

博物館教育普及活動

沖繩県立博物館・美術館
開館十周年記念
特別編

平成29年度
(2017年度)

沖繩県立博物館・美術館 開館10周年記念 特別編

博物館教育普及活動

10th
ANNIVERSARY

 沖繩県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

ごあいさつ

平成 19 年秋に開館した沖縄県立博物館・美術館は、新しい時代に対応した、規模、目的、事業等をより広く、より深く展開させ、県民の皆様と共に知的共有財産を創造していく博物館をめざしてまいりました。おかげさまをもちまして、今年当館は首里の旧館からおもろまちの新館に移転して 10 周年の節目を迎えました。今後も更に学校連携事業、文化講座、体験学習教室等に参加された皆様をとおして、沖縄の自然や歴史及び文化に触れ親しむ、知的な文化の輪が広がることを願い活動してまいります。

さて、博物館は様々な資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としています。同時に、来館者の知的・文化的な好奇心を充足させる地域の中核施設であることも求められています。近年、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館します。このような来館者の要求に、より高い満足度をもってこたえていくため、当館では今年度もいろいろな博物館事業を実施してまいりました。

その中で来館者への学習プログラム等の提供など、教育普及活動を、大きく二つの事業に分け推進してきました。

一つ目の学校連携事業では、学校団体支援体制の強化を推進し、学校団体受入の充実を図りました。「出前授業等」では、学芸員と教師が連携した授業を小・中・高等学校で実施しました。

二つ目に博物館が企画運営する事業として、本年度はふれあい体験室専属ボランティアの募集と養成をおこない、総勢 79 名のボランティアを確保し、学校団体支援体制の強化を推進しサービスの向上に繋げました。また、総合展示部門解説ガイドボランティア養成のもと、一般来館者へのサービス向上を図りました。

また、文化講座におきましては、「地図を手に持った史跡めぐり」を皮切りに全 11 回実施し、県民の皆様にも多くの参加をいただき好評を得ました。その他にも、「昆虫標本作り」をはじめとする体験学習教室の開催や芸員講座、常設展展示解説会とバックヤードツアーをそれぞれ 12 回、さらに夏休み企画として美術館と協働した「夏休み！子どもフェスタ」を企画し、その中で博物館においては学芸員による子ども向け教室を全 9 教室開催しました。

平成 29 年度の博物館教育普及事業の実施にあたり、ご講演、ご指導いただきました講師の方々をはじめ、ご協力いただきました博物館ボランティアの皆様、ならびに関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

平成 30 年 3 月

沖縄県立博物館・美術館

館長 田名 真之

博物館教育普及活動

目次

ごあいさつ

I 博物館活動について……………1

- 1 はじめに
- 2 博物館活動（四つの車輪）
調査活動・展示活動・教育普及活動・保存管理
- 3 博物館の機能
- 4 博物館の施設
- 5 博物館教育普及活動の概要

II 学校連携……………9

- 1 学校団体受入要項
- 2 「民具体験学習」の概要
- 3 「民具体験学習」の実施状況
- 4 「民具体験学習」のあゆみ
おもろまち新館 平成22年～平成28年度
- 学校配布資料（民具体験学習）
- 5 「出前授業等」の実施要項
- 6 「出前授業等」の実施状況

III 博物館体験学習教室……………25

- 1 体験学習教室の実施要項
- 2 体験学習教室の実施状況
- 3 体験学習教室のあゆみ
首里旧館 平成5年～平成17年度
おもろまち新館 平成19年～平成28年度

IV 博物館文化講座……………34

- 1 文化講座の実施要項
- 2 文化講座の実施状況
- 3 文化講座のあゆみ
昭和49年～平成17年度
おもろまち新館 平成19年～平成28年度

V 博物館学芸員講座……………58

- 1 学芸員講座の実施要項
- 2 学芸員講座の実施状況
- 3 学芸員講座のあゆみ
おもろまち新館 平成20年～平成28年度

VI 博物館常設展示解説会……………67

- 1 展示解説会の実施要項
- 2 展示解説会の実施状況

VII バックヤードツアー……………68

- 1 バックヤードツアーの実施要項
- 2 バックヤードツアーの実施状況

VIII 夏休みこどもフェスタ 2017…70

博物館学芸員教室

- 1 学芸員教室の実施要項
- 2 学芸員教室の実施状況
- 3 学芸員教室のあゆみ
おもろまち新館 平成23年～平成28年度

IX ふれあい体験室……………75

- 1 ふれあい体験室の概要
- 2 体験キットの種類
- 3 体験キットの補助ツール
- 4 スタッフの配置状況
- 5 利用者状況
- 6 ふれあい体験室の取組み

X ボランティア養成事業……………85

- 1 ボランティア養成事業の概要
- 2 ボランティア養成事業の実施状況
- 3 「ふれあい体験室専属ボランティア」
養成講座の実施要項

- 4 「総合展示部門解説ガイドボランティア」
養成講座の実施要項
- 5 『総合展示部門解説ガイドマニュアル』
- ボランティア配布資料
(ボランティアのてびき、ボランティア通信)

XI その他……………118

- 1 移動展
- 2 フリーパス
- 3 職場体験
- 4 教育普及資料の貸出し
- 5 ボランティアによる展示ガイド
- 6 企画展・特別展関連事業
- 7 常設展に関する取組み
- 8 新聞・雑誌等掲載一覧
- 9 印刷物一覧

I 博物館活動について

1 はじめに

博物館は、調査研究、展示、教育普及、保存管理の四つを館活動の車輪としている。それら車輪を機能させるために館は次の四つのスタンスに基づいた活動を構築していく。

- ・琉球王国時代の文化(王朝文化)を体系化し、現在につなげる視点からの活動。
- ・人類学に代表されるような、沖縄の特性を生かし、沖縄の優位性を発信する調査研究の推進。
- ・沖縄の自然、歴史、文化の独自性を発信。
- ・博物館が動き、観覧者が動く博物館活動の展開。

2 博物館活動（四つの車輪）

<p>◎<u>調査活動</u></p>	<p>沖縄に関する資料や関連資料は、本県の海洋性・島嶼性の地理的要因により日本や中国、東南アジア諸国までその範囲を広げている。そこで本県の豊かな自然や独自の歴史・文化に関する資料を自然史、考古、歴史、美術工芸、民俗の5分野で探求し、体系的に調査研究し、資料の充実を図る。</p> <p>また、各研究機関や大学と共同で調査研究を行い、沖縄が持つ特性や優位性を発揮できるよう努める。</p>
<p>◎<u>展示活動</u></p>	<p>展示は資料を公開することだが、その資料が持っている背景や意味も重要になる。学芸員の展示活動は、この資料が持つ意味をできるだけ詳細に分析し、得られた成果を展示等に活かすことである。</p> <p>展示の形は、郷土を紹介する基本的な展示の常設展、ある特定のテーマで開催される特別展・企画展、そして各島々で開催される移動展は、島嶼県である本県の特徴的な展示活動である。</p>
<p>◎<u>教育普及活動</u></p>	<p>博物館が持つ知的財産を一般に提供する手段として普及活動がある。学校などの教育機関や関連施設と連携協力（ネットワーク化）を推進し、教育的配慮のもと様々な方法をもって県民共有の財産としていく。また、博物館活動を活性化するためには、県民の積極的な参画が必要である。そのため「博物館ボランティア養成」を行い活動を推進している。</p> <p>博物館では、県内の文化講座で草分け的存在である「博物館文化講座」や「学芸員講座」、「体験学習教室」等を実施、遊びながら学べる「ふれあい体験室」も普及事業を担っている。</p>
<p>◎<u>保存管理</u></p>	<p>博物館資料は、産地、用途、製作年、材質、大きさ等の違いにより、その種類は多岐に涉っている。これら博物館資料は、材質別・性質別に区分され、適切な温度・湿度や虫害などの対応ができるような環境で保存・管理され良好な状態で次世代へ引き継ぐ。また、資料の管理状況が把握できるようなデータベース化を進めている。</p>

3 博物館の機能

博物館はその名の通り、様々な資料を収蔵している施設である。資料は収蔵されるだけでなく、できるだけ長くきれいな状態を維持するために整理・保存していく。しかし、保管しているだけではなく、調査研究により、いつ・誰が・どこで・何のために作ったかを解明し、皆様へ紹介していく。資料は、展示や講座、論文、インターネットなどにいろいろな媒体を通して、県民の知的財産として蓄積されていく。

いつでも誰でもが利用できるようにするために、博物館にはいろいろな機能がある。

◎資料を保存する収蔵庫

博物館には、自然史・化石・特別（歴史・美工・民俗）・考古陶磁器・民俗・大型収蔵庫が設置され、それぞれの収蔵庫で、温度や湿度そして害虫などから資料を保護する。

◎資料を公開する展示室

博物館には、総合展示室・部門展示室・屋外展示・ふれあい体験室が配され、常設の展示を行っており、特別・企画展示室では、期間を限定して沖縄をはじめ、国内外の自然・歴史・文化に関する展示会が開催される。

◎学習する場としての展示室、講座室

博物館は、「沖縄」について知り、そして将来の沖縄像を考える場所である。郷土学習に利用できる資料が分かりやすく展示されている。また講演や体験を通して学習を行う講座室等がある。

◎資料を研究する学芸員研究室

博物館資料に関するあらゆる調査・研究は、学芸員研究室を中心に行われる。6分野の学芸員が各々または共同で、様々なテーマに取り組む。ここで蓄積された研究成果は、研究資料室や情報センターに保管され、展示会や講演会などで公開される。また、博物館紀要論文はHPで公開される。

◎博物館を管理する諸室

博物館の電気、空調施設などを管理するための機械室や、館を運営している職員が事務を行うための部屋がある。

4 博物館の施設

(1) 常設展示

常設展示のメインテーマは、「海と島に生きる～豊かさ、美しさ、平和を求めて～」である。

沖縄は、立地・環境的に「海洋性」と「島嶼性」という特性を持ち、そこに住む人々は絶えず「豊かさ」と「平穏」を求め続けてきた歴史がある。その風土、自然のなかで育んできた歴史、文化を人類史・自然史の流れの中で位置付け、普遍的に海と島に生きていくことをメインテーマとしている。

その展示構成は、沖縄の歴史を時間で追いながら自由動線で観覧することのできる「総合展示」と、自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの「部門展示」に分かれる。

< 総合展示 >

「総合展示」は、次の10のテーマで、琉球列島の生い立ちから現代までの約2万年にわたる沖縄の歴史をたどる。中国や日本の文化を取り入れながら、独特の文化を創造してきた琉球王国の時代、王国解体後の近代化する沖縄、現在の沖縄までを紹介する。

「ニライカナイの彼方から」・「シマの自然と暮らし」・「海で結ばれた人々」・「貝塚のムラから琉球王国へ」・「王国の繁栄」・「薩摩侵攻と琉球王国」・「王国の衰亡」・「沖縄の近代」・「戦後の沖縄」・「沖縄の今、そして未来へ」の順に展示を観ることができる。中央に配した「シマの自然と暮らし」のエリアでは、沖縄の「海洋性」・「島嶼性」を大型地形模型によって実感することができる。また、情報端末機で島ごとに異なる表情を持った自然やくらしなどを調べることができる。

< 部門展示 >

「部門展示」は、総合展示を取り巻く展示である。自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの部門展示室では、収蔵資料を活用しながら、各分野のテーマをより深め、展示替えの頻度を高める展示を目指す。

自然史部門展示

「生物が語る沖縄2億年」をテーマに島の成り立ちや、島々で独特の進化をとげた生き物の世界を展示する。自然観察コーナーでは、顕微鏡で化石や昆虫、岩石の破片、植物標本などを見ることができる。

考古部門展示

「沖縄考古学の世界」と題し、沖縄考古学のこれまでの成果と課題を示しながら、「沖縄考古学」を体系的に学び、古の人々の生活を追体験することができる。

美術工芸部門展示

美術工芸部門展示では、「琉球の美」を求める。琉球王国時代、それ以降の染織品、焼物、漆芸品などの工芸品や絵画、彫刻、書跡などの逸品をゆったり鑑賞することができる。1年に数回テーマを変え、様々な美術工芸の世界を通し、「琉球の美」を追求する。

歴史部門展示

「モノから読む沖縄の歴史」とし、歴史の中で産出された様々な「モノ」資料を通して、その資料のもつ時代的な意味を解き明かしていく。展示室内の一角では「那覇港」をテーマに、近世に製作された屏風絵の世界から、そこで暮らした人々の息づかい、ひいては歴史的、文化的意味を紐解いていく。

民俗部門展示

民俗部門展示のテーマは「沖縄の伝統と暮らし」である。民俗の宝庫といわれる沖縄の様々な生活シーンの中で創造されてきた民具や信仰などを通して、戦前から伝わる沖縄の民俗世界を追体験することができる。また、現代に息づく民俗の変容した姿を紹介する。

(2) 屋外展示

高倉	高倉は、穀物を貯蔵する倉庫である。床を上げて風通しを良くし、湿気やネズミの害を防ぐ工夫がなされている。構造の違いにより、「沖縄式」と「奄美式」に分かれる。この高倉は、昭和初期に建てられたものを、昭和 51 年（1976）に奄美から移築した。
民家	沖縄の伝統的な民家は、高温多湿の気候風土に適した構造をしている。門扉が無く、母屋も雨戸を全開にして風を通す。また、母屋の正面にあるヒンプン（中垣）は、外部への目隠しとなる。この建物は、資料としてのみならず、講座や多種イベントの際にも会場の一部として活用されており、平時も靴を脱いでの内覧も可能となっている。
湧田窯	湧田窯は 17 世紀頃の窯跡で、平窯の構造が特徴である。主に、屋根瓦を焼いた窯である。琉球・沖縄の焼き物の歴史を考える上で貴重な資料である。

(3) ふれあい体験室

博物館常設展示室の手前にある「ふれあい体験室」には、43 種類の体験キットが準備されている。これらは展示と関連しており、展示資料を深く理解できるように工夫されている。キットは、パズルのように組み立てるものなど、操作することによって、より理解が深まる仕組みとなっており、体験することで五感を通して沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」にふれることができる。

(詳細については「IX ふれあい体験室」を参照)

(4) 情報センター

情報センターは博物館・美術館の共用施設として、閲覧・検索用の座席を 38 席設けた情報提供のための部屋である。博物館の収蔵資料の検索や、DVD やビデオの視聴ができる。また、沖縄の自然、歴史、文化、美術等に関する専門図書、地方出版図書も配架され、来館者の調べ学習に対応できる。

(5) 講堂・講座室等

講 堂	講演会、シンポジウム、映画上演などを行うことができる。 212 席(車いす 2 人含む)の収容が可能。
講座室	100 名規模の講演会や会議などを開催できる。 机と椅子を撤去すると、小学生 150 名程度の集会在可能。
実習室	体験学習や実技講習会などを開催できる。 40 名程度の収容が可能。

(6) 救護室

来館中における、軽度の気分不良の際には、休憩をとることが可能である。(ベット数 1 台)

(7) 駐車場

一般車両 140 台（身障者用 4 台含）、バス 10 台が駐車可能である。
特別支援学校などの大型車両を横付けできるように、庇付きの玄関を用意してある。
また、盲導犬のトイレを駐車場側と公園側に整備してある。

(8) コインロッカー

百円が返金される、無料のコインロッカーが 204 本準備されている。大きな荷物を持参する際は、他の観覧者に迷惑にならないよう、手荷物を預けてからの入館をお願いしたい。

(9) バリアフリー

博物館・美術館は、不特定多数の人々が利用するため、誰でも安全に利用しやすい施設にする必要があることから、以下のような整備を行っている。

- 観覧者が利用するトイレには、車イス使用者や乳児連れ、オストメイトに対応した機能を設けている。
- 講堂や講座室に磁気誘導ループを設置して難聴者をサポートしている。
- 館入口に音声誘導装置を設置して視覚障害者をサポートしている。
- 車イスや使用者駐車スペースには、雨天時の乗降に考慮して雨よけを設置している。
- 道路や公園からの主な敷地通路に誘導ブロックを設け、総合案内まで連続して敷設している。
- 高齢者や体の弱い人がゆっくり観賞できるように、展示室内に休憩室や椅子を準備している。
- 案内表示は日本語と英語の 2ヶ国語表示としている。

(10) 環境への配慮

■太陽光発電システムの導入

環境負担の低減と電気量の節約を図るため、10kw程度の太陽光発電装置を設置している。

■雨水及び再生水の有効利用

地下に雨水タンクを設けて、トイレ洗浄水や灌水に利用している。

■夜間電力を利用した氷蓄熱方式空調設備の導入

夜間の安価な電力で作った氷を館内の冷房に利用することにより割高な昼間電力の増加を抑えている。

■総合的有害生物管理（IPM：Integrated Pest Management）施設

博物館・美術館では、有害生物（虫・菌等）から文化財を保護するために IPM を行っている。IPM は、施設を取り巻く環境状況や有害生物の繁殖などの動きを考慮して、生物的防除、科学的・物理的防除を組み合わせることで、虫菌害を抑える管理方法である。

博物館を利用する方には、館内への飲み物、食べ物の持ち込みをご遠慮いただいている。遠足等の行事の際にも、荷物を車で管理する等の配慮をお願いしたい。

5 博物館教育普及活動の概要

(1) 教育普及事業のあゆみ

- ・昭和 49 年 (1974)、博物館機構図の中に「教育普及係」が盛り込まれ (※1)、昭和 52 年 (1977) には「学芸係」と「教育普及係」の 2 係が設置された (※2)。その後、昭和 60 年 (1985) 「教育普及課」 (※3) として平成 18 年 (2006) まで活動する。
- ・平成 19 年 (2007)、「学芸課」と「教育普及課」を「博物館班 教育普及担当」に統合し、現在に至る。
- ・平成 19 年より、「文化の杜 共同企業体」(指定管理) の教育普及担当と協働して活動を展開する。平成 28 年度 (2016) からは、「(一般) 沖縄美ら島財団」(指定管理) の教育普及担当と協働し活動を展開し、現在に至る。

※1 参照『人にやさしい博物館をめざして～沖縄県立博物館のこれから～』前田 真之

※2 参照『沖縄県立博物館 50 年史』

※3 参照『沖縄県立博物館年報 No.19 1986』

(2) 教育普及活動について

博物館の教育普及活動は、大きく 2 つの事業に分けることができる。1 つ目は、学校の計画する授業・行事等で博物館を活用する際に支援する「学校連携事業」である。2 つ目は、博物館が企画運営する「文化講座」、「体験学習教室」、「ボランティア養成」等の事業である。それ以外にも、博物館を通して教育普及に関する全般的な活動にも取り組んでいる。

①学校連携事業 「学校連携モデル研究事業」

学校連携事業では、各学校の計画による団体観覧の支援で、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館として支援することのできる学習内容の調整を行った。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成した。

<今年度の取り組み>

■平成 29 年 4 月に「博物館施設ご利用の皆様へ」及び別紙にて「出前授業等」実施要項を作成し、沖縄県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援校に配布した。

■平成 29 年 8 月 2 日に県内教職員向け (小学校) 講座を行い、博物館資料を活用した授業プログラムの講習会を開催した。また昨年度に引き続き、出前授業等、民具体験などの「館内学習プログラム」の充実を図るほか、「学校連携モデル研究事業」として、県内 5 箇所モデル校設置に向けての調査・応募を行った。

※事業は平成 32 年度 (2020) まで

②文化講座

博物館の展示内容と関連する各分野 (自然史・考古・歴史・美術工芸・民俗) の講演、シンポジウム、実演によっては、講演後に関連した展示場所での担当学芸員による展示解説を行う等、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施した。

③学芸員講座

博物館の学芸員が、研究成果や収蔵品の成果等の講演や展示解説などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施した。各分野の学芸員の充実した講話は、博物館をより身近に捉え、観覧者の層を拡大する大切な役割を担った。

④展示解説会

博物館の展示内容に関する資料などの解説を、学芸員の広い視点からわかり易く解説した。当館における展示資料がどのようなねらいのもと、それぞれの展示室に設置されているかを理解し、総合博物館ならではの資料のつながりを知る機会とした。

⑤体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵などを学ぶ機会とした。博物館の各分野（自然史・考古・歴史・美術工芸・民俗）の展示や企画展等と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供した。

⑥バックヤードツアー

博物館のもつ、調査・研究・保存の各機能を担う諸室の見学を実施した。普段は、入ることの出来ない収蔵庫やトラックヤードなどの機能を理解し、博物館についてより知ってもらおう機会とした。

⑦夏休み子どもフェスタ～博物館学芸員教室～

学芸員が、夏休み休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究の導入となる内容を検討し、体験型の教室を開催した。可能な限り博物館の情報を提供するなど郷土への興味・関心を高める場を提供した。

⑧ボランティア養成講座

博物館では、県民の自己啓発や学習発表の場の提供を行うと共に、博物館支援活動を目的とした「博物館ボランティア」を導入している。

平成 29 年度（2017）は、土・日・祝日のみ活動できる、ふれあい体験室専属ボランティアを募集し、3 名のふれあい体験室専属ボランティア員の登録ができた。博物館ボランティアと合わせ総勢 79 名のボランティアが登録している。

⑨その他

■フリーパス

県内の各小中学校に、施設を身近に感じてもらい、より多く来館してもらうために、フリーパスの制度を取り入れている。「ふれあい体験室」や博物館・美術館双方の常設展や特別展、企画展などに訪れた時に総合案内に提示すると、スタンプを押してもらうことができる。30 ポイント貯まると県立博物館・美術館オリジナルの景品をプレゼントが当たる。

■移動展

普段、当館に足を運ぶことのできない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、博物館資料や美術作品を観賞する機会を提供した。今年度は、北大東島で開催した。

■教育普及資料貸出

今年度は、教育機関へ12件貸出した。

II 学校連携

1 学校団体受入要項

(博物館施設の学校団体見学・体験学習・校内研修等の利用について)

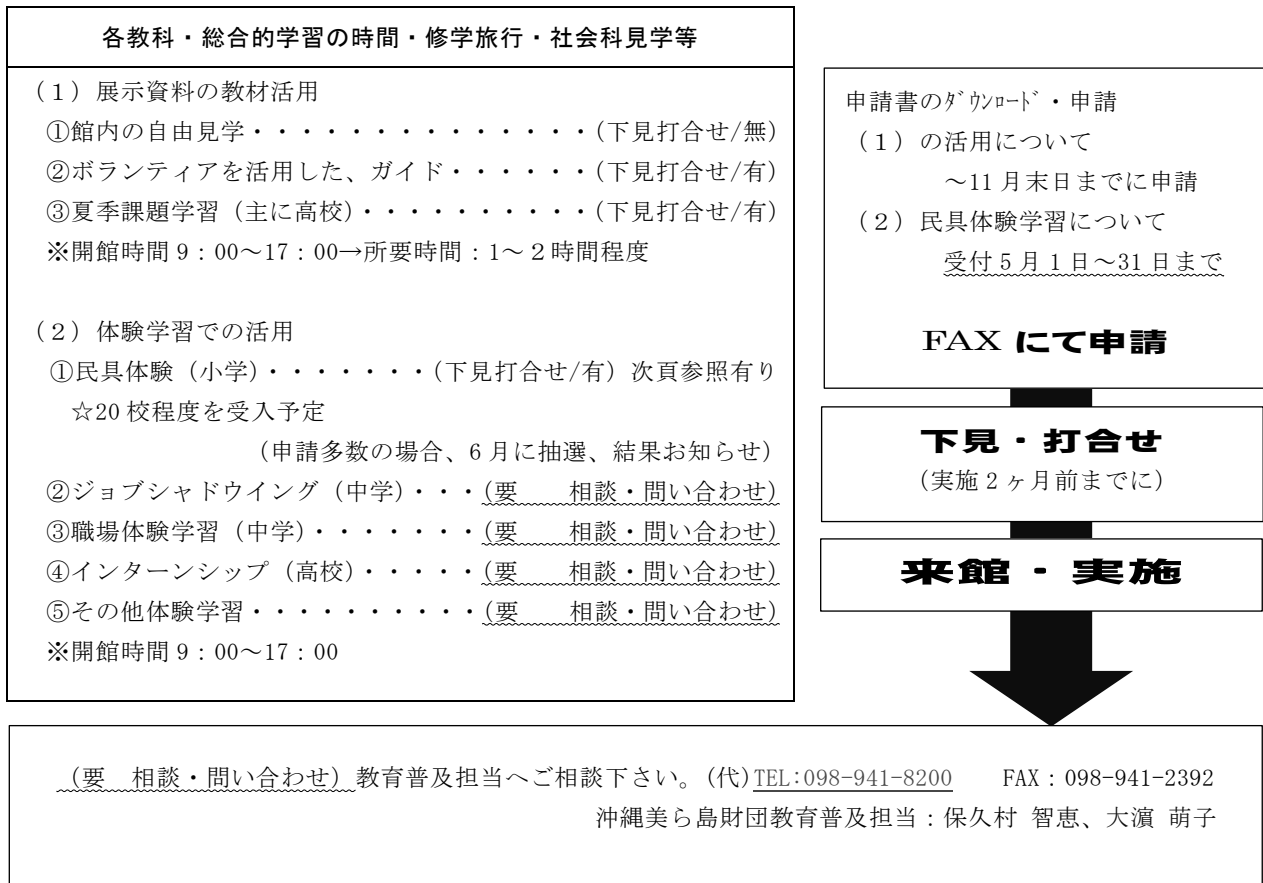
(1) ねらい

- ①博物館への学校団体をはじめとする入館者の増加を図る。
- ②博物館における団体受入を計画的に準備し、運営を行う。
- ③博物館を利用する学校団体に、博物館来館を年間計画の中に位置づけてもらうことにより、計画的な学習支援を行う。

(2) 博物館施設についての、申請から利用までの流れ

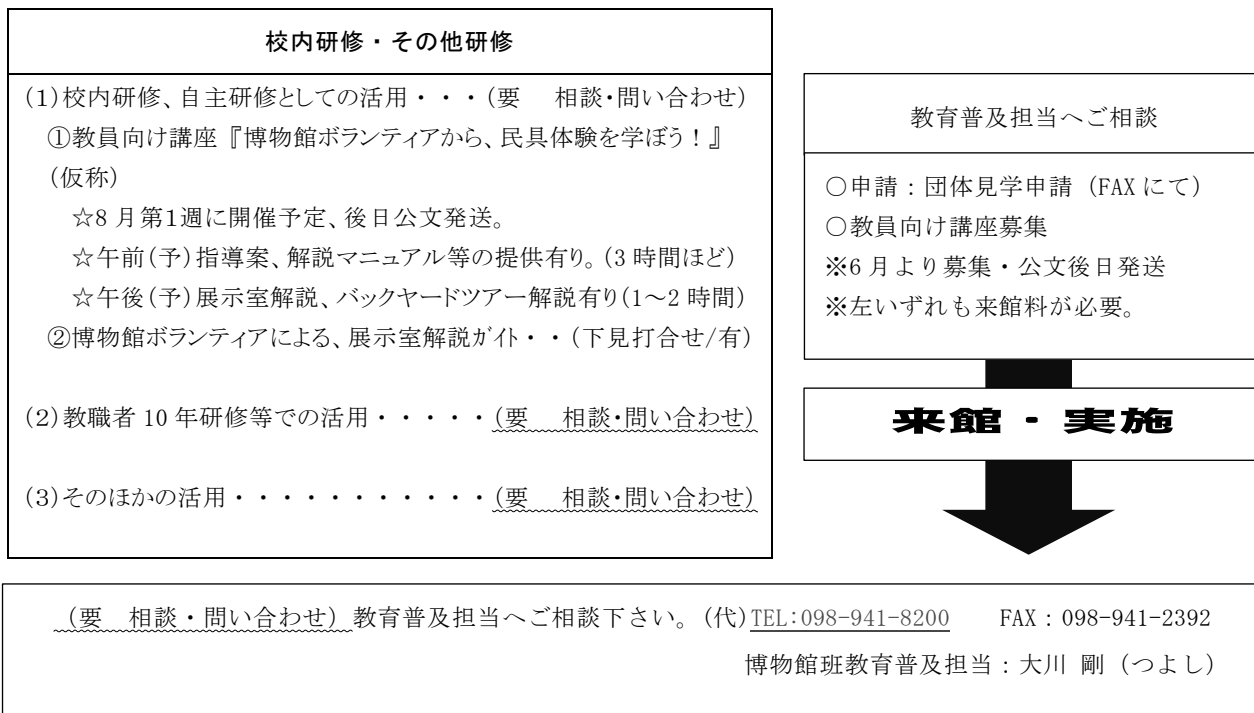
①「体験学習に係る利用の流れ」

県内 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校



②「教職員・職場内研修に係る利用の流れ」

県内 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

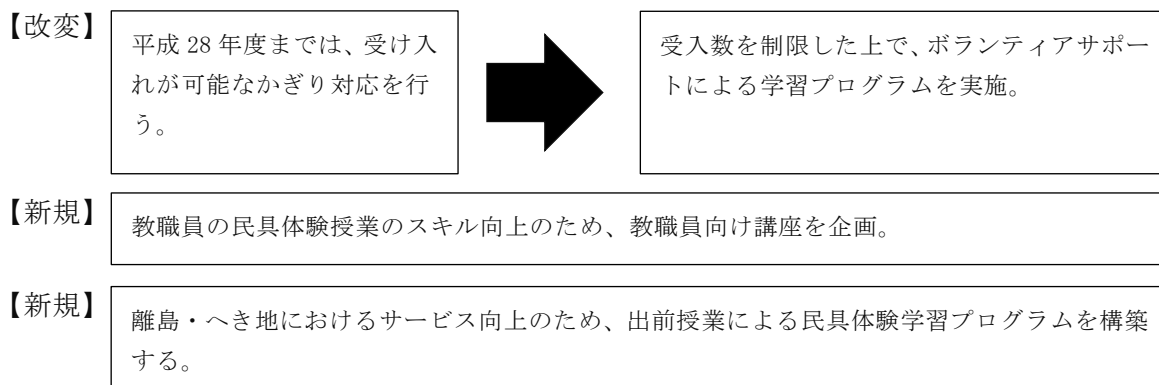


2 「民具体験学習」の概要

(1) プログラムの改変および新規取組について

平成28年度(2016)はボランティアのサポートがある民具体験学習プログラムを30校余り受け入れた。しかし県内各校から受入増加の要望がある中で、各校のニーズに対するボランティアの協力体制(ハード供給)に課題が見られた。そこで、平成29年度(2017)からは民具体験学習プログラムの見直しを図り改変を行った。

○民具体験学習プログラム取組の改変点・新規プログラムの構築(平成29年度から)



(2) 平成 29 年度の民具体験学習プログラムの詳細

民具体験学習プログラムの詳細については、次のプログラム 1～3 を設定した。

【民具体験学習プログラム 1】 ボランティアサポートあり

- ・ 4 月にボランティアサポートによる民具体験受入に係る実施要項を県内配布し、受入期日を指定した上で募集を行った（募集期間 5 月末日）。
- ・ 募集の中から抽選で受入校を決定し、主に夏休み期間中に下見と打合せを行い、プログラム内容の決定を行った。
- ・ プログラム決定後、ボランティアの募集を行い、館内施設を活用し当日のプログラムに臨んだ。

【民具体験学習プログラム 2】 教師主導による授業活用

- ・ 夏休みにおける教職員向け講座を企画し、6 月に県内各小学校・特別支援学校へ実施要項を配布し募集を行った。
- ・ 参加者（20 名）に民具体験学習プログラムに係るマニュアル書を配布し、博物館ボランティアサポートの下、館内施設を活用し講習会を行った。

【民具体験学習プログラム 3】 学校への出前授業

- ・ 出前授業への要望があった学校には申請を行ってもらい、現地校での打ち合わせを行ってプログラム内容の決定を行った。
- ・ プログラム決定後、ボランティアの募集を行い、当日のプログラムに臨んだ。
- ・ 平成 29 年度はプログラム構築のための試験運用として、沖縄本島内学校への出前授業を実施した。



ボランティア員によるサポートのもと、
受入校の体験学習が行われた



教職員向け講座の様子



出前授業の様子

3 「民具体験学習」の実施状況

項目	期日	実践校
民具体験学習プログラム1 (ボランティアサポートあり) 全20校	11月8日(水) 11月10日(金) 11月14日(火) 11月24日(金) 11月29日(水) 11月30日(木) 12月5日(火) 12月6日(水) 12月8日(金) 1月10日(水) 1月12日(金) 1月16日(火) 1月18日(木) 1月24日(水) 1月26日(金) 2月1日(木) 2月2日(金) 2月7日(水) 2月8日(木) 3月1日(木)	□糸満市立光洋小学校3学年3クラス103名 □那覇市立泊小学校3学年4クラス128名 □糸満市立兼城小学校3学年4クラス113名 □豊見城市立ゆたか小学校4学年3クラス87名 □那覇市立城南小学校3学年2クラス62名 □那覇市立識名小学校3学年3クラス112名 □那覇市立真嘉比小学校3学年3クラス99名 □那覇市立金城小学校3学年4クラス128名 □那覇市立城東小学校3学年3クラス102名 □那覇市立垣花小学校3学年1クラス39名 □豊見城市立座安小学校3学年3クラス81名 □那覇市立安謝小学校3学年3クラス101名 □那覇市立小禄小学校3学年2クラス72名 □那覇市立さつき小学校3学年3クラス194名 □那覇市立曙小学校3学年2クラス48名 □浦添市立前田小学校3学年2クラス76名 □那覇市立上間小学校3学年3クラス100名 □那覇市立銘苺小学校3学年4クラス149名 □那覇市立城岳小学校3学年3クラス77名 □那覇市立大道小学校3学年1クラス39名
民具体験学習プログラム2 (教師主導による授業活用) 全6校	9月8日(金) 10月5日(木) 10月27日(金) 11月17日(金) 11月14日(木) 1月19日(金) 1月31日(水)	■浦添市立浦添小学校3学年3クラス104名 ■南城市立大里北小学校3学年2クラス43名 ■糸満市立潮平小学校3学年4クラス117名 ■豊見城市立とよみ小学校3学年3クラス115名 ■那覇市立小禄南小学校3学年114名 ■那覇市立若狭小学校3学年2クラス52名 ■那覇市立開南小学校3学年3クラス76名
民具体験学習プログラム3 (学校への出前授業) 全3校	10月19日(木) 1月19日(金)	○南城市立玉城小学校3学年2クラス58名 ○浦添市立神森小学校3学年3クラス111名
	合計(校)	29

4 「民具体験学習」のあゆみ

民具体験学習プログラムは、平成 22 年度（2011）から実施された。対象は小学校 3・4 学年社会科『昔の道具とくらし』及び総合的学習の時間における、郷土学習を目的として実践を行っている。

おもろまち新館 平成 22 年～平成 28 年度（2011～2017）

民具体験学習の受入 学年は全て小学校

年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
3 学年	1	18	23	33	36	30	30
4 学年	26	25	3	1	1	0	0
5 学年	0	0	0	0	1	0	0
6 学年	0	1	0	0	0	0	0
計	27	44	26	34	38	30	30

※H23 年度 3・4 学年複式学級 2 校対応のため、それぞれの学年に延べ数としてカウント

※H24 年度 3・4 学年複式学級 1 校対応のため、それぞれの学年に延べ数としてカウント

※H25 年度 3・4 学年複式学級 1 校対応のため、それぞれの学年に延べ数としてカウント



運搬の道具（魚）体験の様子



運搬の道具（薪）体験の様子



運搬の道具（水）体験の様子



洗濯の道具体験の様子



着衣の道具体験の様子



展示室（台所周辺）解説の様子



展示室（田んぼ）解説の様子



展示室（畑）解説の様子



展示室（海）解説の様子



沖縄県立博物館・美術館利用にあたって

～先生方へのお願いと確認～

博物館教育普及

●博物館を利用して学ぶ

1 はじめに

博物館では、子どもから大人まで、生涯学習の一環として楽しく学ぶことができます。また、学校としての利用では“モノ”を通して、総合的で広がりのある学習内容を構成することが可能です。

博物館の各展示室では、沖縄の自然・歴史・文化について理解を深めることができます。さらに地域について理解を深めることは、県民にとって、将来について考える場ともなり、郷土に対する自信と誇りを持つことへ結びつけることもできるでしょう。

2 学校が利用する場合

【下見の前半】 情報センターにて

(1) 日程の調整

- ① 施設の予約・日程調整等は情報センターで行います。
- ② 施設の下見から学習内容の調整を、博物館教育普及担当とともに行います。
- ③ 沖縄県立博物館・美術館は、指定管理者（沖縄美ら島財団）が館の管理運営を行います。
観覧当日の対応は、指定管理者がボランティア員を活用し対応します。

(2) 博物館下見、打合せ

- ① 来館日、来館時間、クラス(生徒)数、当日の日程、引率者など申請書の確認
- ② 博物館利用にあたってのマナー確認
○観覧マナーについて
「博物館での見学マナー」を児童生徒に、事前に指導しておいて下さい。 ＊コピー可
- ③ 学習のねらい（めあて）の確認（なぜ博物館を利用するのか？）
- ④ 学習の展開方法（学習形態等）の確認（体験内容・学習方法・ボランティア活用・保護者協力など）
- ⑤ 筆記の際の支え（探検バッグ・ファイル）や持ち物（水筒・カメラなど）の確認
- ⑥ 博物館への飲食物持込みは禁止されています。〈IPMの考え方により〉
＊博物館では、IPMの考え方から、環境にやさしい施設を目指しております。
飲み物や食べ物の館内持込みはご遠慮ください。
遠足時の行事の際にも、荷物を車で管理するなど配慮をお願いします。

(3) 博物館を利用した授業の、学習計画を考えます

- ＊授業の導入での活用、展開で活用、まとめで活用するのか？
- ① 博物館からの情報提供をもとに、学校主体で学習計画案を作成します。
 - ② 見学の順路や学習時間の配分は、博物館からも案を提供します。
 - ③ 学習形態によっては、グループや個人の調べ学習への対応も考慮します。
 - ④ 博物館利用のマナーについて、授業計画に入れて下さい。
 - ⑤ 保護者引率の場合、事前に学習内容と役目等の説明を、学校側で行って下さい。
 - ⑥ ボランティア員への協力要請は、学習プログラム決定後に行います。
(ボランティア員に連絡を入れます。急な変更には対応できません)

☆引率の先生が校外で行う授業です。免許を持たないボランティアは授業を行えません。
先生が、見学者やカメラマンにならないようにお願いします！

(4) ボランティアの各係について

ーボランティア員ー

博物館では、学校からの団体観覧をよりきめ細かに支援するために、ボランティア員を養成しています。現在は①誘導ボランティア ②展示ガイドボランティア ③体験サポートボランティア があります。博物館ボランティアによる支援

① 誘導ボランティア

博物館の展示では、総合展示と、総合展示の周りに配置された部門展示室があります。広くて他の観覧者の多い展示室の中で、児童生徒を学級別に集団を保ちながら行動する場合に、

案内人が必要となります。誘導ボランティア員は、学級の前後で学級担任の**補助**をする支援活動です。



② 展示ガイドボランティア

展示室における資料の解説は、ボランティアが行っており、

解説ポイントをふまえ、**学校側から依頼**することができます。

ただし、全ての要望には応じられないこともご了承ください。
*ワークシートの活用について（答え合わせの為の展示ガイドにならないようにお願いします）。



③ 体験サポートボランティア

博物館での民具体験学習では、社会科の学習内容に対応した内容を推進しています。

体験内容には、**運搬**に関する体験、**洗濯**体験、**着衣等**の昔の暮らしの体験があります。

この体験では、各体験のサポートを博物館ボランティアが中心に行います

(教員や保護者の引率者の参加協力)をお願いします。



【下見の後半】 常設展示室、体験場所にて

- 学習に必要な展示資料や以下の施設を確認します。
トイレ、集合場所、展示室、実習室、講座室、屋外等

3 当日の学習プログラムの流れ

	プログラム内容	先生方がやるべきこと
1 到着	入館（博物館到着）	☆入館した際、トイレを先に使用してから、オリエンテーション会場に入ります。 ☆チケットは、主任の先生が「チケット売場」で、まとめて受取っておいて下さい。（欠席分は引く）
2 開始前	選択1：A：オリエンテーション （児童向けのオリエンテーション約 15 分）	☆先生とボランティア員とのミーティング ＊学習プログラムの確認、生徒の様子など申し送りなどを行います。
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A：オリエンテーション時、先生がボランティアと打合せを行っているあいだ児童は、このようなことをしています。</p> <p>ア マナーを含めた映像を準備しています。</p> <p>イ 本時の「ねらい」の確認</p> <p>ウ ボランティア紹介</p> </div>	児童管理は、博物館側が行います。
	選択2：B：民具の素材解説 （児童向け民具の素材について解説 15 分）	
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>B：解説時、先生がボランティアと打合せを行っているあいだ児童は、このようなことをしています。</p> <p>ア 昔の民具の素材紹介（アダン・クバ・竹など）</p> <p>イ 本時の「ねらい」の確認</p> <p>ウ ボランティア紹介</p> </div>	児童管理は、博物館側が行います。
3 体験活動	体験活動 （1）民具体験 ①時間により、体験数に制限あり ②体験内容は、選択制で以下のとおり 1）運搬に関する道具（バキ・ガソ・ティル） 2）運搬に関する道具（オダ・担ぎ棒） 3）運搬に関する道具（タグ・担ぎ棒） 4）洗濯に関する道具（洗濯板・タレ） 5）着衣に関する道具（カガサ・カヌ・アガガ） （2）展示解説（必要に応じて体験） ①展示室にて解説あり ②体験内容は、選択制で以下のとおり 1）田んぼの道具 2）畑の道具 3）海の道具 } うち2つを選択 （3）ふれあい体験室（必要に応じて体験） ①体験キットに触れて遊びながら体験 ②諸用時間は 10～15 分が一般的でした（昨年度参照）	（1）民具体験引率 ①事前に、子どもたちを少人数に編成。 ②グループは、1・2・3・4班など、数字で。 ※ボランティアの混乱を防ぐため、必須です！ ③事前に子どもたちの体験順序をしっかりと把握してして下さい。 （2）展示解説引率 ①展示室内は、写真撮影 OK だが、フラッシュは NG です。（資料保護のため） ②事前配布の資料をもとに、事前学習をおこなって下さい。 （3）ふれあい体験室児童管理 ①児童の管理は、担任の先生方で。 ②誘導ボランティアは、担任に退出時間をお知らせするのみです。
4 まとめ	（1）まとめの集会（実習室編） ①児童から感想等発表 ②ボランティアへの感謝のことば （2）まとめ（時間設定がない場合） ①終了した体験場所にて、児童感想 ②感謝のことば（その場にいるボラへ）	（1）進行は、いずれの場合も学校の先生方、あるいは児童主体で行って下さい。 （2）帰宅後の忘れ物がないようにお願いします。 （3）今後の改善のため、アンケートへの回答（メール）のご協力をお願いします。

4 学習プログラムの組み立てについて

学習プログラム・・・学校が団体で博物館を利用する際に、学習内容等を組立てた計画

- (1) 学習プログラムは、博物館来館に際しての目標、順路、学習の展開などを、学校の実態に合わせて編制します。
- (2) 学習プログラムの企画調整は、県職員が行い、当日の運営は、指定管理者が行います。
- (3) プログラムに必要な施設利用の申請は、学校から指定管理者に対して行います。
⇒申し込みの際に、情報センターとの調整になります。
- (4) 学習プログラムの作成は、学校が主体となり、博物館はそれを補助します。
- (5) 実施計画は、当日の天候や渋滞等により、遅れなどといった学校の状況の変化によって、又は博物館ボランティアスタッフの状況によっては、変更される場合もあります。
- (6) 学校が博物館を教科単元の時間に活用する場合や、学校行事、サークル活動などさまざまなニーズに応じた学習内容を、学校の職員とともに作成します。
- (7) 教育普及担当との調整では、過去の計画案や展示資料の紹介などを行います。
- (8) 教員・保護者(協力者)の博物館での役割配置は、協議しながら決めていきます。
- (9) 先生方と行う下見調整は、プログラムの作成のために実施します。

5 ワークシートについて

- (1) 学習のねらいをはっきりとさせましょう!
*本時のねらいは? ・授業の導入、展開、まとめとしての見学なのか?
*博物館のホームページを確認して下さい「博物館学習ノート」がダウンロードできます
- (2) 「博物館学習ノート」を活用し、生徒の実態に合わせた問題構成を考えましょう。
- (3) ワークシートは1コーナーにつき1・2問にし、あとは、感想・気づいたことや気にいったものが記入できるようにしておくといいでしょう。1問につき回答時間はおよそ15~30分前後かかります。
- (4) ワークシートは記入欄を多くすると、生徒が説明を聞かず、記入することに集中してしまいます。
*博物館では収蔵品を観ること、ガイドの話を聞くことが大切です。
*当日は見学に専念し、学校で振り返り学習することも考えられます。



『アム』と『みゅー爺』

博物館を利用した 民具体験学習について

○小学校3年生社会科 「昔の道具を体験しよう」「きょうどしりょう館をたずねて」

- ・地域に残る古い道具について ~ 知る・ふれる(感じる)・考える・調べる
- ・昔の道具の使われ方(当時の暮らしの様子、生活の変化) ~ 考える、調べる

*児童の実態に合わせて選択、授業を組立てる
~引率の先生が(博物館で)行う授業です!

★博物館が提供できるメニュー

オリエンテーションとA:映像の視聴

= (日本民藝館制作。昭和14年頃の那覇の市場などの風景。モノクロ映像)

*博物館利用のオリエンテーションと合わせて 20分間

*先生はこの時間、ボランティアとのミーティングを行いません。

*70年程前の沖縄の風景や生活の様子が出てきます。くらしの変容を考えさせます。

B:民具解説 (民具の名前や素材、使用方法を子どもたちとのやり取りで学ばせます)

15分間

C:民具体験 * ペアで行動。グループ単位で、ローテーションで体験学習をする。

- 1) 運搬に関する道具=
(魚や作物の
運搬等で使用)



- 2) 運搬に関する道具=
(薪の運搬等で使用)

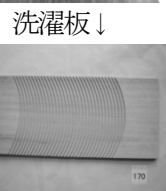


2)、3)で使用

- 3) 運搬に関する道具=
(井戸水の運搬で使用)

ターグ →

- 4) 洗濯に関する道具=
ターレー↓



- 5) 着衣に関する道具=
(畑仕事等で使用)



D:民俗展示室での展示品解説

①畑の道具 ②田んぼの道具 ③海の道具 ④台所周辺道具

→2か所選択* 1か所およそ7分×2か所+移動=15分間

博物館での見学マナー

みんなでみてね!



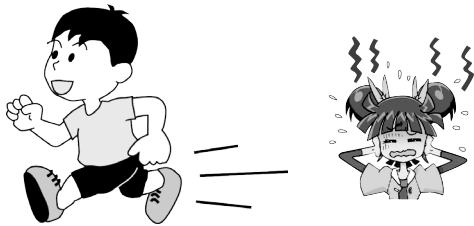
博物館には、沖縄に関する多くの資料が展示されておって、それを観にたくさんの方々が博物館を訪れるんじゃよ。皆が気持ちよく見学するために、そして、展示品を守るために、いくつかのマナーがあるんじゃ。

博物館を訪れている方々も、私たちが気持ちよく見学できるように、マナーをしっかりと守らなきゃね!



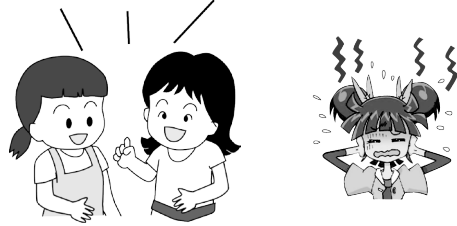
1

走らないようにしましょう。



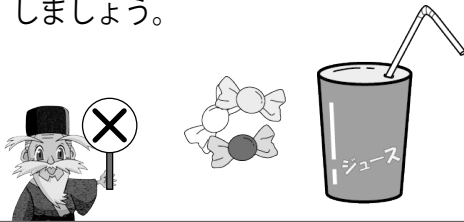
2

大きな声を出さないようにしましょう。



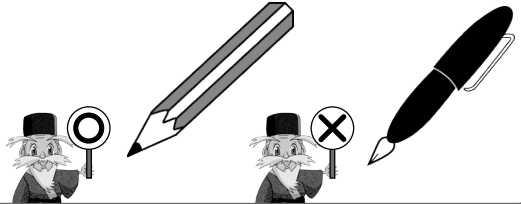
3

飲み物や食べ物を持ち込まないようにしましょう。



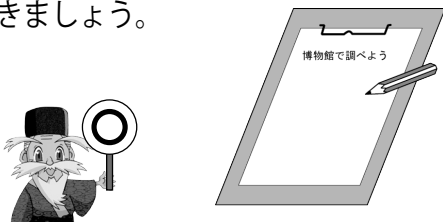
4

メモを書く時は、鉛筆を使いましょう。
(※資料を守るため)



5

メモは、探検バックかファイルの上で書きましょう。



6

展示品には触らないようにしましょう。



7

写真の撮影ができる自然史部門・民俗部門でもフラッシュをたかないようにしましょう。フラッシュの光は展示品に悪影響を与えます。



団体見学の皆さまへ

必ずお読みください！

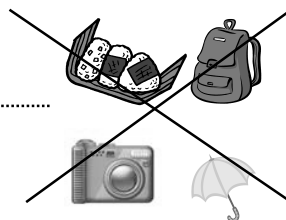
多くの皆さまへ快適にご利用いただくため、施設のご案内および使用上の注意についてご案内させていただきます。ご協力をお願い申し上げます。

団体見学の流れ

① 到着→②代表者がまとめてチケットの購入→③集合時刻の確認→④展示室へ→⑤見学終了

※ チケットはまとめて各展示室入口のスタッフにご提示下さい。また、再入場の際は、チケットの半券が必要です。必要に応じて個人への配布をお願いします。

- 展示資料の保存のため、アメ・ガムを含め、館内での飲食はできません。お持込みもご遠慮下さい。
- ペットボトルの持ち込みはご遠慮ください。かばん又はコインロッカーにおしまいください。
- 弁当や水筒などのお荷物は、バス内で管理してください。徒歩で来館される際は、事前にご相談ください。
- 展示室への傘や大きな荷物のお持込みはできません。正面玄関側の傘立てやコインロッカーをご利用ください。
- 静寂を保つため、原則館内放送でのお呼び出しはご遠慮いただいております。皆さまには、集合場所と時間の周知を図るようお願い申し上げます。
- 展示物にはお手をふれないようお願い致します。



当館は収蔵資料の適切な保存・管理と健康で快適な環境を確保するため、IPM(総合的病害虫管理)を導入しています。※IPMとはカビや虫の発生する環境を作らない、外部からの害虫の侵入を防ぐ、発生してしまった場合、なるべく科学的手法を使わないよう対処していく方法のことです。

博物館からのお願い

- 博物館常設展示室の入口、自然史部門展示室と民俗部門展示室での撮影はできますが、フラッシュ撮影や接写撮影はご遠慮ください。
- メモを取る際は鉛筆のご利用をお願いします。(ボールペンは使わないようにお願いします。)
- 入場前に展示室入り口の『博物館での見学マナー』を皆様でご確認ください。

美術館からのお願い

- ◎ 作品にぶつかることがない様、大きなカバンやリュックサックはロッカーに預けてください。
- ◎ 展示室ではボールペンやマジックなど、消えないインクの筆記用具はもちろんですが、シャープペンや消しゴムのご利用もご遠慮下さい。
- ◎ 鑑賞の妨げになるような大きな声で騒いだり、走り回ったりしないようお願い致します。又、携帯電話のご利用もお控え下さい。
- ◎ 展示室内の写真撮影はご遠慮ください。

※皆様のご協力宜しくお願い申し上げます。ご不明な点は館内情報センターへお問い合わせ下さい。

沖縄県立博物館・美術館 団体受付 : 情報センター TEL : 098-941-1187

5 「出前授業等」の実施要項

平成 29 年度学校連携モデル事業

(1) 趣旨

博物館の持つ資源（もの、情報、人）を、出前授業等を通じて学校教育の場で有効に活用する。

(2) 内容

- ①学校での授業や教員の研修会などに学芸員を講師として派遣する。
- ②授業では、ティーム・ティーチングの手法により、学芸員は教員と共同し、博物館資料を活用するなどして児童・生徒の学習を支援する。

(3) 対象

県内公立学校及び私立学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）
※クラス単位もしくは学年単位

(4) 実施時間

1～2 時間程度（調整可）

(5) 実施場所

当該校

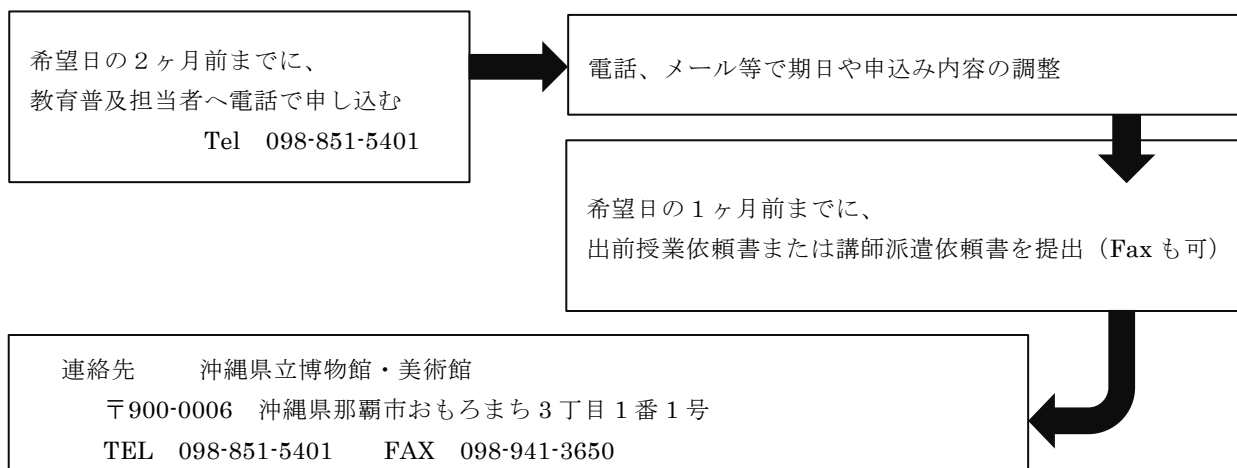
(6) 申し込み方法

※別紙参照

(7) その他

各学校から依頼の「出前授業等」に係る学芸員の派遣旅費（交通費）は、沖縄県立博物館・美術館で負担する。

(8) 出前授業等の申込み方法と連絡先



(9) 学芸員紹介

	担当分野		氏 名
博物館班	自然史	生 物	山崎 仁也
		地 学	宇佐美 賢
		人 類	山崎 真治
	美術工芸	絵画・漆器・陶器	園原 謙
			篠原 あかね
		書跡・彫刻・染織	與那嶺 一子
	歴史	古琉球・近世	久部良 和子
		近 現 代	外間 一先
	考 古		山本 正昭
	民 俗		大湾 ゆかり
	教 育 普 及		大川 剛

○沖縄県の自然、歴史、文化をはじめ、上記内容について、学芸員が博物館の持つ資源（もの、情報）を活用し、児童・生徒の学習を支援する。

※校内研修等で博物館活用について、レクチャーする。

※「講師派遣依頼書」は、ホームページでダウンロードして使用可能。

講師派遣依頼書

沖縄県立博物館・美術館長 殿

学校名

校長

印

次のとおり、講師の派遣をお願いします。

行事名	
依頼内容	
希望する講師	
日時	平成 年 月 日 (曜日) 時 分 ~ 時 分 (校時)
場所	
対象者	
人数	名
担当者	学校住所 〒 Tel Fax 担当教員名 連絡先 (携帯電話等)
その他	☆ご質問等があればお書き下さい。

6 「出前授業等」の実施状況

(1) 7月24日(月)

座間味村立阿嘉小中学校

地学：宇佐美 賢

(2) 8月29日(火)

沖縄県立球陽高等学校

歴史：外間 一先

(3) 12月1日(金)

沖縄県立コザ高等学校

地学：宇佐美 賢

(4) 11月22日(水)

沖縄県立向陽高等学校

人類：山崎 真治

(5) 12月12日(火)

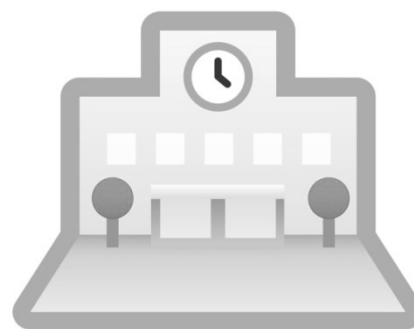
沖縄県立那覇高等学校

歴史：外間 一先

(6) 12月19日(火)

沖縄県立コザ高等学校

生物：山崎 仁也



Ⅲ 博物館体験学習教室

1 体験学習教室の実施要項

(1) 趣旨・目的

沖縄の歴史や文化および自然と結びついた体験的な活動をすることによって、郷土の文化や伝統に関心を持たせ、先人の知恵などを学ぶ。

(2) 内容

博物館の各分野(自然史・考古・歴史・美術工芸・民俗)の展示内容と関連した体験的な活動を通して、県民が有意義に楽しく学ぶことが出来るよう企画する。

(3) 受講方法

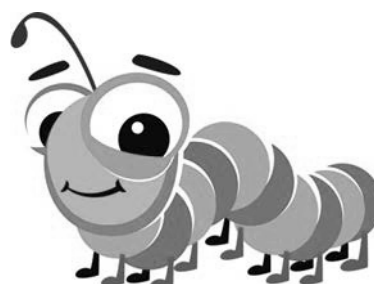
※1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。

(公平を期すため、館長もしくは副館長による抽選)

※抽選の場合、当選者には、事前に当選の通知連絡を行う。

(4) 体験学習に係る役割

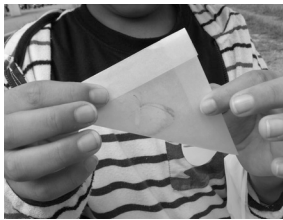
前日まで		当日運営	
①事業起案及び講師依頼	博教育普及担当	①受け付け及び材料費徴収	指定管理者
②マスコミ各社への取材依頼	指定管理者	②開講式 司会	〃
③受講生受け付け	〃	③講師紹介	
④講師事前打ち合わせ	○博教育普及担当	④講座の進行	○博教育普及担当
⑤説明資料作成	○指定管理者	⑤材料等の準備及び配布	○指定管理者
⑥材料・道具等の諸準備		⑥記念撮影	○ボランティア
⑦ボランティア事前学習 ・準備作業調整		⑦報償費支払い事務	



2 体験学習教室の実施状況

講座日	題	講師名	内容	参加者
第1回講座 ①7月22日(土) [9:30~12:00] ②7月23日(日) [9:30~12:00] ③8月19日(土) [9:30~12:00]	昆虫標本作り!	山崎 仁也 学芸員	1 回目に昆虫採集の方法、昆虫標本の作り方、ライトトラップ作製を実施した。 2 回目に展翅などの標本作りを行った。 3 回目に標本箱作成と昆虫の分類とラベル作りを行った。	20名
第2回講座 ①9月16日(土) [10:00~12:00] ②9月30日(土) [10:00~12:00]	身近な植物で押し花を作ろう!	山崎 仁也 学芸員 中島 トモ子 押し花作家	1 回目に植物採集の方法、標本の作り方等を実施した。 2 回目にクリアファイルに標本を貼り付けて作品作りを行った。	①9名 ②8名
第3回講座 ①10月21日(土) [10:00~17:00] ②10月22日(日) [10:00~17:00]	10周年特別展関連催事 子どもフェスタ 2017(秋) たいけんキット であそぼう!	大川 剛 学芸員 大瀨 萌子 沖縄美ら島財団 比嘉 麻乃 沖縄美ら島財団	10周年特別展「海の沖縄」の関連催事(プレイベント)として、美術館と協働し、海をテーマに九州国立博物館や当館の体験キットに触れる催事と指定管理の自主事業ワークショップを行った。	定員なし 参加延べ 1,400名
第4回講座 ①12月9日(土) [10:00~15:00] ②12月10日(日) [10:00~15:00]	10周年特別展関連催事 ROV操縦体験	宇佐美 賢 学芸員 GODAC	10周年特別展「海の沖縄」の関連催事として、GODACの協力の下に、水中カメラロボットの操縦体験を実施した。	60名
第5回講座 3月4日(日) [10:00~16:00]	サンゴの日は博物館へ サンサンGOGO	山崎 仁也 学芸員 比嘉 麻乃 沖縄美ら島財団 栗原 晴子 琉球大学	本館1Fエントランスにて、サンゴを使ったストラップや風鈴、ジェルキャンドルを作った。午後からは同館カフェにて講師を招いて、サイエンスカフェを行った。	254名

第1回講座「昆虫標本作り！」 7月22日(土)・23日(日)・8月19日(土)



初日は新都心公園にて昆虫採集

2日目、展翅、展足、標本作製



3日目、昆虫の分類とラベルの作成

第2回講座「身近な植物で押し花を作ろう！」 9月16日(土)・30日(土)



10周年記念
9/16-30
2回
連続講座

博物館体験学習教室
身近な植物で押し花を作ろう！

『ウィルソンが拓いた沖縄—琉球の植物研究100年—』と『琉球の植物』が好評開催されて、いま、国立博物館・東京館は「植物まつり」です！この「植物まつり」にちなんで、植物に親しんでみませんか？身近な草花を採って、とってもステキなアートができます。一緒に挑戦してみよう！

講 師：中島トモ子（押し花作家）
対 象：小1～中3
定 員：20人
参加費：200円
申込方法：事前申込制（TEL. 茶番）
申込期間：9月5日（火）～定員に達し次第終了

1 9/16(土) 10:00～12:00
植物をさがそう！
自然の園内にいる身近な植物がある場所を探して採ります。しおりやカードを作ります。

2 9/30(土) 10:00～12:00
ランチョンマットをつくろう！
1日目で採った植物でランチョンマットに押し花を作ります。お気に入りの植物を選んで作ります。

申込先：国立博物館 企画課 企画係 電話：03-5756-1111（受付時間：9:00～17:00）

1日目、館外にて植物採集



2日目、クリアファイルに採集した植物を押し花にして作品作り

第3回講座「こどもフェスタ2017（秋） たいけんキットであそぼう！」

10月21日（土）・22日（日）



ボランティアによる紙芝居や、美術館のハンズオンキットも紹介された。



**たいけんキット
であそぼう！**
秋

2017年
10/21（土）・22（日）
10:00-17:00

海をテーマにした体験キットが盛りだくさん！
九洲国立博物館からスペシャルキットが到着！
会場まで来てよ！
にがいを楽しめるキットも来るぞ！

美術館のキットもアツクしちゃう
カワフキが出来るキットが到着！
あそびながらアートも楽しむ。
どこかへ行くかあるかな？
こころワークショップの体験もあそぼう

ふれあい体験室で「ふれあい」を感じよう
カワフキが出来るキットが到着！
あそびながらアートも楽しむ。
どこかへ行くかあるかな？
こころワークショップの体験もあそぼう

ふれあい体験室ワークショップ
海へのあこがれ
「ジュエルキャンドル」でいかに海を作ろう！
ジュエルキャンドルとは何か？
ジュエルキャンドルとは何か？
ジュエルキャンドルとは何か？

⑩10:00-10:30 ⑪11:00-11:30 【定員】 毎日定員40人（高学年10人）
⑫14:00-14:30 ⑬15:00-15:30 【予約】 500円
【料】 5歳未満の子どもは17歳以上と一緒に参加

九州国立博物館 企画展 九洲国立博物館 企画展 九洲国立博物館 企画展 九洲国立博物館 企画展

親子連れが多数訪れた。体験のほか、海をテーマにしたワークショップも開催された。



骨スーツ体験の様子 民具の体験の様子 ボランティアによる解説の様子

第4回講座「ROV 操縦体験」 12月9日（土）・10日（日）



会場の様子



多くの親子連れが操縦体験を楽しんだ。



GODAC 出張ラボ
出張ラボ
海をテーマにした体験キットが盛りだくさん！
九洲国立博物館からスペシャルキットが到着！
会場まで来てよ！
にがいを楽しめるキットも来るぞ！

水中カメラロボット (ROV) 操縦体験

12/9（土）
10（日）

それぞれ開始30分前より会場にて受付

1回目 10:00～12:00 会場：正面玄関入口横
2回目 13:00～15:00 定員：各回30名

未来の資源として注目されている「海底資源」。
深海域に眠るこの資源の調査に活躍するのが、
「ROV」と呼ばれる無人の探査ロボットです。
海底資源にはどんな宝庫が隠れているのかな？
小型ROVの操縦を体験しながら、海底資源について
学ぼう！

九州国立博物館 企画展 九洲国立博物館 企画展 九洲国立博物館 企画展 九洲国立博物館 企画展



第5回講座「サンゴの日は博物館へ サンサン GOGO」 3月4日(日)



サンゴを使った、風鈴作りの様子



大人気だったキャンドル作り



多くの親子連れが訪れ、キャンドル作りに取り組んだ。



サイエンスカフェの様子

平成29年度 沖縄県立博物館・美術館 休校学習推進 今年もやります！

サンゴの日は博物館へ サンサンGOGO!

3月4日(日)

サンゴ週間ウィークにちなんで、サンゴのイベントをやるよ〜

<p>1. ジェルキャンドルづくり</p> <p>①10:00 ②11:00 ③13:00 ④14:00 (所要時間 30分) 場所：2F大ホール(研修室) 対象：5才から大人まで (※親子参加推奨です) 定員：40人(各回10人) *9:00より大ホール研修室で受付 参加費：無料</p>	<p>2. サンゴストラップ作り</p> <p>⑤10:00~12:00 ⑥13:00~15:00 (所要時間 30分) 場所：エントランス 対象：5才から大人まで (※親子参加推奨です) 定員：100人・随時受付 参加費：無料</p>
<p>3. びんごで運動をつくろう</p> <p>①10:00 ②11:00 ③13:00 ④14:00 (所要時間 30分) 場所：本館2F 対象：5才から大人まで (※親子参加推奨です) 定員：40人(各回10人) *9:00より大ホール受付 参加費：無料</p>	<p>4. サイエンスカフェ 「サンゴと珊瑚礁」</p> <p>15:30~17:00 講師：奥原晴子(琉球大学) 場所：2F大ホール(会場3F) 対象：中学生以上 定員：100人 *事前受付 会場：2F大ホール(会場3F) 参加費：無料(ドリンク付)</p>

※受付時間：9:00~17:00
※会場：2F大ホール(会場3F)
※参加費：無料(ドリンク付)

協賛：沖縄県サンゴ保全推進協議会
〒900-0000 沖縄県那覇市北平1-1-1 http://www.mnh.jp TEL:098-941-8200
沖縄県立博物館・美術館 〒900-0001 沖縄県那覇市北平1-1-1 TEL:098-941-8200

3 体験学習教室のあゆみ

当館体験学習プログラムは、平成5年（1993）、旧沖縄県立博物館時代に「子ども体験学習教室」としてプログラムがスタートし、その後平成13年度（2001）より、「博物館体験学習教室」として現在まで継続して行われている。

（1）首里旧館 平成5年～平成17年度（1993～2005）

年	内容	講師	参加者・定員
子ども体験学習教室			
平成五年度	第1回講座「野鳥はともだち」 第2回講座「オリジナルの「印」をつくろう」 第3回講座「遊びの道具をつくろう」 第4回講座「史跡をたずねて ～琉球王国へタイムスリップ～」	玉城 常雄 大城 民子 親泊 元高 比嘉 康智 雲石同好会 外原 淳 金城 明美 平良 信明 新城 俊昭	小学校 (5・6年) 20名 中学校 10名 高等学校 10名
平成六年度	第1回講座「昆虫標本をつくろう」 第2回講座「漆喰でシーサーをつくろう」 第3回講座「オリジナルの印をつくろう」 第4回講座「首里の史跡めぐり ～あなたの知らない首里の町～」	佐藤 文保 ZEROの森の友の会会員 金城 登 大城 民子 ほか雲石同好会 古塚 達朗	小学校 (4・5・6年) 中学校 高等学校 計40名
平成七年度	第1回講座「植物標本をつくろう」 第2回講座「漆喰でシーサーをつくろう」 第3回講座「土器をつくろう」 第4回講座「祭りの仮面をつくろう」	島袋 守成 金城 登 比嘉 賀盛 外原 淳	小学校 (4・5・6年) 中学校 高等学校 計40名
平成八年度	第1回講座「かわをさぐろう」 第2回講座「グスクをたずねて」 第3回講座「ふうたんをつくろう」 第4回講座「わら算をつくろう」	下地 邦輝 當眞 嗣一 学芸課長 上運天 賢盛 外原 淳	小学校 (4・5・6年) 中学校 高等学校 計40名
平成九年度	第1回講座「豆とサトウキビづくり」 第2回講座「昆虫標本づくり」 第3回講座「シーサーづくり」 第4回講座「連凧（れんだこ）をつくろう」	新垣 正広 新垣 明 佐藤 文保 金城 登 上運天 賢盛	小学校 (4・5・6年) 中学校 高等学校 計40名
平成十年度	第1回講座「芋とイモ料理づくり」 第2回講座「沖縄の岩石調べ」 第3回講座「古代人の生活を体験しよう」 第4回講座「はりこのおもちゃづくり」	新垣 明 我謝 昌一 當銘 由嗣 国吉 清子	定員40名

平成十一年度	第1回講座「豆とサトウキビづくり」 第2回講座「イノシの生き物調べ」 第3回講座「三線づくり」 第4回講座「アンツクをつくろう」 第5回講座「竪穴式住居の暮らしを体験しよう」	仲底 善章 博指導主事 玉城 哲弥 上原 安敏 前盛 幸吉 仲底 善章 宮里 満男 當銘 由嗣 与儀 喜邦	定員 40 名 天妃小 12 名
平成十二年度	第1回講座「豆とサトウキビづくり」 第2回講座「鍾乳洞を探険しよう」 第3回講座「しっくいシーサーをつくろう」 第4回講座「紅型をつくろう」 第5回講座「竪穴式住居で古代の暮らしを体験しよう」	仲底 善章 博指導主事 山内 平三郎 宮城 光男 伊波 悦子 博指導主事 屋富 祖幸子 比嘉 賀盛	定員 40 名 古蔵小 33 名
	博物館体験学習教室		
平成十三年度	第1回講座「豆を栽培して豆腐をつくろう」 第2回講座「サトウキビを栽培して黒砂糖をつくろう」 第3回講座「指導者養成の豆腐づくり」 第4回講座「しっくいシーサーをつくろう」 第5回講座「ウチナーそばをつくろう」 アウトリーチ「指導者のための黒砂糖づくり」	大嵩 シゲ 与儀 喜邦 上原 泰一 宮城 光男 比嘉 和行 博物館ボランティア	定員 40 名
平成十四年度	第1回講座「サトウキビを栽培して黒砂糖をつくろう」 第2回講座「ウチナーそばをつくろう」 第3回講座「石うすを使って豆腐をつくろう」 第4回講座「しっくいシーサーをつくろう」	与儀 喜邦 比嘉 和行 上原 泰一 比嘉 光男	定員 40 名
平成十五年度	第1回講座「サトウキビを栽培して黒砂糖をつくろう」 第2回講座「総合的な学習のための豆腐づくり」 第3回講座「しっくいシーサーをつくろう」 第4回講座「竹のおもちゃをつくろう」 第5回講座「ふうたんをつくろう」	玉城 善哲 博指導主事 玉城 善哲 博指導主事 宮城 光男 上運天 賢盛 玉城 善哲 博指導主事	定員 40 名
平成十六年度	第1回講座「サトウキビを栽培して黒砂糖をつくろう」 第2回講座「総合的な学習のための豆腐づくり」 第3回講座「木の実でおもちゃをつくろう」 第4回講座「化石のレプリカをつくろう」 第5回講座「竹のおもちゃをつくろう」 第6回講座「しっくいシーサーをつくろう」 第7回講座「総合的な学習のための黒糖づくり」	玉城 善哲 博指導主事 玉城 善哲 博指導主事 上運天 賢盛 座覇 泰 博指導主事 上運天 賢盛 宮城 光男 玉城 善哲 博指導主事	定員 40 名
平成十七年度	第1回講座「石うすを使って豆腐をつくろう」 第2回講座「竹で民具をつくろう」 第3回講座「化石のレプリカをつくろう」 第4回講座「はりこのおもちゃをつくろう」 第5回講座「木の実でおもちゃをつくろう」 第6回講座「サトウキビをしぼって黒糖をつくろう」	玉城 善哲 博指導主事 津嘉山 寛喜 座覇 泰 博指導主事 豊永 盛人 上運天 賢盛 玉城 善哲 博指導主事	定員 40 名

(2) おもろまち新館 平成19年～平成28年度(2007～2016)

年	内 容	講 師	参加者・定員
平成十九年度	第1回講座「化石のレプリカをつくろう」 第2回講座「ワークショップ(勾玉作製)」 第3回講座「木のおもちゃをつくろう」 第4回講座「しっくいシーサーをつくろう」 第5回講座「博物館探検」	知念 幸子 記録なし 上運天 賢盛 奥原 宗典 赤嶺 敏感	定員 40名 定員 10名 (当日受付) 定員 40名 定員 40名 定員 10名
平成二十年度	第1回講座「アダン葉サバをつくろう」 第2回講座「和綴じ本をつくろう」 第3回講座「植物標本をつくろう」 第4回講座「教師のための博物館利用講習会」 第5回講座「印をつくろう」 第6回講座「連凧をつくろう」 第7回講座「しっくいシーサーをつくろう」 第8回講座「手びねりでつくる器」	前盛 弘吉 當間 巧 日越 國昭 赤嶺 敏 前田 賢二 上運天 賢盛 奥原 宗典 本田 伸明	定員 40名 定員 30名 定員 20名 定員 60名 定員 30名 定員 30名 定員 40名 定員 30名
平成二十一年度	第1回講座「アダン葉サバをつくろう」 第2回講座「植物標本をつくろう」 第3回講座「印をつくろうⅡ」 第4回講座「行列図絵巻をつくろう」 第5回講座「手びねりでつくる焼き物」	上運天 賢盛 新城 和治 前田 賢二 當間 巧 本田 伸明	定員 20名 定員 20名 定員 30名 定員 30名 定員 30名
平成二十二年度	第1回講座「昆虫標本をつくろう」 第2回講座「八角凧をつくろう」 ※全2回講座 第3回講座「ムーチーをつくろう」	佐々木 健志 金城 珍章 松本 嘉代子	定員 20名 定員 15名 親子 20組
平成二十三年度	第1回講座「チンビン・ポーポーをつくろう」 第2回講座「昆虫標本をつくろう」 第3回講座「台所でできる草木染」	松本 嘉代子 佐々木 健志 比嘉 正一 松村 雅史 江谷 紋子	親子 15組 親子 12組 親子 12組
平成二十四年度	第1回講座「紅型にチャレンジ！」 ※全2回講座 第2回講座「うこん染で手織り」	城間 栄市 江谷 紋子	親子 15組 親子 12組 大人 6名
平成二十五年	第1回講座「カエルの解剖と骨格標本づくり」 ※全2回講座 第2回講座「筒描き紅型に挑戦Ⅱ」 ※全2回講座	佐藤 寛之 城間 栄市	定員 20名 定員 15名

平成 二十六 年度	第1回講座「カエルの解剖と骨格標本づくり」 ※全2回講座 第2回講座「海に沈んだ先史人の足跡を探せ！」	佐藤 寛之 山崎 仁也 学芸員 崎原 恒寿 片桐 千亜紀学芸員	定員 20名 定員 40名
平成 二十七 年度	第1回講座「筒描き紅型に挑戦Ⅲ」 ※全3回講座 第2回講座「筒描きを楽しむ！」 ※全3回講座 第3回講座「昆虫標本作り！」 第4回講座「見えない空気の新シギ！」	城間 栄市 與那嶺 一子学芸員 安里 和雄 大橋 伸正 琉球びんがた事業協同組合 與那嶺 一子学芸員 山崎 仁也 学芸員 金城 靖信 仲里 健 学芸員	定員 15名 定員 18名 定員 20名 定員 20名
平成 二十八 年度	第1回講座「昆虫標本作り！」 ※全3回講座 第2回講座「簡易ペットボトル植物工場」 第3回講座「器具を作ろう」 第4回講座「サンゴ礁ウィーク 2017」	山崎 仁也 学芸員 浅賀 宏昭 山崎 真治 学芸員 山崎 仁也 学芸員	定員 20名 定員 20名 定員 15名 定員なし



平成5年度
第1回講座「野鳥はともだち」



平成19年度
第1回講座「化石のレプリカをつくろう」

IV 博物館文化講座

1 文化講座の実施要項

(1) 趣旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、広い視点から分かりやすく楽しく、有意義な学習ができるよう、文化講座を開催する。これを開催することにより、沖縄の自然・歴史・文化に対する県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の展示内容と関連する自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野についての講演、展示品の解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が分かりやすく有意義に学習できるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間

場 所：特に指定がない場合は、当館講堂（3F）

(4) 受講方法

当日先着200名（事前申込み不要）

2 文化講座の実施状況

回数	期日	演題	講師名	定員	参加者
479	4月15日(土)	地図を手に持った史跡めぐり	安里 進	200	20
480	5月20日(土)	琉球の海人を語る ～サンゴ礁の生態史～	秋道 智彌	200	84
481	6月17日(土)	新収蔵品展・博物館70周年記念 シンポジウム 「博物館の過去・現在・未来 1946～2017」	宜保 榮治郎 大城 将保 當眞 嗣一	200	74
482	7月15日(土)	古文書に見る琉球と秀吉	黒嶋 敏	200	120
483	8月19日(土)	冊封使が琉球へもたらした中国書跡	城間 圭太	200	155
484	9月9日(土)	ウィルソンの沖縄～100年の記憶の旅路～	古居 智子	200	200
485	10月14日(土)	身近な石を見てみよう	加藤 祐三	20	24
486	11月11日(土)	海の人類史～南の島々に進出したヒトの海洋適応と島嶼適応～	小野 林太郎	200	72
487	12月16日(土)	シンポジウム「宮古島の人類史を探る！」	久貝 弥嗣 宮城 弘樹 山崎 真治	200	85
488	2月17日(土)	科学分析から見えてくる琉球の美術工芸	早川 泰弘	200	44
489	3月17日(土)	陶磁器からみた琉球と中国の交流	森 達也	200	90



第479回 文化講座 「地図を手に持った史跡めぐり」

日時：2017年4月15日（土）14:00～17:00 参加者：20人

場所：首里城周辺

講師：安里 進（沖縄県立芸術大学附属研究所 客員研究員）

内容：

「首里古地図」と鳥瞰図で歩き見る～200年前の石造文化の美～
首里城周辺の史跡を、200年前に描かれた鳥瞰図をたよりに
石造の魅力について解説が行われた。



地図を手に持った 史跡めぐり

講師：安里 進氏
(沖縄県立芸術大学附属研究所 客員研究員)

4/15 2017年
(土)

14時～16時 (現地集合・解散)

場 所：那覇市首里付近
定員：20名
対象：中学生以上
参加費：50円(1人/保険代)

申込方法：事前申込(電話・来館)
*応募者多数の場合、抽選後4/8(土)までに
当選者のみハガキで通知

申込期間：3月22日(水)～4月2日(日)

「首里古地図」や「首里新編鳥瞰図」に描かれた首里の
風景を実際に歩きます。

13:45 首里城公園「首里柱館」集合

14:00 スケジュール確認
座学「首里古地図について」

14:30 史跡めぐり
園と原島神社(石門)→阿波寺・天女橋・町屋跡→
首里孔子廟・中城御殿→安古川御殿→稲城遺跡川→
可部村・須知村

16:00 終了

お願い

- *現地集合・解散となります
- *公共交通機関までご利用になるかお近くの有料駐車場を
ご利用ください。
- *起床のある場所を約2時間程度歩きます。
- *中学生は保護者同伴をお願いします。

沖縄県立博物館・美術館 ●開館時間 午前9時～午後5時(金・土は午後4時まで) ●休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は閉館し、翌平日休館)
●〒900-0008那覇市おもろまち5-1-1 TEL. 098-841-8200

第480回 文化講座 「琉球の海人を語る ～サンゴ礁の生態史～」

日時：2017年5月20日（土）14:00～17:00 参加者：84人

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

講師：秋道 智彌（山梨県立富士山世界遺産センター所長）

内容：

1. 生態史：エコロジカルヒストリー
2. サンゴ礁と人間のかかわり
3. 琉球の先史文化と海
4. サンゴ礁と暮らし
5. サンゴ礁における潜水漁
6. 糸満におけるアンブシ漁となわばり
7. 琉球における漁業権と文化
8. 海人の民族知と資源確保
9. 海は誰のものか



琉球の海人を語る ～サンゴ礁の生態史～

5/20 2017年
(土)

14時～16時
(開場13時半) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館
3F 講堂

定員200名(当日先着、予約不要)

※会場内は冷風が強くあたる場所がありますので、
上着やひざ掛けをお持ちください。

琉球列島は九州南端から台湾に至る1,200kmの海
に点在する約200の島嶼群からなります。周囲の海は
サンゴ礁とその外縁の崖域である外洋からなってい
ます。最近、旧石器時代のサキタリ貝遺跡から世界最古
の釣針が発見され、海と人との関わりは23,000年を
さかのぼることがわかりました。琉球の海を利用して
きた人々を広く海人(ウミンチュ)ととらえ、彼らの
漁撈・採集活動について考えてみましょう。琉球の海
では、魚の生態や海底地形の特質、漁撈の種類に
応じてさまざまな慣行や制度が育まれてきました。陸地
からの影響により海が「犠牲」になった面も多くなりました。
講座では、琉球の海と人の関わりを生態史の観点から
考察し、琉球の海の未来を考えてみたいと思います。

講師：秋道 智彌氏(山梨県立富士山世界遺産センター所長)
1946年京都市生まれ、京都大学理学部動物学、東京大学大学院理学系研究科人類学博士課程、同博士課程修了、理学博士、国立民族学博物館所長、総合地球環境学研究所教授、副所長、名誉教授を経て、現在山梨県立富士山世界遺産センター所長、動物学博士。著書『海と人』、『サンゴ礁に生きる海人』(朝日新聞、2016年、第44回読書目録)、『絶滅するコモンズ』(講談社、2016年)、『海に生きる』(読者大学出版、2013年)、『生態史から読み解く「海・島・人」』(朝日新聞、2011年)、『コモンズの歴史』(朝日新聞、2010年)

沖縄県立博物館・美術館 ●開館時間 午前9時～午後5時(金・土は午後4時まで) ●休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は閉館し、翌平日休館)
●〒900-0008那覇市おもろまち5-1-1 TEL. 098-841-8200

第481回 文化講座 「博物館の過去・現在・未来 1946～2017」

新収蔵品展・博物館70周年のあゆみ展関連催事 シンポジウム

日時：2017年6月17日（土）14:00～17:00 参加者：74人

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

進行：園原 謙（沖縄県立博物館・美術館 博物館副参事兼班長）

パネリスト：宜保 榮治郎（沖縄県立博物館 第13代館長）

大城 将保（沖縄県立博物館 第16代館長）

當眞 嗣一（沖縄県立博物館 第18代館長）

田名 真之（沖縄県立博物館・美術館 第25代館長）

内容：

【ビデオメッセージ】大城 立裕 沖縄県立博物館 元館長

【シンポジウム】

1. 博物館との関わり
2. 博物館に勤務して
3. 現在の博物館・美術館について
4. 博物館に期待すること



10 沖縄県立博物館・美術館 博物館文化講座 481 回

博物館企画展「博物館70年のあゆみ」展 関連シンポジウム
「博物館の過去・現在・未来—1946～2017」

6/17 (土) 2017年
14時～16時 (開場13時半) 入場 無料
沖縄県立博物館・美術館 3F 講堂
定員200名(当日先着、予約不要)

1946年4月に沖縄民政府立東恩納博物館や
民政府立首里博物館の設置を経て2016年4月で
当館は70年を迎えました。これまで県内外
のみならず海外からも多くの寄贈・収集・購入・
寄託資料があり、その数は約9万4千件余りを数え、
今日の博物館活動の基礎が作られました。
これまで博物館に従事した職員は延べ100人程度
になりましたが、旧博物館時代の館長は延べ25人を
数えます。
本シンポジウムでは、昨年古館を迎えた博物館
「あゆみのあゆみ」開催を経て、旧館館長を招き
当時の博物館の様子や思い出を語り、今後博物館
が果たす役割についてお話しいただきます。

パネリスト：宜保 榮治郎氏（第13代館長）、大城 将保氏（第16代館長）
當眞 嗣一氏（第18代館長）、田名 真之（第25代館長）
進行：園原 謙（副参事兼博物館班長）

※会場内は冷風が強くあたる場所がありますので、
上着やひざ掛けをお持ちください。

●開場時間 午前9時～午後5時（金・土は午後5時まで） ●休館日 月曜日（休館日当日に当たる場合は閉館し、翌平日再開）
●予約・096-8661-1111 ●TEL 096-8661-1100

第482回 文化講座 「古文書に見る琉球と秀吉」

日時：2017年7月15日（土）14:00～16:00 参加者：120人

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

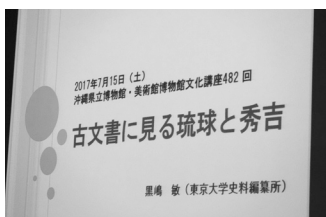
講師：黒嶋 敏（東京大学史料編纂所 准教授）

内容：

はじめに～古文書と対話する～

1. 豊臣政権と琉球王国
2. 1通の古文書を追って

おわりに～さらなる分析へ～



10 沖縄県立博物館・美術館 博物館文化講座 482 回

古文書に見る
琉球と秀吉

7/15 (土) 2017年
14時～16時 (開場13時半) 入場 無料
沖縄県立博物館・美術館 3F 講堂
定員200名(当日先着、予約不要)

戦国時代の日本を統一した豊臣秀吉の政権は、海を
越えて、明・朝鮮や琉球といった東アジアの国内にも
大きな影響を与えました。その琉球に於いては、その
支配下に組み込まれ、武威（ぶい）を根拠した
強硬な外交方針で迫ってゆきました。今回は、その
緊迫感を古文書（こもんじょ）をもとに考えてみよう
とします。古文書というと、まず書いてある内容に
目が行きがちですが、裏面を突くとさまざまな歴史
の情報が隠れていることに気づかれます。さらに、
コピーではなく原本（オリジナル）には、より多くの
情報が眠っているのです。古文書が持つ「文字」の
側面と「モノ」の側面とそれぞれに注目しながら、歴史を
考えるヒントを探っていきます。

講師：黒嶋 敏氏（東京大学史料編纂所 准教授）
1972年生まれ。青山学院大学大学院博士後期課程中途退学（史学）、日本中央研究院。
主な著書に『中世の権力と列島』（高倉書院、2012年）、「天下統一 秀吉から安藤へ」講談社現代新書、2015年）
『徳川五百年の歴史大系 島津参入までの半島』（創文社歴史文化ライブラリー、2016年）、編纂に『琉球史
科学の進出 琉球、歴史情報の海』（歴史第一紀との共編、悠社出版、2017年）などがある。

※会場内は冷風が強くあたる場所がありますので、
上着やひざ掛けをお持ちください。

●開場時間 午前9時～午後5時（金・土は午後5時まで） ●休館日 月曜日（休館日当日に当たる場合は閉館し、翌平日再開）
●予約・096-8661-1111 ●TEL 096-8661-1100

第485回 文化講座 「身近な石を見てみよう」

日時：2017年10月14日（土）14:00～16:00 参加者：24人

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

講師：加藤 祐三（琉球大学 名誉教授）

内容：

おもしろまちな周辺の建材や庭材に使われている岩石について、フィールドワークを通して解説を行った。



10th ANNIVERSARY ■■■ 沖縄県立博物館・美術館博物館文化講座 485 回 ■■■





身近な石を見てみよう 都会でジオツアー

2017年
10/14(土)
14時～16時

定員：20名（小学生～大人）
場所：当館周辺
参加費：50円（保険代）
申込方法：事前申込（電話・来館）
*応募者多数の場合は、抽選後当選者のみに10/7(土)まで8H先着で選別します。
申込期間：9/26(火)～10/1(日)

講師：加藤 祐三 氏（琉球大学名誉教授）

琉球大学名誉教授、東北大学大学院修了。琉球大学教授。専門：岩石学。
著書：『奄美沖縄石質図鑑』（1985）、『軽石-海底火山からのメッセージ』（2009）など。

●開講時間：午前10時～午後5時（土・日は午後3時まで） ●休講日：月曜日（月曜日が祝日の場合は開講し、翌平日休講）
〒900-0008 那覇市おもろまち5-1-1 TEL. 098-941-6200

第486回 文化講座 「海の人類史 ～南の島々に進出したヒトの海洋適応と島嶼適応～」

日時：2017年11月11日（土）14:00～16:00 参加者：72人

講師：小野 林太郎（東海大学 准教授）

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内容：

1. 人類の誕生・進化・海洋適応
2. 新人による環太平洋圏への進出と島嶼適応
 - (1) 更新世後期～完新世前期
 - (2) 新石器時代による新たな人類拡散
3. 埋葬遺跡からみる海域アジアの島嶼文化
 - (1) 東南アジア島嶼部の金属器時代と埋葬文化
 - (2) 埋葬遺跡からみる海域アジアの島嶼文化



10th ANNIVERSARY ■■■ 沖縄県立博物館・美術館博物館文化講座 486 回 ■■■




海の人類史 ～南の島々に進出したヒトの海洋適応と島嶼文化～

2017年
11/11(土)
14時～16時
（開場13時半）

入場 無料
沖縄県立博物館・美術館
3F 講堂
定員200名（当日先着、予約不要）
※会場にはお土産コーナーを設けてありますので、土曜や日曜はぜひお立ちください。

講師：小野 林太郎 氏（東海大学 准教授）

東南アジア・オセアニア海洋考古学（東海大学海洋学部海洋文化学系 准教授）
1976年生まれ。上智大学大学院修士課程修了。博士課程修了。博士（地域研究）。
国立民族学博物館、総合地球環境学研究所、オーストラリア国立大学等を経て、現職。専攻「海域世界の地域研究-海陸と人間の歴史考古学」（2011年、京都大学大学院修了）、「海の人類史-東南アジア・オセアニア海域の考古学」（2017年、島根大学）など。

キーワード：島嶼文化、海洋適応、人類史、東南アジア、環太平洋

●開講時間：午前10時～午後5時（土・日は午後3時まで） ●休講日：月曜日（月曜日が祝日の場合は開講し、翌平日休講）
〒900-0008 那覇市おもろまち5-1-1 TEL. 098-941-6200

第487回 文化講座 「宮古島の人類史を探る！」

沖縄県立博物館・美術館 開館10周年特別展関連催事 シンポジウム

日時：2017年12月16日（土）14:00～17:00 参加者：85人

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

講師と内容：

久貝 弥嗣（宮古島教育委員会）

「宮古島の遺跡と人類」

宮城 弘樹（沖縄国際大学 講師）

「無土器文化と貝斧を考える」

安斎 英介（浦添市教育委員会）

「無土器文化の貝製品をめぐる」

山崎 真治（沖縄県立博物館・美術館 学芸員）

「宮古島の土器文化を探る」

講演後、シンポジウム



10th ANNIVERSARY

■ 沖縄県立博物館・美術館 博物館文化講座 487回 ■

写真提供：宮古島教育委員会

宮古島の人類史を探る！





沖縄本島の南西約300kmの海上に浮かぶ宮古島。この島における人類の足跡は旧石器時代（約3万年前）にさかのぼる。一方、長い空白期を経てその後に登場する無土器文化（約2千5百年前～1千年前）は、宮古・八重山諸島一円に分布を広げることが知られているが、その起源やその後のグスク土器文化との関連性については明らかでない。
 本シンポジウムでは、近年の発掘調査や既存資料の見直しを通して明らかになった、新たな事実について報告するとともに、宮古島の人類史研究の現状と課題について議論する。

12/16

2017年

(土)

13時～17時

(開場12時半)

入場無料

沖縄県立博物館・美術館

3F 講堂

定員200名(当日先着、予約不要)

13:00 講師紹介・趣旨説明

13:20～14:20 「宮古島の遺跡と人類」 久貝弥嗣氏(宮古島教育委員会)

14:20～14:50 「無土器文化と貝斧を考える」 安斎英介氏(浦添市教育委員会)

14:50～15:00 休憩

15:00～15:30 「無土器文化の貝製品をめぐる」 安斎英介氏(浦添市教育委員会)

15:30～16:00 「宮古島の土器文化を探る」 山崎真治氏(沖縄県立博物館・美術館)

16:10～17:00 討論・終了

※会場内は冷風が強くあたる場合がありますので、上着やひざ掛けをお持ちください。

沖縄県立博物館・美術館

1990-0006電話予約もろもろ5-3-1 TEL: 098-941-4200

●開演時間 午前一～午後時(金・土は午後時まで) ●休演日 月曜日(月曜が祝日に当たる場合は翌日、翌平日振替)

第488回 文化講座 「科学分析から見えてくる琉球の美術工芸」

日時：2018年2月17日（土）14:00～16:00 参加者:44人

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

講師：早川 泰弘

(東京文化財研究所 保存科学研究センター 副センター長)

内容：

1. 化学分析とは
2. 琉球の美術工芸に見られる材料（彩色材料）の特徴
 - (1) 琉球絵画の調査
 - (2) 陶芸作品の調査
 - (3) ガラス製品の調査
 - (4) 金工品の調査
 - (5) 漆芸品の調査



10th ANNIVERSARY

■ 沖縄県立博物館・美術館 博物館文化講座 488回 ■

琉球の美術工芸




琉球王国は日本・中国・朝鮮・東南アジアなどと交易を行って、その地域的特徴を生かして独自の文化を形成し、数多くの美術工芸品を制作してきました。その多くは沖縄戦で失われてしまいましたが、戦争をくぐり抜け、現在まで継承されてきた美術工芸品のいくつかは、近年国宝や重要文化財に指定されました。
 東京文化財研究所ではこれまで20年近くわたって、琉球王国時代に製作された絵画、金工品、漆器、ガラス、陶磁器など数多くの美術工芸品の科学調査を実施してきました。
 科学調査とは、X線や赤外線、紫外線など各種の分析機器を用いて文化財を調査することで、肉眼ではわからない材料や構造に関する様々な情報を得ることが出来ます。
 本講座では、最新の科学調査によって明らかになった琉球の美術工芸品が有する特徴について紹介します。

2/17

2018年

(土)

14時～16時

(開場13時半)

入場無料

沖縄県立博物館・美術館

3F 講堂

定員200名(当日先着、予約不要)

※会場内は冷風が強くあたる場合がありますので、上着やひざ掛けをお持ちください。

講師：早川泰弘氏

東京文化財研究所保存科学研究センター 副センター長
1962年生まれ、武蔵工業大学大学院工学研究科原子力工学専攻修了、博士(工学)(千葉大学)。文化財の非破壊調査、日本建築史料の整理に関する調査研究を専門とする。協会「高松古墳建築」、協会「源長知識協会」、伊勢神宮「神楽殿」など日本美術史の重要文化財の保存研究を数多く手がける。

●開演時間 午前一～午後時(金・土は午後時まで) ●休演日 月曜日(月曜が祝日に当たる場合は翌日、翌平日振替)

第 489 回 文化講座 「陶磁器からみた琉球と中国の交流」

日時：2018年3月17日（土）14:00～16:00 参加者：90人

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

講師：森 達也（沖縄県立芸術大学 教授）

内容：

1. 沖縄出土の中国陶磁～グスク時代から古琉球～
 - (1) 明代龍泉窯官器が出土する意味
2. 琉球陶器誕生
 - (1) 湧田窯
 - (2) 1682年王府の命により湧田、知花、宝口の陶器産地が壺屋に統合される
 - (3) 粉彩技法



10th ANNIVERSARY ■■■ 沖縄県立博物館・美術館博物館文化講座 490 回 ■■■

首里城京の内出土中国陶磁 集合写真（沖縄県立博物館文化センター 所蔵）

陶磁器からみた 琉球と中国の交流

沖縄の遺跡では多くの中国陶磁が出土します。特に古琉球時代の15世紀頃の中国陶磁の出土量は、中国以外の地域では最も多いと言われています。また、中国陶磁だけでなく、ミャンマー、タイ、ベトナムなどの東南アジア陶磁、朝鮮半島産陶磁、日本陶磁などアジア各地の陶磁器も出土し、こうした陶磁器は沖縄の歴史を知るうえで重要な研究資料となっています。

本講座では、グスク時代、古琉球時代、近世琉球時代の約800年に亘る琉球と中国の交流の歴史を、沖縄出土の中国陶磁や沖縄産の陶器を紹介しながら概観します。併せて、沖縄で出土する中国陶磁や東南アジア陶磁の産地や流通経路などについても紹介します。

○キーワード：中国、琉球、東南アジア、陶磁、グスク

●講師：森 達也 氏（沖縄県立芸術大学 教授）

専門は中国陶磁考古学、アジア考古学。早稲田大学にて修士と博士、金沢大学にて博士の学位を取得。愛知府陶磁資料館（現・愛知陶磁史伝承館）学芸員・学芸課長を経て、2015年より現職。

3/17 2018年
14時～16時 (土)
(開場13時半) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館
3F 講堂

定員200名(当日先着、予約不要)

※会場内は冷夏が強くあたる場所がありますので、上着やひざ掛けをお持ちください。

●開催時間：本講座（午後1時～午後3時） ●休館日：月曜日（月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日休館） ●お問い合わせ：098-841-4200

3 文化講座のあゆみ

(1) 昭和49年～平成17年度 (1944～2005)

回	期日	演 題	講 師		参加
1	5月25日	貝塚の話	新田 重清	沖縄県立博物館学芸員	記録なし
2	6月29日	やさものの話	宮城 篤正	沖縄県立博物館学芸員	記録なし
3	7月27日	沖縄の織物	大城 志津子	琉球大学教授	記録なし
4	8月31日	さんご礁の話	山里 清	琉球大学教授	記録なし
5	9月28日	陸産員の話し	知念 盛俊	沖縄県立知念高等学校教諭	記録なし
6	10月26日	琉歌の話	池宮 正治	琉球大学助教授	記録なし
7	11月30日	漆器の話	前田 孝允	漆芸家	記録なし
8	12月21日	琉球舞踊の話	亘保 榮治郎	沖縄県教育庁文化課専門員	記録なし
9	1月25日	沖縄の石材彫刻	外間 正幸	沖縄県立博物館館長	記録なし
10	2月22日	化石の話	大城 逸朗	沖縄県立博物館学芸員	記録なし
11	3月29日	民具の話	上江洲 均	沖縄県立博物館学芸員	記録なし
12	4月26日	民芸の話	渡名喜 明	沖縄県立博物館学芸員	101
13	5月24日	沖縄の野生の花	高良 拓夫	沖縄県立小禄高等学校教諭	96
14	6月28日	沖縄の自然と自然破壊	兼島 清	琉球大学教授	41
15	7月26日	組踊の話	当間 一郎	沖縄県教育庁文化課専門員	96
16	8月23日	文化財の保存について	当真 嗣一	沖縄県教育庁文化課専門員	40
17	9月27日	沖縄の仮名文字	東恩納千鶴子	沖縄仮名文字研究会	67
18	10月25日	蜘蛛の話	下謝名 松栄	沖縄県立普天間高等学校教諭	40
19	11月22日	近代沖縄の美術家たち	玉那覇 正吉	琉球大学教授	60
20	12月20日	沖縄の墓制	名嘉真 宜勝	読谷村立歴史民俗資料館館長	45
21	1月24日	沖縄古代の対外貿易	高良 倉吉	沖縄史料編集所	108
22	2月28日	郷土の地質	大城 逸郎	沖縄県立博物館学芸員	76
23	3月27日	考古学と私	多和田 真淳	沖縄県史編集審議会委員	85
24	4月17日	昆虫の話	東 清二	琉球大学農学部助教授	80
25	5月22日	～明治維新と沖縄～ 「琉球処分」の歴史特質	金城 正篤	琉球大学文学部助教授	92
26	6月26日	近代沖縄の歩みと社会教育	田港 朝昭	琉球大学教育学部教授	55
27	7月24日	沖縄沿近海の魚	伊佐 次郎	沖縄県水産試験場長	30
28	8月28日	琉球の建築	又吉 真三	一級建築士、沖縄建築研究会会長	74
29	9月25日	門中の話	比嘉 政夫	琉球大学短大部助教授	112
30	10月23日	沖縄の村	仲松 弥秀	元琉球大学教授、沖縄国際大学講師	80
31	11月27日	沖縄の古武術	宮城 篤正	沖縄県立博物館教育普及係長	47
32	12月18日	沖縄の子どもの遊び	前川 守夫	沖縄県立コザ高等学校教諭	25
33	1月22日	洞窟の話	下謝名 松栄	沖縄県立普天間高等学校教諭	150
34	2月26日	身近な野草	高良 拓夫	沖縄県立小禄高等学校教諭	100

35		3月26日	沖縄の印章	玻名城 泰雄	石垣市八重山博物館館長	80
36	昭和五十二年 度	4月23日	おもろの話	池宮 正治	琉球大学助教授	85
37		5月28日	尚家本『おもろそうし』を読んでみよう	池宮 正治	琉球大学教授	108
38		6月25日	沖縄の藍の製造と醸酵建 沖縄の藍	川口 義二 渡名喜 明	沖縄県立博物館学芸員	110
39		7月23日	拓本をとってみよう	崎間 麗進	沖縄拓本研究会員	50
40		8月13日	映写会「戦前の沖縄」	玉城 啓一郎	沖縄県立博物館技師	230
41		8月20日	竹細工をつくってみよう	勢理客 幸英	竹細工技術保持者	43
42		9月24日	ハブと沖縄の自然	高良 鉄夫	琉球大学教授	110
43		10月22日	沖縄の植物自然	新納 義馬	琉球大学教授	75
44		11月26日	野鳥を中心とした山原の自然	友利 哲夫	沖縄県立名護高等学校教諭	45
45		12月17日	映写会「沖縄の自然」他	玉城 敬一郎	沖縄県立博物館技師	120
46		1月28日	沖縄の神酒	平敷 令治	沖縄国際大学教授	55
47		2月25日	自然観察会「首里末吉の植物」	多和田 真淳	沖縄県森林審議会委員	70
48		3月25日	沖縄の原始農耕 ～考古学的な面からのアプローチ～	新田 重清	沖縄県立博物館学芸員	40
49	昭和五十三年 度	4月22日	和紙と芭蕉紙	勝 公彦	和紙作家	95
50		5月27日	薬草の話	多和田 真淳	植物研究家	80
51		6月25日	島尻の地質見学	大城 逸朗	沖縄県立博物館学芸員	48
52		7月17日	博物館で描こう	喜久村 徳雄	沖縄県立沖縄工業高等学校教諭	41
53		7月29日	喜如嘉の芭蕉布	平良 敏子	喜如嘉の芭蕉布保存会長	105
54		8月13日	貝塚の発掘を見よう	知念 勇	沖縄県立博物館学芸員	48
55		9月16日	琉装について	真栄平 房敬	那覇市立首里中学校教諭	72
56		10月28日	沖縄の天然記念物の動物たち	池原 貞雄	琉球大学教授	88
57		11月4日	尚王家の墓「玉陵」見学ならびに石造文化について	名嘉 正八郎	沖縄県立博物館副館長	90
58		12月26日	映画鑑賞会「イザイホー」他	松田 俊世	沖縄県立博物館教育普及係主事	93
59		1月27日	読谷花織の話し	渡名喜 明	沖縄県立博物館学芸員	102
60		2月17日	沖縄の石造建築	又吉 真三	一級建築士、沖縄建築研究会会長	91
61		3月24日	琉球の帰化植物	宮城 康一	琉球大学助手	48
62	昭和五十四年 度	4月28日	沖縄の民話	遠藤 庄司	沖縄国際大学教授	記録なし
63		5月26日	ケラマジカと保護の話	池原 貞雄 新納 義馬	琉球大学教授	記録なし
64		6月16日	沖縄の漁業と糸満	上田 不二夫	沖縄県立沖縄水産高等学校教諭	記録なし
65		7月28日	博物館で描こう	与儀 達治	興南高等学校教諭	記録なし
66		8月25日	伊江島の先史時代	安里 嗣淳	沖縄県教育庁文化課主任専門員	記録なし
67		10月6日	沖縄の古窯を語る	大城 精徳 宮城 篤正 普天間 敏	陶磁器研究家 沖縄県立博物館教育普及係長 沖縄県立糸満高等学校教諭	記録なし
68		11月3日	映写会（戦前の沖縄関係フィルム他）	賀数 朝正	沖縄県立博物館技師補	記録なし
69		11月25日	史跡めぐり	知念 勇	沖縄県立博物館学芸員	記録なし
70		12月15日	グスクのはなし	嵩元 政秀	興南高等学校教諭	記録なし

71	2月23日	沖縄の自然環境と天然記念物	新納 義馬	琉球大学教授	記録なし		
72	3月22日	熱帯から亜熱帯の白アリの生活	安部 琢哉	琉球大学助教授	記録なし		
73	昭和五十五年 度	4月26日	外国の博物館をめぐって	野原 朝秀	琉球大学教育学部教授	42	
74		5月24日	紅型の世界	渡名喜 明	沖縄県立博物館学芸員	57	
75		6月28日	南極のはなし	木崎 甲子郎	琉球大学教授	188	
76		7月26日	しまうたのはなし	仲宗根 幸市	しまうた研究会々長	50	
77		8月17日	博物館で描こう	神山 泰治	琉球大学助教授	24	
78		8月30日	琉球のシダ植物	島袋 守成	沖縄県立読谷高等学校教諭	36	
79		9月7日	南部の史跡めぐり	名嘉 正八郎 知念 勇	沖縄県立博物館副館長 沖縄県立博物館学芸員	116	
80		9月27日	首里の織物	大城 志津子	琉球大学教授	134	
81		12月20日	戦後沖縄画壇のあゆみ	仲井間 憲児	琉球大学講師	25	
82		1月24日	沖縄近代史の人物群像	比屋根 照夫	琉球大学助教授	70	
83		2月21日	考古学よりみた渡名喜島	当真 嗣一	沖縄県教育庁文化課主任専門員	49	
84		3月28日	本土出かせぎ移住について	石原 昌家	沖縄国際大学助教授	25	
85		昭和五十六年 度	4月25日	菌の話	仲村 直	琉球大学助教授	40
86			6月27日	沖縄の系図について	田名 真之	那覇市史編集室	80
87	7月25日		博物館で描こう	神山 泰治	琉球大学助教授	20	
88	8月22日		ハブの話	吉田 朝啓	沖縄県立公害衛生研究所長	90	
89	9月20日		北部の史跡めぐり	名嘉 正八郎 知念 勇	沖縄県立博物館副館長 沖縄県立博物館学芸員	100	
90	12月19日		冊封使の話	島尻 勝太郎	沖縄大学理事長	100	
91	1月23日		沖縄の音楽 ～特に中国音楽とのかかわりについて～	喜名 盛昭	沖縄県立沖縄水産高等学校教諭	60	
92	2月27日		神々の島 久高	比嘉 康雄	写真家	70	
93	3月20日		今帰仁城跡 発掘調査の話	金武 正紀	沖縄県教育庁文化課専門員	70	
94	昭和五十七年 度	4月17日	沖縄の民俗芸能	宜保 榮治郎	沖縄県教育庁文化課課長補佐	70	
95		6月26日	沖縄の野鳥をたずねて	友利 哲夫	沖縄県立本部高等学校教諭	35	
96		7月31日	昆虫の野外観察	長嶺 邦雄	沖縄昆虫同好会 那覇市立松島中学校教諭	50	
97		8月8日 8月15日	陶芸教室 1 陶芸教室 2	宮城 勝臣	陶芸家	103	
98		9月4日 9月5日	久米島の史跡めぐり	名嘉 正八郎 上江洲 均 知念 勇	沖縄県立博物館副館長 沖縄県立博物館学芸係長 沖縄県立博物館主任学芸員	41	
99		9月25日	宮古上布の話	大城 志津子	琉球大学教授	85	
100		10月16日	100回記念「博物館の歴史展示について」	坪井 清足	奈良国立文化財研究所長	100	
No. なし		10月30日	永青文庫と細川家	細川 護貞	細川家17代当主・永青文庫顧問	特別講演会	
No. なし			考古学上からみた熊本	乙益 重隆	国学院大学教授		
101		1月29日	考古学よりみた南島の葬制について	当真 嗣一	沖縄県教育庁文化課主任専門員	58	
102	2月26日	琉球の位階制度	宮里 朝光	那覇市立城東小学校々長	73		
103	3月26日	沖縄の食制について	金城 須美子	琉球大学助教授	29		

104	昭和五十八年度	4月23日	蔡温とその政策 ～近世社会の再編と平敷屋事件～	田里 修	浦添市史編集嘱託	57	
105		5月28日	王朝時代の琉球漆器について	前田 孝允	漆芸家	62	
106		6月25日	沖縄の地名	名嘉 順一	沖縄県立那覇商業高等学校教諭	56	
107		7月9日	宮古の史跡めぐり	仲宗根 将二 知念 勇	平良市史文化財審議委員 沖縄県立博物館教育普及係長	35	
108		7月30日	昆虫教室	長嶺 邦雄 昆虫同好会	那覇市立松島中学校教諭	50	
109		8月14日 8月21日	陶芸教室 1 陶芸教室 2	宮城 勝臣	陶芸家	93	
110		9月17日	星の話	東盛 良夫	琉球大学助教授	128	
111		10月22日	ヒマラヤの風土から	目崎 茂和	琉球大学助教授	32	
112		11月26日	弥生前期土器を出した真栄里貝塚について	高宮 廣衛	沖縄国際大学教授	32	
113		12月17日	近世沖縄の海運と商活動	高良 倉吉	沖縄県史料編集専門員	55	
114		1月28日	沖縄の獅子（シーサー）	長嶺 操	興南高等学校教諭	50	
115		2月25日	沖縄の両生爬虫類	当山 昌直	沖縄県立博物館学芸員	29	
116		3月24日	那覇の今昔	崎間 麗進	沖縄県文化財保護審議会専門委員	50	
117		昭和五十九年度	4月28日	第1回収蔵品解説会 「県指定三味線の江戸与那・志多伯開鐘及び 盛嶋開鐘について」	又吉 真三	沖縄県文化財保護審議会委員	25
118			6月9日	収蔵品解説会 「壺丕烈 筆「首里旧城の図」について」	神山 泰治 真栄平 房敬	琉球大学助教授 那覇市文化財調査審議会	28
119			7月14日	展示資料会 玉城朝薫生誕200年記念 「琉球芸能の世紀」	池宮 正治	琉球大学教授	28
120	7月28日 7月29日		昆虫教室	長嶺 邦雄 比嘉 正一 佐藤 文保 岩附 信紀 上杉 兼司 堀 茂久	沖縄昆虫同好会会員	98	
121	8月4日 8月16日		陶芸教室	宮城 勝臣	陶芸家	60	
122	8月18日		拓本教室	崎間 麗進 上江洲 敏夫	文化財修理技術者協会理事 沖縄県立博物館学芸員	記録なし	
123	8月26日		標本鑑定会	大城 逸朗 高良 拓夫 豊見山 元 平田 義浩 金城 政勝 当山 昌直	沖縄県立教育センター指導主事 沖縄県立南風原高等学校教諭 沖縄県立具志川高等学校教諭 日本貝類学会会員 琉球大学助手 沖縄県立博物館学芸員	15	
124	8月26日		民具教室「わら」	上江洲 均	沖縄県立博物館学芸係長	70	
125	9月29日		沖縄の昆虫	東 清二	琉球大学農学部教授	13	
126	10月21日		北部史跡めぐり	金城 正紀	沖縄県教育庁文化課主任専門員	50	
127	11月18日		石碑めぐり	崎間 麗進	沖縄県文化財保護審議会専門委員	25	
128	記録なし		民具教室「たこづくり」	記録なし	記録なし	中止	
129	12月8日		「土器」について	知念 勇	沖縄県立博物館教育普及係長	29	
130	3月2日		紅型の世界	渡名喜 明	沖縄県教育庁文化課専門員	31	
131	4月20日		三線解説会	又吉 真三 黒島 惇	沖縄県文化財保護審議会委員会委員 沖縄県立奥武山競技場	26	
132	7月27日		昆虫標本解説会	東 清二	琉球大学農学部教授	18	
133	8月11日		民具教室	上江洲 均	沖縄県立博物館学芸員	70	

134	昭和六十年 度	8月17日	拓本教室	崎間 麗進 又吉 真三 上江洲 敏夫	沖縄県文化財保護審議会専門員 沖縄県文化財保護審議会委員 沖縄県立博物館学芸員	20
135		8月23日 8月24日 8月25日	紅型教室	藤村 玲子	藤村びんがた工房	20
136		9月8日	南部のグスクめぐり	知念 勇	沖縄県立博物館学芸員	25
137		9月28日	沖縄の陶器	宮城 篤正	浦添市立図書館長	29
138		11月16日	グスク展示解説会	知念 勇	沖縄県立博物館教育普及係長	25
139	昭和六十一年 度	4月19日	『おもろさうし』解説会	池宮 正治	琉球大学教授	20
140		5月17日	民具解説会「洗骨習俗と厨子甕」	上江洲 均	沖縄県立博物館学芸課長	46
141		7月26日 7月27日	自然保護講座 「自然保護課の業務」 「天然記念物の諸問題」 「沖縄海域の自然保護について」 「自然保護を考える（植物の側から）」 「動物の保護について（特にヤンバルクイナの繁殖3例について）」	城間 英光 当山 昌直 西平 守孝 新納 義馬 池原 貞雄	沖縄県環境保健部 技師 沖縄県教育庁文化課専門員 琉球大学 教授 琉球大学 教授 琉球大学 名誉教授	44
142		8月16日	拓本教室	崎間 麗進 与那嶺美和子 上江洲 敏夫	沖縄県文化財保護審議会専門員 文化財修理技術者協会会員 沖縄県立博物館学芸員	19
143		8月22日 8月23日 8月24日	紅型教室	藤村 玲子	染織家	17
144		9月7日	中部グスクめぐり	知念 勇	沖縄県立博物館教育普及課長	51
145		11月29日	絵画解説会「沖縄の絵画」	神山 泰治	琉球大学助教授	21
146		12月13日	織物解説会「手織」	与那嶺 一子	沖縄県立博物館学芸員補	32
147		1月24日	古銭について	嵩元 政秀	興南高等学校教諭	20
148		昭和六十二年 度	4月18日	発掘された首里城正殿跡	當眞 嗣一	沖縄県教育庁文化課主幹
149	5月23日		沖縄のかじ屋	朝岡 康二	沖縄県立芸術大学教授	56
150	6月27日		沖縄の化石人類たち	知念 勇	沖縄県立博物館学芸課長	46
151	7月24日 7月25日 8月26日		紅型教室	藤村 玲子	紅型研究家	17
152	8月2日		親子民具教室「わら細工」	上江洲 均	沖縄県立博物館副館長	27組60名
153	8月15日		拓本教室	崎間 麗進 上江洲 敏夫 与那嶺美和子	沖縄県文化財保護審議会専門員 沖縄県立図書館史料編集室主任専門員 沖縄県文化財修理技術者協会会員	19
154	9月26日		沖縄織物の図案～御絵図～	大城 志津子	沖縄県立芸術大学教授	40
155	10月31日		展示解説会「沖縄近代の絵画」	神山 泰治	琉球大学助教授	18
156	11月8日		北部史跡めぐり	知念 勇	沖縄県立博物館学芸課長	42
157	12月5日		田名家所蔵品展	田名 真之	那覇市文化振興課主査	50
158	1月16日	展示解説会「現代沖縄の陶芸」	宮城 篤正	浦添市立図書館長	31	
159	2月6日	ボルネオの熱帯雨林	宮城 康一	琉球大学	15	
160	3月5日	ヤンバルの自然	宮城 邦治	沖縄国際大学助教授	31	
161		4月30日	琉球と東南アジアの交流史	高良 倉吉	浦添市立図書館長	109
162		5月21日	バナリ焼について	大嶺 実清	沖縄県立芸術大学助教授	44
163		6月11日	沖縄、川の魚の話	幸地 良仁	沖縄県立南風原高等学校教諭	24
164		7月31日	親子民具教室	外原 淳	「星ッコロ」沖縄玩具伝承友の会主宰	26組52名

165	昭和六十三年 度	8月	展示解説会「ヤンバルの自然展」	千木良 芳範	沖縄県立博物館指導主事	30
166		9月10日	ヤンバルの天然記念物	池原 貞雄	琉球大学名誉教授	54
167		9月24日	久米島の史跡めぐり	上江洲 均 知念 勇	沖縄県立博物館副館長 沖縄県立博物館学芸課長	44
168		10月15日	湧田古窯の発掘調査について	安里 嗣淳	沖縄県教育庁文化課主幹 兼 埋蔵文化財係長	28
169		10月22日	湧田古窯と沖縄の瓦窯	小渡 清孝	沖縄県歴史の道調査員	中止
170		11月5日	展示解説会「三線名器100挺展」	宜保 榮治郎 大城 學	沖縄県教育庁文化課課長 沖縄県立博物館専門員	50
171		12月3日	琉球の彫刻	西村 貞雄	琉球大学助教授	24
172		1月21日	建築家がみた首里城正殿	福島 清	株式会社国建海外部次長	83
173		2月18日	拓本教室	崎間 麗進 上江洲 敏夫	沖縄県文化財保護審議会専門部会委員 沖縄県立図書館主任専門員	14
174		3月18日	紅型の型紙	金城 純子	沖縄県工芸指導所研究員	16
175	平成元 年度	4月22日	考古学からみた宮古・八重山の歴史	金武 正紀	沖縄県教育庁文化課主任専門員	53
176		5月20日	蔡温とその時代	糸数 兼治	沖縄県立図書館主幹	73
177		6月24日	ラン科植物の花のしくみと進化について	横田 真嗣	琉球大学理学部助手	25
178		7月22日	琉球漆器～螺鈿をめぐる～	前田 孝允	漆芸家	35
179		8月12日	沖縄の古窯	小渡 清孝	地域史協議会会員	55
180		8月27日	親子民具教室	外原 淳	沖縄玩具伝承友の会主宰	78
181		9月9日	冊封使と琉球	富島 壮英	沖縄県立図書館主査	74
182		10月21日	ビルマニシキヘビの増殖と利用	大谷 勉	沖縄こどもの国大爬虫類館々長	40
183		11月3日	特別講演「インドネシアの更紗」	吉本 忍	国立民族学博物館第2 研究部助手	244
184		12月16日	沖縄の戦後芸能史	大城 學	沖縄県立博物館専門員	50
185		1月27日	特別講演 ※首里公民館にて 「古代アンデス文明 ～インカ帝国の滅亡まで～」	増田 義郎	東京大学名誉教授	476
186		2月3日	特別講演「南米ペルーと沖縄」	石川 友紀	琉球大学法文学部教授	82
187		3月10日	琉球の書	屋部 憲次郎	夢華書道教室主宰・書家	86
188	平成二 年度	4月28日	グスクの見方・調べ方	當眞 嗣一	沖縄県立博物館主幹兼教育普及課長	89
189		5月19日	宮古の古謡	新里 幸昭	沖縄県立中部商業高等学校教諭	40
190		6月16日	選挙制度を通して見た沖縄戦後史	波平 常則	西原町役場企画課係長	26
191		7月21日	清水貝塚の発掘成果	盛本 勲	沖縄県教育庁文化課専門員	47
192		8月11日	スライドオッチング「沖縄の野鳥」	嵩原 健二	沖縄県教育庁文化課指導主事	87
193		9月22日	収蔵品解説会「花織」	祝嶺 恭子	沖縄県立芸術大学教授	48
194		10月20日	収蔵品解説会「灰釉碗の話」	池田 榮史	琉球大学法文学部助教授	44
195		11月3日	沖縄の祭り	崎原 恒新	沖縄市立越來中学校教諭	46
196		12月2日	親子民具教室「凧づくり」	外原 淳	沖縄玩具伝承友の会主宰	20組50名
197		1月19日	ヤモリあれこれ	太田 英利	琉球大学理学部助手	56
198		2月9日	展示解説会「大城志津子の世界」	多和田 淑子	染織家	53
199		3月16日	掘り出された北谷グスク	中村 愿	北谷町教育委員会主事	90
200	4月20日	稲作の起源と伝承	佐々木 高明	国立民族学博物館教授	220	

201	平成 三 年 度	5月18日	海の中のあぶない奴ら	新城 安哲	沖縄県公害衛生研究所ハブ研究部研究員	59
202		6月15日	八重山の神歌	波照間 栄吉	沖縄県立芸術大学附属研究所助教授	50
203		7月20日	仲原遺跡と貝塚時代の住居	上原 静	沖縄県教育庁文化課専門員	77
204		8月4日	野外観察会「ちょうちょと遊ぼう」	長嶺 邦夫 比嘉 正一 新城 安哲	国頭村立佐手中学校教諭 東南植物楽園学芸員 沖縄県公害衛生研究所研究員	58
205		9月21日	展示解説会「壺屋の陶工」	平良 邦夫	沖縄県工芸産業振興審議委員会副会長	75
206		10月15日	特別講演「アジアの音楽」	藤井 知昭	国立民族学博物館教授	78
207		11月16日	首里城物語	真栄平 房敬	那覇市文化財調査審議員委員	84
208		12月21日	収藏品解説会「沖縄の文様」	翁長 自修	琉球大学教育学部美術工芸科教授	55
209		1月18日	中国の古窯を訪ねて	知念 勇	沖縄県教育長文化課課長補佐	87
210		2月15日	泡盛の話	玉城 武 照屋 比呂子	東京国税局鑑定官 沖縄工業試験場食品室長	250
211		3月14日	歴史の道をあらく	當眞 嗣一 萩尾 俊章	沖縄県立博物館教育普及課長 沖縄県立博物館学芸員	161
212	平成 四 年 度	4月18日	近世琉球の王廟祭祀について	豊見山 和行	琉球大学教育学部助教授	27
213		5月16日	5.15記念：復帰20周年を考える	大城 将保	沖縄県立博物館学芸課長	57
214		6月6日	子供の遊びと文化	前川 守夫	沖縄県立西原高等学校教諭	中止
215		6月27日	特別文化講座「古代メキシコの芸術」	大貫 良夫	東京大学教授	130
216		7月18日	中城御殿の御道具	真栄平 房敬	那覇市文化財調査審議員委員	87
217		8月15日	特別文化講座 「琉球列島 陸産貝類の地理的分布」	波部 忠重	元国立科学博物館動物研究室長	111
218		9月19日	イリオモテヤマネコの話	比嘉 源和	沖縄こどもの国飼育係長	20
219		10月17日	ハングルととうがらし	津波 高志	琉球大学助教授	24
特別 講演		11月7日	①異文化とのであい ～九州各地に文明のあとをたどる～ 「文化と文明」 「沖縄の民俗文化に見る異文化接触」	徳川 義宣 比嘉 政夫	徳川美術館館長 琉球大学教授	記録なし
特別 講演		11月28日	②琉球王国 ～大交易時代とグスク～ フォーラム	大城 立裕 嵩元 政秀 金城 正篤 村田 修三 矢部 良明	琉球大学法文学部教授 興南高等学校校長 琉球大学法文学部教授 奈良女子大学文学部教授 東京国立博物館陶磁室長	記録なし
220		12月19日	グスクを歩く	當眞 嗣一 萩尾 俊章	沖縄県立博物館教育普及課長 沖縄県立博物館学芸員	120
221	1月16日	沖縄の染色	伊元 幸春	沖縄県工芸指導所主任研究員	70	
222	2月13日	土器の話	島袋 洋	沖縄県教育庁文化課専門員	中止	
223	3月6日	書家謝花雲石先生を語る	曾根 信一	沖縄県博物館協議会理事	150	
224	平成 五 年 度	4月17日	土器の話	島袋 洋	沖縄県教育庁文化課専門員	30
225		5月15日	米国の博物館活動	前田 真之	沖縄県立博物館指導主事	37
226		6月19日	ウッチンの話1 ウッチンの話2 近世琉球王府による買占 ～ウッチンを事例にして～	片岡 淳 里井 洋一	琉球大学助教授 琉球大学助教授	90
227		7月17日	芭蕉布とともに	平良 敏子	染織家	250
228		8月21日	生きものにやさしい川づくり	水野 信彦	愛媛大学教授	74
229		9月18日	サンバの話	久貝 勝盛	沖縄県立博物館指導主事	30
230		10月16日	拓本教室	崎間 麗進 阿波根 直孝 運天 美和子	沖縄県文化財修理技術者協会副会長 沖縄県文化財修理技術者協会会員 沖縄県文化財修理技術者協会会員	23

		10月23日	拓本のひょうぐ方法	当間 博	表具師	20	
231		11月20日	琉球王朝絵画と中国絵画	神山 泰治	琉球大学教授	58	
232		12月18日	野鳥に親しむ	嵩原 建二	沖縄県立博物館指導主事	40	
233		1月22日	寄りもの話	當眞 嗣一	沖縄県立博物館教育普及課長	47	
234		2月19日	ホームビデオの制作	西村 治良	NHK沖縄放送局ディレクター	15	
235		3月19日	歴史の道を歩く～奄ヶ岳参詣道(まーい)～	萩尾 俊章	沖縄県立博物館学芸員	45	
236	平成 六年度	4月16日	沖縄の芸能	宜保 榮治郎	芸能研究家	94	
237		5月21日	菓草の話(ウッチン)	吉川 敏男	沖縄健康管理センター所長	140	
238		6月18日	ラオスの染織	柳 悦州	沖縄県立芸術大学助講師	101	
239		7月16日	沖縄のトンボ	佐藤 文保	ZEROの森の友の会会員	56	
240		8月6日	子どもの世界	青柳 まちこ	立教大学教授	47	
241		9月17日	拓本教室	崎間 麗進 運天 美和子 屋部 邦秀	沖縄県文化財修理技術者協会副会長 沖縄県文化財修理技術者協会会員 拓本研究家	20	
242		10月15日	山原の海神祭(ウンガミ)	桃原 茂夫	沖縄県教育庁文化課指導主事	33	
243		11月19日	野鳥に親しむ	嵩原 建二 久貝 勝盛	沖縄県立博物館指導主事	30	
244		12月17日	鉄器の話	大城 慧	沖縄県教育庁文化課埋蔵文化財係長	51	
245		1月21日	歴史の道を歩く	萩尾 俊章	沖縄県立博物館学芸員	50	
246		2月18日	東南アジアの漆文化	宮里 正子	浦添市立美術館嘱託学芸員	40	
247		3月18日	塩の文化	金城 透	沖縄県教育庁文化課専門員	50	
248		平成 七年度	4月15日	在米沖縄関連文化財について	園原 謙	沖縄県教育庁文化課専門員	47
249			5月20日	韓国の綱引き	津波 高志	琉球大学教授	73
250	6月24日		特別文化講座「米軍統治下の言論統制」	門奈 直樹	立教大学教授	50	
No.なし	7月2日		特別展開連行事「親子史跡めぐり」	村上 有慶 石原 恭枝	沖縄平和ネットワーク事務局長 沖縄平和ネットワーク会員	50	
251	7月15日		沖縄戦から50年	大城 将保	沖縄県立博物館学芸課長	90	
252	8月19日		戦跡考古学	當眞 嗣一	沖縄県立博物館教育普及課長	86	
253	9月16日		アメリカの美術館	翁長 直樹	沖縄県観光文化局文化振興課主査	68	
254	10月21日		歴史の道を歩く	萩尾 俊章	沖縄県立博物館学芸員	50	
255	11月11日		野鳥に親しむ	嵩原 健二 久貝 勝盛	沖縄県立博物館指導主事	30	
256	12月16日		中国からきた風水思想	小熊 誠	沖縄国際大学教授	202	
257	1月20日		遺跡めぐり	當眞 嗣一	沖縄県立博物館教育普及課長	45	
258	2月17日		イリオモテヤマネコの生態	伊澤 雅子	琉球大学助教授	58	
259	3月16日		中琉歴史関係について	糸数 兼治	沖縄県立博物館長	146	
260			4月20日	グスクめぐり～中城～	當眞 嗣一	沖縄県立博物館学芸課長	45
261		5月18日	野鳥に親しむ：干潟の野鳥に親しむ	嵩原 建二 与那城 義春	沖縄県立博物館指導主事	30	
262		7月13日	波照間のことば	加治工 真市	沖縄県立芸術大学教授	57	
263		8月17日	久米島～しぜん・ひと・ものを語る～	上江洲 均	名桜大学教授	250	
264		10月26日	結びについて～藁算を中心に～	栗田 文子	日本民具学会会員	68	

265	平成八年度	11月9日	星座観察会	神谷 厚昭	沖縄県立博物館指導主事	40
266		12月14日	沖縄県の博物館50年史	池田 榮史	琉球大学教授	39
267		1月18日	歴史の道を歩く～真珠道まーいー	萩尾 俊章	沖縄県立博物館学芸員	40
268		2月15日	収蔵資料解説会「厨子甕を中心に」	太田 建一	沖縄県立博物館指導主事	50
269		3月15日	収蔵資料解説会「紅型の型紙を中心に」	与那嶺 一子	沖縄県立博物館学芸員	60
270	平成九年度	5月17日	今、なぜアルゼンチンの恐竜か	長谷川 善和	群馬県立自然史博物館館長	98
271		6月21日	民間の哲学者ユタ～揺れる民俗的世界観～	玉城 毅	沖縄民俗学会会員	198
272		7月19日	沖縄島の生い立ち～地層観察会～	神谷 厚昭	沖縄県立博物館指導主事	40
273		8月30日	組踊写本の現状と上演	當間 一郎	沖縄県立博物館館長	87
274		9月20日	近世の学校と試験～科（こう）を中心に～	田名 真之	那覇市歴史資料室室長	61
275		11月15日	野鳥観察会	与那城 義春	沖縄県立博物館指導主事	30
276		12月20日	遺跡めぐり～萩堂貝塚・大山貝塚～	當眞 嗣一	沖縄県立博物館主幹兼学芸課課長	45
277		1月17日	西南中国の酒と泡盛	萩尾 俊章	沖縄県立博物館学芸員	70
278		2月21日	古人骨は語る～沖縄人のルーツ～	土肥 直美	琉球大学助教授	124
279		3月14日	収蔵資料解説会「琉球の絵画」	津波古 聰	沖縄県立博物館指導主事	53
280	平成十年度	4月18日	ハワイ・ビショップ博物館の活動	太田 建一	沖縄県立博物館指導主事	32
281		5月16日	世界遺産について	我那覇 念	沖縄県教育庁文化課指導主事	72
282		6月20日	生物の来た道	木崎 甲子郎	琉球大学名誉教授	63
283		7月18日	ペリーの日本遠征 ～前進基地としての琉球王国～	照屋 善彦	琉球大学名誉教授	115
284		7月25日	琉球王国時代の作物	小山 鐵夫	日本大学教授	130
285		9月19日	沖縄の村踊り	當間 一郎	沖縄県立博物館館長	80
286		11月17日	特別展・展示解説会 「包むこころ ふろしき」	三瓶 清子	郡山倭文の会会長	144
287		12月5日	ふろしきの文化	竹村 昭彦	宮井株式会社商品部顧問 企画開発室長	130
288		1月16日	野鳥観察会	高原 建二	沖縄県立博物館指導主事	32
289		2月20日	グスクめぐり	當眞 嗣一 矢沢 秀雄	沖縄県教育庁文化課課長補佐 沖縄県教育庁文化課調査囃託員	36
290		3月20日	昭和期の中城御殿	真栄平 房敬	那覇市文化財調査審議会委員	160
291	平成十一年度	4月17日	植物観察会	佐久本 徹 宮城 朝章	県立高等学校元教頭 県立高等学校元教諭	36
292		5月15日	沖縄の祖先祭祀をめぐって	赤嶺 政信	琉球大学法文学部助教授	173
293		6月19日	まじないの世界観 ～沖縄の魔除けと呪符の歴史	山里 純一	琉球大学	137
294		9月18日	金属文化の風景 ～神女の簪や盃を中心に～	栗国 恭子	沖縄国際大学非常勤講師	72
295		10月30日	工芸技術の継承	上江洲 敏夫	具志川市史編さん室	67
296		12月18日	南部の遺跡めぐり	大城 慧	沖縄県立博物館学芸課長	41
297		1月15日	野鳥観察会	吉里 伸 山城 政邦 仲宗根 励	沖縄野鳥の会	21
298		1月29日	歴史の道を歩くパートⅠ 歴史の道を歩くパートⅡ	古塚 達朗 (Ⅰ・Ⅱ) 萩尾 俊章	那覇市教育委員会生涯学習部文化財課 主幹兼文化財係係長 沖縄県教育庁文化課文化財係長	68
		2月19日				

299		3月18日	アジアの美術館事情 ～シンガポール ・アートミュージアムの事例～	前田 日呂也	沖縄県文化国際局文化振興課主査	21
300	平成 十二 年度	5月14日	沖縄県立博物館300回記念文化講座 「アジアの民俗と沖縄」	比嘉 政夫	国立歴史民俗博物館教授	227
301		6月11日	沖縄戦の学び方	大城 将保	前沖縄県立博物館館長 沖縄平和ネットワーク代表	104
302		8月5日	グスクと英雄の墓めぐり-本島中部地域	嵩元 政秀 仲宗根 求	沖縄考古学会会長 読谷村教育委員会	34
303		8月19日	歴史散歩のみち～東御廻り (アガリウマ-イ) ～	大城 秀子	知念村教育委員会社会教育課主査	38
304		9月16日	収蔵品解説会「陶器」	津波古 聡	沖縄県立博物館指導主事	29
305		10月21日	尚家文書がかたる世界	田名 真之	那覇市経済文化部歴史資料室長	104
306		11月18日	ハワイ移民百周年記念特別展 日系移民1世紀展 「沖縄の移民」	石川 友紀	琉球大学教授	139
307		12月9日	沖縄人 (ウチナンチュ) の来た道	土肥 直美	琉球大学助教授	124
308		1月20日	資源植物としての繊維・染料植物	花城 良廣	沖縄海洋博記念公園亜熱帯都市緑化植物園長	90
309		2月17日	染織からみる～染料植物～	新垣 幸子	沖縄県指定無形文化財「八重山上布」 技能保持者	137
310	3月10日	北部の野鳥観察会	嵩原 建二	沖縄県立博物館指導主事	39	
311	平成 十三 年度	5月20日	世界遺産を支えた人びとその裏面史	宜保 榮治郎	沖縄大学教授	84
312		6月17日	資料収集こぼれ話	宮城 篤正	美術評論家	36
313		7月28日	易しい地名研究入門 ～首里の地名を語りつつ～	久手堅 憲夫	南島地名研究センター幹事	182
314		8月18日	海の生物の観察	屋比久 壮実	写真家	40
315		8月26日	心から好きな糸の話	宮平 初子	重要無形文化財「首里の織物」保持者	196
316		9月29日	沖縄の地形	前門 晃	琉球大学法文学部教授	120
317		10月20日	イノウの利用と漁具・漁法	上田 不二夫	沖縄大学法経学部教授	53
318		1月19日	琉球庭園の歴史	古塚 達朗	那覇市教育委員会生涯学習部 文化財課主幹兼文化財係長	172
319		2月23日	東アジアからみたグスク時代	池田 榮史	琉球大学法文学部教授	132
320		3月16日	中部の遺跡めぐり～グスクを歩き考える～	新田 重清	沖縄考古学会副会長	40
321	平成 十四 年度	5月18日	きからじの世界～琉髪のかき方～	小波 則夫	琉球髪結師	217
322		6月15日	収蔵品解説会「彫刻」	津波古 聡	沖縄県立博物館学芸課長	49
323		7月21日	海の生物の観察	屋比久 壮実	生態写真家	34
324		8月3日	方言で語る首里の暮らし	宮里 朝光	沖縄方言普及協議会会長	195
No. なし		8月24日	沖縄県立博物館 復帰30周年特別展 「港川人展～元祖ウチナンチュ～」関連催事 シンポジウム「港川人の世界」	馬場 悠男 野原 朝英 土肥 直美 知念 勇 大山 盛弘	国立科学博物館人類研究部長 沖縄地学会会長 恩納村博物館館長 琉球大学医学部助教授 OK運輸合資会社社長	記録なし
325		9月7日	考古学から見た港川フィッシャー遺跡	岸本 義彦	沖縄県教育庁文化課主任専門員	130
No. なし		9月8日 9月14日	沖縄県立博物館 復帰30周年特別展 「港川人展～元祖ウチナンチュ～」関連催事 洞穴遺跡観察会	知念 幸子 宮木 勉	沖縄県立球陽高等学校教諭 沖縄県立博物館指導主事	記録なし
No. なし		9月21日	沖縄県立博物館 復帰30周年特別展 「港川人展～元祖ウチナンチュ～」関連催事 特別講演会「港川人がいた頃の沖縄は」	長谷川 善和	群馬県立自然史博物館館長	記録なし
326		10月19日	海の郡星～漁撈体験を交えて～	稲福 政吉	漁撈研究家	123
327		11月24日	久高島の民俗とイザイホー	湧上 元雄	玉城村文化協会会長	171

328	12月1日	近世琉球の海運と海人	豊見山 和之	琉球大学助教授	87
329	1月19日	野鳥観察会	嵩原 建二 山城 政邦	沖縄県立博物館指導主事 野鳥の会会員	40
330	2月9日	戦後沖縄の看護学校	大城 弘子	沖縄県福祉保健部参事 沖縄県立沖縄看護学校元学校長	57
331	2月15日	首里の文化財めぐり	萩尾 俊章	沖縄県教育庁文化課文化財係長	41
332	3月8日	糸の話～編むと織る～	片岡 淳	琉球大学助教授	102
333	5月25日	刻まれた歴史～金石文いろいろ～	崎間 麗進	郷土史家	147
334	6月21日	身のまわりの自然をさぐる ～ゲッチョ先生の骨の教室～	盛口 満	フリースクール講師	84
335	7月12日	沖縄の星の話	知念 正永	郷土史家	92
336	8月9日	琉球絵画のはなし	津波古 聡	沖縄県立博物館学芸課長	48
337	9月13日	沖縄の文化財保護のあゆみ	園原 謙	沖縄県教育庁文化施設建設室主任	58
338	9月28日	白とくらし	桃原 茂夫	沖縄県立糸満高等学校教諭	31
339	10月19日	古写真にみる沖縄のうつりかわり	野々村 孝夫	歴史研究家	79
No. なし	11月1日	沖縄県立博物館特別文化講演会 「田中俊雄～沖縄の織物とその研究～」	吉岡 幸雄	染織研究家	153
340	11月22日	地機（じばた）の話 ～かたち・しくみ・使い方～	幸喜 新	沖縄市商工労政課嘱託	95
No. なし	12月6日	沖縄県立博物館特別企画展関連催事 ギャラリートーク	与那嶺 一子	沖縄県教育庁 文化施設建設室主任専門員	記録なし
341	12月20日	貝塚時代のアクセサリー	島袋 春美	沖縄考古学会会員	28
342	12月25日	グスク巡り～南部地区～	當眞 嗣一	沖縄県立博物館館長	39
343	2月21日	亜熱帯に生きる動物たち ～25年のフィールドワークを通して～	田中 聡	沖縄県立博物館指導主事	51
344	3月13日	琉球玩具（張り子）の世界 ～尾崎清次と『琉球玩具図譜』を中心に～	久場 政彦	沖縄県立博物館指導主事	37
345	5月15日	戦後沖縄の女性	小野沢あかね	琉球大学助教授	59
346	6月19日	金細工（かんぜーく）の技	又吉 健次郎	金細工師	116
347	7月4日	琉球漢詩について	上里 賢一	琉球大学教授	37
348	7月31日	沖縄の地形・地質・化石	座覇 泰	沖縄県立博物館指導主事	41
349	8月21日	風俗画	津波古 聡	沖縄県立博物館学芸課長	59
350	9月18日	近代沖縄における泡盛の変遷	萩尾 俊章	沖縄県教育庁文化課係長	81
351	10月16日	福建と沖縄の祖先祭祀	小熊 誠	沖縄国際大学教授	114
352	12月4日	海をこえて持ちこまれた動物たち	太田 英利	琉球大学熱帯生物圏研究センター助教授	97
353	12月18日	干潟の野鳥観察会	嵩原 建二	沖縄県立博物館指導主事	34
354	1月23日	グスク巡り～中部地区～	當眞 嗣一	沖縄県立博物館館長	43
355	2月19日	首里の文化財めぐり	久場 政彦	沖縄県立博物館指導主事	23
356	3月19日	考古学と歴史研究 ～40年のフィールドワークを通して～	當眞 嗣一	沖縄県立博物館館長	170
357	5月21日	家譜に見る絵師の世界	平川 信幸	沖縄県立博物館学芸員	97
358	6月18日	近世琉球の社会生活史	豊見山 和行	琉球大学教授	87
359	7月16日	沖縄出土の輸入陶磁器	新垣 力	沖縄県教育庁文化課記念物係専門員	62

360	平成十七年度	9月17日	空手道伝来の謎を解く	金城 照夫	福建少林寺唐手道宗家 日本武当太極拳本部会長 太極武道館館長	130
361		10月15日	サンゴ礁 生物が創り出す美しい世界	西平 守孝	名桜大学教授	65
362		11月3日	沖縄・博物館ものがたり	園原 謙	沖縄県教育庁 文化施設建設室博物館班主任専門員	65
363		12月17日	グスク巡り～北部地区～	當眞 嗣一	元沖縄県立博物館館長	34
364		1月21日	中城御殿の御道具美術工芸	真栄平 房敬	那覇市文化財臨時審議委員	150

※参照『沖縄県立博物館年報No.9～No.40（1976～2007）』

(2) おもろまち新館 平成19年～平成28年度（2007～2016）

回		期日	演 題	講 師		参加
365	平成十九年度	11月10日	開館記念特別講演「港川人の来た道」	馬場 悠男	国立科学博物館人類研究部部長	200
366		11月24日	動物化石から見た港川人のいたころの沖縄	長谷川 善和	群馬県立自然史博物館館長	140
367		12月15日	対談1「沖縄人のルーツを探る」	土肥 直美 安里 進	琉球大学医学部准教授 沖縄県立芸術大学教授	200
368		1月12日	対談2「化石の宝庫・沖縄の可能性」	大城 逸朗 諏訪 元	おきなわ石の会会長 東京大学総合研究博物館教授	150
369		2月16日	首里・那覇港図屏風から見た近世の琉球社会 ～港町・交易・紛争～	豊見山 和之	琉球大学教育学部教授	70
370		3月15日	博物館新館の展示物をつくる！ ～染織品復元を例にして～	與那嶺 一子	沖縄県教育庁文化施設建設室 主任学芸員	記録無し
371	平成二十年度	5月17日	琉球円覚寺仏殿の模型製作 CGによる旧那覇市街地の町並み再現	宮城 慎平 浦崎 文雄	沖縄県職業能力開発大学校卒	110
372		6月21日	沖縄をたどる～現代・沖縄の思想～	比屋根 照夫	琉球大学名誉教授	83
373		7月26日	特別展開連シンポジウム 「りゅうきゅうときょうりゅう」	平山 廉	早稲田大学教授	105
374		8月2日	恐竜は本当に絶滅したのか？	長谷川 善和	群馬県立自然史博物館館長	150
375		8月16日	干潟の観察	西平 守孝	名桜大学教授	20
376		9月20日	ずしがめの世界探訪	上江洲 均	久米島自然文化センター名誉館長	142
377		10月18日	港川人を訪ねて	大岡 素平	沖縄ワールド主任	41
378		11月15日	故宮の中の金工品	久保智康	京都国立博物館学芸課室長	215
379		12月13日	特別展開連シンポジウム	高良 倉吉 田名 真之 宮里 正子 真栄平房昭 上江洲安亨 渡辺 美季	琉球大学教授（コーディネーター） 沖縄国際大学教授 那覇市歴史博物館主幹 神戸女学院大学教授 首里城公園管理センター主査 東京大学研究員	525
380		1月17日	銀が繋ぐ二つの世界遺産	仲野 義文 真栄平 房昭	石見银山資料館館長 神戸女子大学教授	100
381		1月24日	沖縄考古学の現状	島袋 洋	沖縄県教育庁文化課記念物班班長	50
382		2月21日	沖縄と奄美の文化を語る	津波 高志	琉球大学教授	80
383	3月28日	ベルリン博物館所蔵の沖縄の染織	祝嶺 恭子	沖縄県立芸術大学名誉教授	112	
384	5月9日	特別展開連シンポジウム 「薩摩の琉球侵攻400年を考える」	上原 兼善 紙屋 敦之 弓削 政己 真栄平 房昭 高良 倉吉 豊見山 和行	岡山大学特任教授 早稲田大学文学学術院教授 奄美郷土研究会 神戸女学院大学教授 琉球大学教授 コーディネーター・琉球大学教授	540	

385	6月20日	三線と沖縄の人々たち	大城 學	(財) 国立劇場おきなわ調査養成課長	105
386	7月11日	古琉球期の仏教の変遷	知名 定寛	神戸女子大学教授	195
387	8月22日	南極の人と自然	渡辺 興亜	国立極地研究所名誉教授 南極OB会副会長	66
388	9月12日	港川人を訪ねてⅡ	高橋 巧 新里 尚美	ガンガラーの谷担当課長 八重瀬町教育委員会	40
389	10月17日	特別展開連講座 琉球使節の変遷と対日本関係～屈辱・偏見から「御取り合い(ウツァイ)」へ～	豊見山 和行	琉球大学教授	160
390	11月21日	特別展開連シンポジウム 「琉球使節のすがたを求めて」	横山 學 深澤 秋人	ノートルダム清心女子大学教授 沖縄国際大学・琉球大学 沖縄キリスト教短期大学非常勤講師	180
391	12月19日	身近な自然～石を見よう～	加藤 裕三	琉球大学名誉教授	22
392	1月16日	殷元良の山水画～東アジアの絵画の視点から～	湊 信幸	東京国立博物館名誉館員、客員研究員	66
393	2月20日	企画展開連講座「サンゴ礁の保全と活用」	西平 守孝	海洋博公園管理財団参与 東北大学名誉教授	70
394	3月20日	グスク巡り	當眞 嗣一	沖縄考古学会副会長	40
395	4月24日	港川人を訪ねてⅢ	新里 尚美 高橋 巧	八重瀬町教育委員会 ガンガラーの谷担当課長	39
396	5月15日	古琉球と海域アジア	上里 隆史	早稲田大学琉球沖縄研究所客員研究員	195
397	6月19日	江戸女性の衣生活	長崎 巖	共立女子大学教授	82
398	7月10日	沖縄県のジオパークを考える	尾方 隆幸	琉球大学教授	41
特別	8月19日	琉球と沖縄という名称の由来	小玉 正任	記録なし	180
399	8月21日	サンゴ礁の未来 ～沖縄の島々からのメッセージ～	土屋 誠	琉球大学教授	18
400	9月25日	詩と歌でつづる八重山	平田 太一	南島詩人	190
401	10月16日	シンポジウム 「海のクロスロード八重山を考える」	前津 栄信 三木 健 大城 學 里井 洋一	石垣氏文化財審議会委員長 沖縄・八重山文化研究会会長 琉球大学教授 琉球大学教授	150
特別	11月13日	白保竿根田原洞穴人と2万年前の八重山	土肥 直美	記録なし	135
402	11月20日	八重山民謡の伝播と変容	新城 亘 ゲスト 高宮城 実人	沖縄県立芸術大学非常勤講師 俳優	130
関連	12月11日	薩摩焼と壺屋焼～近世の考古学的成果から～	渡辺 芳郎	記録なし	80
403	12月18日	シンポジウム「沖縄焼物のルーツを探る②」	宮城 篤正 金武 正紀 新垣 力 池田 榮史	沖縄県立芸術大学元学長 那覇市教育委員会文化財課前課長 沖縄県立埋蔵文化財センター主任 琉球大学法文学部教授	135
404	1月29日	シンポジウム「沖縄窯業史研究の今」	家田 淳一 仲宗根 求 上原 静 阿利 直治 安里 進 池田 榮史	佐賀県立九州陶磁文化館学芸課主幹 読谷村立歴史民俗資料館館長 沖縄国際大学教授 石垣市教育委員会主査 沖縄県立芸術大学教授 琉球大学法文学部教授	200
405	2月19日	シンポジウム「科学展な骨の話」	山崎 剛史 江田 真毅 深瀬 均	山階鳥類研究所研究員 鳥取大学医学部機能形態統御学講座助教 琉球大学大学院医学研究科人体解剖講座助教	135
406	3月12日	グスクめぐり	當眞 嗣一	沖縄考古学副会長	44
407	4月16日	ゲノムでみるアジアの中の琉球人	木村 亮介	琉球大学亜熱帯島嶼科学超域研究推進 機構特命准教授	105
408	5月14日	時間ってなんだろう？ ～ナマコを眺めながら考えたこと～	本川 達雄	東京工業大学大学院生命理工学研究科教授 歌う生物学者	140
409	6月4日	はやぶさから貰ったもの	細田 聡史 小野瀬 直美	JAXA月・惑星探査プログラムグループ開発員 JAXA研究開発本部未踏技術研究センタースペースブリック研究員	200

410	平成二十三年 度	7月16日	沖縄の祖先祭祀～年中行事を通して～	崎原 恒新	記録なし	235	
411		8月20日	ISSEI MIYAKE・伝統的なテキスタイルとパリ・コレクション	藤原 大	ISSEIクリエイティブアドバイザー 株式会社DAIFUJIWARA代表	260	
412		9月17日	古琉球辞令書の世界	高良 倉吉	琉球大学教授、文学博士 琉大附属図書館長	175	
413		10月8日	漆の美～琉球のわざ・日本のわざ～	室瀬 和美	重要無形文化財<蒔絵>保持者	95	
414		10月22日	沖縄の鉄道の歴史	金城 功	記録なし	135	
415		11月19日	沖縄の星と石垣島	宮地 竹史	国立天文台、石垣島天文台副所長	135	
416		12月17日	博物館収蔵秘話	宮城 篤正	記録なし	43	
特別		2月11日	企画展関連催事「琉球と袋中上人」	知名 定寛	神戸女子大学文学部教授	235	
417		2月18日	琉球料理と食育	松本 嘉代子	松本料理学院学院長	98	
418	3月17日	グスクめぐり	當眞 嗣一	沖縄考古学副会長	42		
419	平成二十四 年度	4月14日	シンポジウム 「語り始めた大地 ～本部半島でのジオパーク活動～」	尾方 隆幸 渡久地 健 田代 豊 上江洲 薫 千村 次生 伊藤田 直史	琉球大学教育学部講師 琉球大学法文学部人間科学科准教授 名桜国際学群観光産業教育研究学系准教授 沖縄国際大経済学部地域環境政策学科准教授 中央開発株式会社沖縄支店長 日本洞穴学研究所	69	
420		5月12日	2つの復帰を経験して	津留 健二	沖縄女子短期大学教育支援センター長	66	
421		5月19日	紅型からのメッセージを解く	長崎 巖 伊差川 洋子 名護 朝和 平田 美奈子	共立大学教授 古琉球紅型 浦添型研究所 沖縄県立芸術大学准教授 沖縄県立芸術大学附属研究所協同研究員	235	
422		6月10日	博物館と文化財の保存	藤田 励夫	九州国立博物館保存科学室長	40	
423		7月14日	冊封使と琉球	赤嶺 守	琉球大学教授	223	
424		10月13日	シンポジウム「復帰後の文化社会」	大城 學 新城 和博 柳 卓 諸見里 杉子	琉球大学教授 ボーダーインク社 アナウンサー アナウンサー	150	
425		10月21日	泡盛の世替り	萩尾 俊章	沖縄県教育庁文化財課	130	
426		11月11日	復帰40年に考える ～沖縄歴史はどのように継承されているか～	新城 俊昭	沖縄大学客員教授 沖縄歴史教育研究会顧問	105	
427		12月8日	港川フィッシャーの動物の起源を考える	長谷川 善和	群馬県立自然史博物館名誉館長	78	
428		12月15日	港川人からみた東アジアの人類史	海部 陽介	国立科学博物館人類研究部主幹	120	
429		2月9日	坂本龍馬と水中考古学 ～沈没船いろは丸の水中調査から～	吉崎 伸	財団法人東京都埋蔵文化財研究所調査課長	68	
430		3月9日	有名？無名？島の生き物たち	伊澤 雅子	琉球大学理学部海洋自然科学科教授	70	
431		平成二十五 年度	4月20日	アメリカ軍基地と沖縄経済 ～歴史のなかで考える～	来間 泰男	沖縄国際大学名誉教授	135
432			5月18日	首里王府の史料編纂事業『中山世鑑』から『球陽』 まで	田名 真之	沖縄国際大学教授	175
433	6月8日		沖縄の冠婚葬祭	崎原 恒新	沖縄県民族学会委員	182	
434	7月20日		地質屋から見た沖縄の自然～化石と地史～	大城 逸朗	理学博士	128	
435	8月17日		ネイチャー・テクノロジーがつくる、あたら しい暮らしとものつくりの世界	石田 秀輝	東北大学教授	52	
436	9月21日		文化講座シンポジウム 「九州国立博物館におけるボランティア活動の実 際」	上野 知彦	元九州国立博物館主任研究員	70	
437	10月19日		世界の餅・沖縄の餅	柳 悦州	沖縄県立芸術大学教授	120	
438	11月16日		沖縄で学ぶジオ～島々が語る地球の営み～	尾方 隆幸	琉球大学教育学部生涯教育課程准教授	66	

439	12月21日	「きからじ」と「ジーファー」	小波 則夫 又吉 健次郎	小波琉きからじ結家元 金細工師、七代目金細工またよし	197
440	1月15日	遺跡出土銭貨が解き明かす琉球貨幣史～古琉球・銭の物語～	宮城 弘樹	名護市教育委員会	107
441	2月23日	三線を科学するパート1 ～音の物理と心理的アプローチ～	高良 富夫	琉球大学工学部長	93
442	3月15日	三線を科学するパート2 ～X線による健康診断～	鳥越 俊行	九州国立博物館主任研究員	64
443	4月19日	琉球の染織物再考・そしてこれから	宮城 奈々 平田 美奈子 コメンテーター 與那嶺 一子	琉球の織物研究会代表 沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員 美術工芸担当学芸員	150
444	5月17日	明らかになる沖縄の大地震・大津波 ～これまでとこれから～	中村 衛	琉球大学理学部准教授	204
445	6月15日	戦後69年目に考える沖縄戦～沖縄戦住民記録・日本軍史料から何が分かるか～	吉浜 忍	沖縄国際大学総合文化学部教授	155
446	7月19日	ウシオーラサーはおもしろい！ ～闘牛の魅力と人々の思い～	宮城 邦治	沖縄国際大学総合文化学部教授	84
447	8月16日	円覚寺の仏さまたち	長谷 洋一	関西大学文学部教授	125
448	9月20日	久米村人の家譜を読もう！	田名 真之	沖縄国際大学総合文化学部教授	231
449	10月13日	書に遊ぶ～能書家・鄭嘉訓の書を楽しむ～	幸喜 洋人	書家	86
450	11月15日	世界の海事・水中考古学から学ぶ	アンディー佐々木	福岡市教育委員会	83
451	12月20日	海の文化遺産～水中考古学の魅力～	野上 建紀 林原 利明 藤島 一巳 吉崎 伸	長崎大学准教授 アジア水中考古学研究所理事・玉川文化財研究所 元江差町教育委員会学芸員 水中考古学研究所所長	116
452	1月17日	クニマスと人の共存～過去、現在、未来～	中坊 徹次	京都大学総合博物館教授	54
453	2月21日	遺跡から出土する動物骨から読みとくイノシシとブタと私たちの歴史	菅原 広史	浦添市教育委員会	85
454	3月7日	シンポジウム「沖縄先史文化の起源を探る」	安斎 正人 横尾 昌樹	東北芸術工科大学 うるま市教育委員会	165
455	4月18日	ゲノムから探る琉球人の多様性とその成り立ち	佐藤 丈寛	琉球大学大学院医学研究科 本学術振興会特別研究員	144
456	5月16日	布に踊る人の手 ～中国貴州省・苗族の布づくり～	鳥丸 知子	染織研究家	140
457	6月20日	シンポジウム「やんばるの沖縄戦」	林 博史 安座間 充 川満 彰 田里 一寿	関東学院大学教授 金武町教育委員会 名護市教育委員会 宜野座村教育委員会	160
458	7月11日	シンポジウム「発掘！沖縄の先史集落」	玉榮 飛道 與那覇 俊 長濱 健起	伊江村教育委員会（台風のため不参加） 今帰仁村教育委員会 宜野湾市教育委員会	160
459	8月15日	ゾウさんキリンさんのよもやま話	吉岡 由恵 島袋 洋次	公益財団法人沖縄こどもの国	103
460	9月19日	琉球王国時代の地方役人	里井 洋一	琉球大学教授	114
461	10月17日	葬送儀礼の移りかわり	崎原 恒新		167
462	11月21日	死者とつながる琉球弧の哭きうた（葬送歌）の世界	酒井 正子	元川村学園女子大学教授 国場民俗伝統芸能保存会	190
463	12月19日	琉球の鐘と北部九州の鋳物師集団	新郷英弘	芦屋釜の里学芸員	92
464	1月16日	終戦70年記念やんばるの沖縄戦	安座間 充 田里 一寿	金武町教育委員会 宜野座村教育委員会 ※応募65名	25
465	2月13日	台風と自然災害 ～台風を知ることと身を守ること～	伊藤 耕介	琉球大学理学部准教授	77
466	3月5日	消えた琉球競馬 ～幻の名馬「ヒコーキ」を追って～	梅崎 晴光 安里 進	スポーツニッポン新聞社東京本社・専門委員 沖縄県立博物館・美術館 館長	143

467	平成二十八年度	4月16日	琉球の金工品の世界	久保 智康	京都国立博物館名誉館員	88
468		5月21日	ジョン万次郎～琉球に上陸した真実～	神谷 良昌	糸満市教育委員会総務部長	197
469		6月18日	亜熱帯域のムラの民俗自然誌 ～未完の黒島調査～	篠原 徹	滋賀県立琵琶湖博物館館長	79
470		7月16日	よみがえる国王の肖像画 ～復元模写の現在～	荒井 経	東京藝術大学准教授	92
471		8月20日	未来の食料生産の一翼を担う植物工場とは？	浅賀 宏昭	明治大学教授	36
472		9月24日	柳宗悦と沖縄の工芸	杉山 亨司	日本民藝館学芸部長	214
473		10月15日	沖縄の土を知って、これからの環境を考える	金城 和俊	琉球大学農学部准教授	73
474		11月19日	ホモ・サピエンスのユーラシアへの拡散とアジア人の起源	松村 博文	北海道医科大学教授	143
475		12月17日	研究報告及びシンポジウム 「琉球弧と九州をめぐる 人類史の起源と展開」 ・種子島の先史文化とその特質（石堂） ・縄文の奇跡！東名遺跡～有明海に沈んだまぼろしの縄文文化～（西田） ・沖縄先史時代の骨角貝文化（島袋）	石堂 和博 西田 巖 島袋 春美	南種子町教育委員会 佐賀市教育委員会 北谷町教育委員会	130
476		1月14日	沖縄先史時代の人骨について	土肥 直美	琉球大学非常勤講師	150
477	2月18日	研究報告及びシンポジウム 「琉球・沖縄の地図」 ・琉球の地図製作と鳥瞰図（安里） ・琉球国の土地政策と絵図（豊見山） ・近代の地図（金城） ・土地整理事業の前後について（仲原）	安里 進 豊見山 和行 金城 善 仲原 弘哲 田名 真之	沖縄県立芸術大学附属研究所客員研究員 琉球大学教授 南島地名文化センター代表 今帰仁村歴史研究センター 前館長 沖縄県立博物館・美術館長 （コーディネーター）	170	
478	3月18日	琉球国図と地図奉納	渡辺 美季	東京大学大学院准教授	139	

※参照『沖縄県立博物館・美術館 文化講座レジュメ資料（2007～2016）』

※参照『沖縄県立博物館・美術館年報No.1～No.9（2008～2016）』

■■■ 沖縄県立博物館 ■■■

文化講座スタート

特別講演：「港川人の来た道」
日時：11月10日（土）午後2時～4時
場所：県立博物館・美術館3階講堂
講師：馬場悠男氏（国立科学博物館人類研究部長）
定員200人 ※ 入場無料

高島博物館開館祝賀企画として展示されている4体の遺体（人、1万8千年前の沖縄に輸入していた器類は、沖縄人や日本人の骨一ツを踏まえて製造されたと考えられています。彼らはどこから来て、そのようにしたのか、最新の研究結果を聞きながらわかりやすく講演していただきます。

おもしろくてためになる 文化講座今後の予定

日 時	演 題	講 師	内 容
11月24日（土）	漢語インテラー 漢語の謎	長谷川 和也氏 （東京大学名誉教授）	漢語の歴史と文化、漢語の語彙と文法、漢語の音韻と発音、漢語の書写と印刷、漢語の伝播と変遷、漢語の未来と展望について。
12月15日（土）	対談 沖縄の歴史と文化	石堂 和博氏 西田 巖氏 島袋 春美氏	琉球の歴史と文化、琉球の民俗と自然、琉球の芸術と工芸、琉球の食文化と生活文化、琉球の未来と展望について。
1月12日（土）	対談 琉球の歴史と文化	石堂 和博氏 西田 巖氏 島袋 春美氏	琉球の歴史と文化、琉球の民俗と自然、琉球の芸術と工芸、琉球の食文化と生活文化、琉球の未来と展望について。
2月16日（土）	琉球の歴史と文化	石堂 和博氏 西田 巖氏 島袋 春美氏	琉球の歴史と文化、琉球の民俗と自然、琉球の芸術と工芸、琉球の食文化と生活文化、琉球の未来と展望について。
3月15日（土）	琉球の歴史と文化	石堂 和博氏 西田 巖氏 島袋 春美氏	琉球の歴史と文化、琉球の民俗と自然、琉球の芸術と工芸、琉球の食文化と生活文化、琉球の未来と展望について。

問い合わせ：沖縄県立博物館・美術館 TEL098-941-8200

貝塚の話

沖縄県立博物館
学芸員 新田重清

話の筋

- 貝塚とはなんなのか。
 - たまたま見つかった場所
 - 記録のない人（遺体）の生活の様子や文化を知るうえで重要な手がかりになるのが貝塚です。（埋蔵文化財）
- 貝塚から知れること
 - 古代文化を知るために
 - 人骨が出土すれば、骨質学的研究により人種や系統を知ることができます。
 - 土器の形や土質や土層の前後の層位や年代を知る手がかりになります。
 - 土器の形や土質、出土品や埋蔵文化財の状況、その生活環境（住居の跡）を知ることができます。
 - 昔の人はどのような生活を送っていたのかを知ることができます。
 - 教育の社会組織、精神生活、文化の現在と、そのほかのありかを知ることができます。
- 貝塚のなかから
 - 土器の形や土質
 - 土器の出土状況
 - 土器の出土状況
 - 土器の出土状況
- 遺跡（国庫、公園、住居跡）と見つかった
 - 遺跡と発見したとき、遺跡発見後、1981年 県教育委員会へ
 - 遺跡と発見したとき、埋蔵文化財発掘 70105 何輪等築屋へ
 - 遺跡と発見したとき、埋蔵文化財発掘 70105 何輪等築屋へ
 - 遺跡と発見したとき、埋蔵文化財発掘 70105 何輪等築屋へ
- 沖縄の貝塚
 - 貝塚の分布 約400箇所
 - 貝塚の分布 約400箇所
 - 貝塚の分布 約400箇所
 - 貝塚の分布 約400箇所
- 中世文化の発見
 - 先史文化 ～ 縄文文化
 - 先史文化 ～ 縄文文化
 - 先史文化 ～ 縄文文化
 - 先史文化 ～ 縄文文化

山形市立中央図書館（3月20日10時～11時）
192-1-1 192-1-1



平成19年度
第365回文化講座「港川人の来た道」

昭和49年度
第1回文化講座「貝塚の話」

V 博物館学芸員講座

1 学芸員講座の実施要項

(1) 趣旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説、実技指導などを通して、県民各層が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間（講座により変更あり）

場 所：博物館講座室を基本とする

(4) 受講方法

当日の来館参加という形をとり、基本的に予約はしない。



2 学芸員講座の実施状況

回数	期日	演 題	講師名	定員	参加者
1	4月8日(土)	貝塚の話	山崎 真治	80	65
2	5月13日(土)	シッキ! カイガ!! トーキ!!!～県立博物館・美術館が所蔵するお宝たちの物語～	外間 一先	80	34
3	6月3日(土)	ウトウイムチの楽器 三線の歴史文化とビジョン	園原 謙	80	68
4	8月5日(土)	はくぶつかんバックヤードたんけん	大川 剛	15	16
5	9月2日(土)	海とまつり～ウンジャミとハーリー～	大湾 ゆかり	80	45
6	10月7日(土)	琉球植物研究の偉人たち	山崎 仁也	80	100
7	11月4日(土)	紅型のはなし ～資料と史料から紐解く～	與那嶺 一子	80	69
8	11月18日(土)	開館10周年特別講演 「成長する物語～濟州島の漂着琉球王子殺害事件～」	田名 真之	200	72
9	12月2日(土)	雲版が語る尚泰久の時代	久部良 和子	80	68
10	1月13日(土)	倭寇対策の城～約500年前に湊や村を倭寇からどのように守っていたのか～	山本 正昭	80	100
11	2月3日(土)	学芸員の日常と研究 ～美術工芸入門編～	篠原 あかね	80	24
12	3月3日(土)	ジオツアー 「国指定天然記念物 名護市嘉陽層の褶曲」	宇佐美 賢	20	14

第1回 学芸員講座 「貝塚の話」



貝塚の話

貝塚は、古代の人々が集った貝殻の殻が積み重なった遺跡です。日本列島のほぼ全域に点在する貝塚のなかで、沖縄でも数多くの貝塚遺跡が発見されています。貝塚からは貝殻だけでなく、土器や石器、動物の骨や人骨など、当時の人々の生活の様子を示す多様な遺物が残されていることから、古くから考古学・人類学的調査の対象となってきました。

本講座では、これまでの日本における貝塚研究と考古学・人類学関係のふたたごとなら、沖縄をはじめとする日本各地の貝塚についてわかりやすく紹介します。本講座を通して、貝塚の重要性とその歴史について、考えてみたいと思います。

博物館学芸員講座
2017年
4/8(土)
14時～16時
(開場13時半) **入場無料**

○キーワード：貝塚、先史時代、縄文、弥生、古墳

沖縄県立博物館・美術館
博物館講座室
山崎真治(人類担当)
80名(事前申込不要、当日先着)

日時：2017年4月8日(土) 14:00～16:00 参加者：65人
場所：沖縄県立博物館・美術館 講座室

講師：山崎 真治(自然史・人類担当)

内容：

1. 貝塚とは何か
2. 日本の貝塚研究の歩み
3. いろいろな貝塚
4. 沖縄の貝塚研究

講座後、総合展示室にて解説会が行われた。



第2回 学芸員講座 「シッキ! カイガ!! トーキ!!!」

～沖縄県立博物館・美術館が所蔵するお宝たちの物語～



「シッキ! カイガ!! トーキ!!!」
県立博物館・美術館が所蔵するお宝たちの物語

当館には約1万点の美術工芸資料が所蔵されています。その中から今回は、漆器・絵画・陶器について、お話しします。現在、当館では琉球王国文化遺産集積・再興事業という取り組みを行っています。戦後70年経ち、戦災によって失われた美術工芸品を当時の手わざとともに模造還元しようという内容です。復元を通して行われた調査の結果などをふまえて、当館が所蔵する「お宝たち」の魅力を紹介します。また漆器や絵画の修理修復の様子や陶工たちのことなどを併せてご紹介いたします。

博物館学芸員講座
2017年
5/13(土)
14時～16時
(開場13時半) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館
博物館講座室
外間一先(美術工芸担当)
80名(事前申込不要、当日先着)

日時：2017年5月13日(土) 14:00～16:00 参加者：34人
場所：沖縄県立博物館・美術館 講座室

講師：外間 一先(歴史・近現代担当)

内容：

1. シッキ! 漆器について
 - (1) 琉球漆器の保存修復
 - (2) 琉球王国文化遺産集積・再興事業
2. カイガ!! 絵画について
 - (1) 絵画の保存修復事業
 - (2) 琉球大学の光学調査
3. トーキ!!! 陶器について
 - (1) 壺屋や読谷で活躍する陶工たちとの出会い
 - (2) 琉球王国文化遺産集積・再興事業より



第3回 学芸員講座 「ウトウイムチの楽器 三線の歴史文化とビジョン」



ウトウイムチの楽器
- 三線の歴史文化とビジョン -

*予定しておりました「紅型おきなし」は、都合により11/4(土)に変更になりました。

博物館学芸員講座
2017年
6/3(土)
14:00～16:00
(開場13:30) **入場無料**

琉球王国時代、国家の威厳をかけて演奏のウチナーンチュ(即ちウチナーンチュ)が行われていた。その主役が三線であった。王国時代から近現代にかけて、ウチナーンチュによっての楽を今までの三線や今日の民謡の世界を紹介いたします。

沖縄県立博物館・美術館
博物館講座室
園原謙(学芸員) 定員 80名(当日先着)

日時：2017年6月3日(土) 14:00～16:00 参加者：68人
場所：沖縄県立博物館・美術館 講座室

講師：園原 謙(美術工芸担当)

内容：

1. 三線の歴史ばなし
2. ウチナーンチュにとっての三線とは
 - (1) ウチナーンチュにとっての家宝とは
 - (2) 音色を楽しんだ明治時代のウチナーンチュ
 - (3) 慶びをあらわす器
 - (4) 指定文化財になった三線
3. 海を越えた名器と三線文化の伝播
4. 三線文化のビジョン



第7回 学芸員講座 「紅型のはなし～資料と史料から紐解く～」



紅型のはなし
資料と史料から紐解く

紅型は王国時代に育まれた染物で、布に染めで防染した後に多色で模様を染める技法です。古琉球時代から近世琉球にかけて支那や土族社会の文化で発展したのがこの琉球の紅型といわれています。その技法は現在に受け継がれていますが、明治以降、少しずつ変化してきました。紅型の作例からわかること、文脈を紐解くことができることをお伝えしながら、みえてきた紅型について紹介いたします。そして、多くの心を惹きつける魅力とは何かを考えてみたいと思います。

2017年
6/3 (土)
14時～16時 (開場13時30分) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館 博物館 講座室
定員80名 (事前申込不要、当日定着)

與那嶺 一子 (美術工芸担当)

日時：2017年11月4日(土) 14:00～17:00 参加者：69人
場所：沖縄県立博物館・美術館 講座室

講師：與那嶺 一子 (美術工芸)


内容：

1. はじめに
2. 資料と史料から情報を集積する
3. 史料からわかること まとめ



第8回 学芸員講座 「成長する物語～濟州島の漂着琉球王子殺害事件～」

開館10周年特別講演



成長する物語
- 濟州島の漂着琉球王子殺害事件 -

2017年
11/18 (土)
14時～16時 (開場13時半) **入場無料**

講師：田名 真之 (当館館長)
沖縄県立博物館・美術館 3F 講堂
定員200名 (当日先着、予約不要)

日時：2017年11月18日(土) 14:00～16:00 参加者：72人
場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

講師：田名 真之 (沖縄県立博物館・美術館 館長)

内容：

1. はじめに
2. 琉球と朝鮮 -古琉球期
3. 琉球 -朝鮮間交流
4. 朝鮮 -琉球間の漂流・漂着
5. 出身地の詐称
6. 事件の概要とその後の展開
7. 琉球側からの検証
8. その後の展開 -事件はさらに脚色され、物語が成長する



第9回 学芸員講座 「雲版が語る尚泰久の時代」



「雲版」が語る
尚泰久の時代

2017年
12月2日 (土)
14:00～16:00 (開場13:30)

沖縄県立博物館・美術館 博物館 講座室 (定員80名)
入場無料 (当日先着) (事前申込不要)

久部良 和子 (歴史担当)

日時：2017年12月2日(土) 14:00～16:00 参加者：68人
場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

講師：久部良 和子 (歴史・古琉球)

現在奈良国立博物館に寄託されている大里城(グスク)「雲板」について、同時代の金工品と比較しながら考えた。



3 学芸員講座のあゆみ

おもろまち新館 平成20年～平成28年度（2008～2016）

年度回	期日	演 題	講 師・担当分野		参加
1	4月27日	学芸員研究成果の報告や収蔵品の紹介を行う	羽方 誠	考古	27
2	6月7日	学芸員研究成果の報告や収蔵品の紹介を行う	稲福 恭子	歴史	34
No. なし	8月2日～8日	博物館の機能を紹介し、館を通した沖縄の自然、歴史、文化についてレファレンスサービスを行う	担当学芸員	夏休み子ども相談週間	記録なし
3	10月4日	琉球の履歴書	知念 幸子	自然史	32
4	12月6日	琉球をとりまく絵画の世界	平川 信幸	美術工芸	44
5	2月7日	武芸洞の6000年～沖縄の人類史を掘る～	山崎 真治	人類	30
1	4月11日	琉球使節たちの足あとを求めて～九州から関東まで～	崎原 恭子	歴史	45
2	5月2日	港川人の時代を掘る	山崎 真治	人類	37
3	6月6日	首里城周辺発掘	羽方 誠	考古	43
4	7月18日	貢納布のはなし	與那嶺 一子	美術工芸	106
5	8月12日～14日	教師のための博物館講座	上原 成美	教育普及	定員60
6	9月5日	祖先の残したタイムカプセル<ツァーシガ>	岸本 敬	民俗	50
7	10月3日	ここだけのカエルのはなし	田中 聡	生物	54
8	11月7日	沖縄の天然記念物 その現状と課題	濱口 寿夫	生物	26
9	12月5日	新発見資料<孔子像>を読み解く	平川 信幸	美術工芸	40
10	1月9日	形から分かる骨の研究	藤田 祐樹	人類	66
11	2月6日	八重山の歴史	岸本 弘人	歴史	74
12	3月13日	岩石の魅力～石が秘める過去の記憶～	仲里 健	地学	42
1	4月17日	身近にある不思議を探して	千木良 芳範	生物	74
2	5月22日	動物の運動と姿勢のしくみ	藤田 祐樹	人類	75
3	6月26日	沖縄の墓	羽方 誠	考古	126
4	7月24日	ソテツの葉っぱで虫カゴ作り	岸本 敬	民俗	35
5	8月4日～6日	全分野	各学芸員		定員なし
6	8月18日	学芸員のお仕事ってな～に	池原 盛浩	教育普及	11
7	8月28日	那覇港－往来する人とモノ～展示室探訪のツボ～	崎原 恭子	歴史	52
8	9月11日	ここだけのトカゲのはなし	田中 聡	生物	37
9	10月23日	八重山上布のはなし	與那嶺 一子	美術工芸	57
10	11月27日	琉球石灰岩と人々との関わり	仲里 健	地学	53
11	12月25日	オカヤドカリの生活	濱口 寿夫	生物	30
12	1月22日	近現代分野の収蔵品紹介	岸本 弘人	歴史	24
13	2月26日	港川人の時代を掘る II	山崎 真治	人類	68
14	3月26日	美術品鑑定の現場	平川 信幸	美術工芸	57
1	4月23日	織物のデザイン画「御絵図」を探る ～博物館所蔵品から～	與那嶺 一子	美術工芸	92
2	5月28日	文化財を美味しく味わう～三線文化の世界～	園原 謙	美術工芸	63

3	平成二十三年 年度	6月25日	初心者のための琉球・沖縄史 ～これであなとも県博マニア～	岸本 弘人	歴史	130	
4		7月23日	子どもの人生儀礼とあそび ～木の実でホテルちょうちん作り～	岸本 敬	民俗	15組28名	
5		8月13日	学芸員のお仕事ってな～に	池原 盛浩	教育普及	7	
6		9月24日	水中文化遺産への招待	片桐 千亜紀	考古	95	
7		10月15日	隕石から始まる宇宙の探究	仲里 健	地学	50	
8		11月26日	笠貝（カサガイ）～家に帰る貝のくらし～	濱口 寿夫	生物	26	
9		12月10日	沖縄県の指定文化財について ～歴史・美術工芸品を中心に～	早瀬 千明	歴史	44	
10		1月28日	発掘！沖縄3万年の人類史	山崎 真治	人類	78	
11		2月25日	小さなエイリアン シロアゴガエル ～驚くべき生きざまとその防除について～	田中 聡	生物	30	
12		3月24日	骨を楽しむ会～骨スーツで遊ぼう！～	藤田 祐樹	人類	30	
1		平成二十四 年度	4月7日	クモのMIKATA ～ツシマトリノフンダマシがいっぱい～	千木良 芳範	副館長・生物	46
2			5月26日	<うちくい> 風呂敷のこと、あれこれ	與那嶺 一子	美術工芸	84
3	6月16日		子どもとユッカヌヒー～ヤカジ（中国風の魔除け）を作っ て子どもの成長を願おう～	岸本 敬	民俗	30	
4	8月18日		博物館バックヤード探検隊	池原 盛浩	教育普及	31	
5	10月20日		琉球王国時代の石碑ヒストリー ～館所蔵の石碑を中心に～	崎原 恭子	歴史	62	
6	12月22日		沖縄先史時代の崖墓	片桐 千亜紀	考古	98	
7	12月23日		琉球王国時代の名器三線！！～甦る音、好きな音～	園原 謙	美術工芸	149	
8	1月12日		沖縄にいたシカの話	藤田 祐樹	人類	70	
9	1月19日		沖縄化石研究のバイオニア大山盛保と発見への情熱	山崎 真治	人類	86	
10	2月16日		日流同祖論の研究の現状（入門編）	久場 政彦	民俗	120	
11	3月16日		小学生中学生のための沖縄の歴史講座	岸本 弘人	歴史	17	
12	3月20日		嘉津宇岳ミニジオツアー	仲里 健	地学	15	
13	3月23日		蟹の話はいかがかに ～オカガニの調査から見えてきたもの～	山崎 仁也	生物	30	
1	平成二十五 年度	4月13日	南の島の化石調査～ゆるゆる洞窟探検記～	藤田 祐樹	人類	42	
2		5月4日	目からウロコの生き物展～生き物よもやま話	山崎 仁也	生物	71	
3		6月1日	土器の話～かけらが語る島と人の6000年～	山崎 真治	人類	70	
4		8月3日	博物館バックヤード探検隊	金城 久枝	教育普及	15	
5		9月7日	イロイロな「色」のはなし	與那嶺 一子	美術工芸	121	
6		11月23日	藍壺から琉球藍の製藍業をさぐる※台風のため、日時変更	大濱 ゆかり	民俗	86	
7		11月9日	琉球王国時代の地図～館収蔵の古地図を中心に～	崎原 恭子	歴史	116	
8		12月7日	嘉津宇岳ジオツアー	仲里 健	地学	15	
9		1月11日	国頭村宜名真沖で沈没した謎の異国船を追え！	片桐 千亜紀	考古	85	
10		2月1日	先生のための展示説明会 ～プチ解説をしてみたい先生のために～	岸本 弘人	歴史	55	
11		3月1日	ウチナーンチュが好いた名器三線の音色 ～2012年度名器三線の音聴取実験の結果を踏まえて～	園原 謙	美術工芸	101	
1		4月12日	港川人と沖縄の旧石器時代遺跡	藤田 祐樹	人類	110	
2		5月3日	「三線のチカラ展」雑感～観覧者の質疑に答える～	園原 謙	美術工芸	63	

3	平成二十六年 度	6月7日	貢納布のはなし～貢納布のゆくえ～	與那嶺 一子	美術工芸	117	
4		7月12日	水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラーネタバレ話～	片桐 千亜紀	考古	43	
5		8月2日	学芸員のお仕事？&バックヤード探検！！	金城 久枝	教育普及	15	
6		9月6日	沖縄の先史人と貝	山崎 真治	人類	67	
7		10月4日	久米村(クニダ)歴史散歩～博物館企画展「久米村」をもっと楽しむ！3つのポイント～	崎原 恭子	歴史	132	
8		11月8日	学校の先生のための博物館・生き物講座	山崎 仁也	生物	32	
9		12月6日	シンポジウム 「国頭村宜名真沖で沈没した異国船の実態を探れ！」	片桐 千亜紀 宮城 弘樹 渡辺 美季	考古担当学芸員 名護市教育委員会 東京大学大学院准教授	103	
10		1月10日	嘉津宇岳ジオツアー	仲里 健	地学	15	
11		2月7日	初心者のための琉球・沖縄史	石垣 忍	歴史	100	
12		3月15日	沖縄の墓墓制について考えてみよう！	大湾 ゆかり	民俗	100	
1		平成二十七年 度	4月11日	東南アジアの人類史と遺跡 ～ベトナム・蘭嶼・インドネシアをめぐる～	山崎 真治	人類	85
2			5月 9日	「うちくい」の話しPart2 ～「うちくい」は何を包んできたのだろうか～	與那嶺 一子	美術工芸	84
3	6月 6日		琉球王国時代の梵鐘ヒストリー ～館収蔵の梵鐘を中心に～	崎原 恭子	歴史	70	
4	7月18日		ハトは、なぜ首を振って歩くのか？	藤田 裕樹	人類	43	
5	8月 1日		博物館探検！！	金城 久枝	教育普及	14	
6	9月 5日		大哺乳類展に見る哺乳類のかたちと進化	山崎 仁也	生物	43	
7	10月3日		洗骨儀礼について考える	大湾 ゆかり	民俗	129	
8	11月7日		中学校・高校の先生のための展示解説会	石垣 忍	歴史	28	
9	12月5日		今年は海へ行きます！仲里学芸員といくジオツアー	仲里 健	地学	17	
10	1月 9日		沖縄から発信する「平和文化」創造のチカラ ～沖縄・カンボジアの博物館づくり協力事業を通して～	園原 謙	美術工芸	56	
11	2月 6日		海外探訪記～インドネシア・イギリス・イタリア～	片桐 千亜紀	考古	56	
12	3月12日		柳宗悦と「琉球の富」そして昭和10年代の沖縄 ～日本民藝館80周年記念展に向けて～	外間 一先	美術工芸	78	
1	平成二十八 年度	4月9日	沖縄の民話 ～寄贈テープの保存と活用について～	大湾 ゆかり	民俗	32	
2		5月7日	海へ行きます！ 博物館学芸員と行くジオツアー	宇佐美 賢	地学	14	
3		6月4日	田中俊雄と” 沖縄織物の研究	與那嶺 一子	美術工芸	65	
4		7月9日	台湾原住民ブヌン族の骨考古学的調査 ～骨に刻まれた生き様～	片桐 千亜紀	考古	47	
5		8月6日	博物館バックヤードツアー探検！！	大川 剛	教育普及	11	
6		8月27日	実験とは何か ～ゾウリムシからSTAP細胞まで～	山崎 仁也	生物	28	
7		10月1日	時空を超越えて ～柳宗悦と昭和10年代の沖縄～	外間 一先	美術工芸	85	
8		11月5日	ウチナーンチュは博物館をいかにして作ってきたか～戦後 とともに歩んだ博物館70年のあゆみをふりかえる～	園原 謙	美術工芸	44	
9		12月3日	サキタリ洞むかしばなし（秋）	藤田 祐樹	人類	100	
10		1月7日	沖縄の貝器文化と西太平洋の先史・民族文化	山崎 真治	人類	78	
11		2月4日	時空を越えて TSUNAGARU-MAP ～過去から未来への地図の在り方～	石垣 忍 麻生 伸一 奥間 健	歴史 沖縄県立芸術大学講師 コザ高等学校教諭	60	
12		3月4日	琉球王国時代の古地図～「外」からみた琉球を中心に～	崎原 恭子	歴史	67	

VI 博物館常設展示解説会

1 展示解説会の実施要項

(1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説を通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学ぶことができる。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、第2木曜日 午後2時～3時までの1時間

場 所：博物館常設展示室

(4) 受講方法

定員なし（事前申込不要、13：55にふれあい体験室に集合）

2 展示解説会の実施状況

常設展の展示解説会は、展示資料を前に解説パネルだけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介。参加者の内訳は、初めて参加するお客様のみならず年間パスポートや友の会会員、個人のリピーターの参加が定着している。各学芸員が1回ずつ担当し、全12回127人（定員なし、平均参加人数約10人）の参加を集めた。

	日程	分野	講師名	定員	参加者
1	4月13日	人類	山崎真治	なし	8
2	5月11日	美術工芸	園原 謙		8
3	6月8日	歴史	外間一先		11
4	7月13日	教育普及	大川 剛		6
5	8月10日	生物	山崎仁也		8
6	9月7日	美術工芸	篠原あかね		9
7	10月5日	地学	宇佐美 賢		15
8	11月9日	美術工芸	與那嶺一子		8
9	12月7日	考古	山本正昭		14
10	1月11日	歴史	久部良和子		18
11	2月8日	民俗	大湾ゆかり		13
12	3月8日	教育普及	大川 剛		9
合計人数					127

Ⅶ バックヤードツアー

1 バックヤードツアーの実施要項

(1) 主旨・目的

博物館が持つ、調査・研究・保存の機能を担う収蔵庫や各部屋を学芸員が分かりやすく解説し、普段見る事のできない博物館の機能の見学を通して、文化財への県民の意識向上を図る事を目的とする。

(2) 内容

普段見る事のできない博物館内の各部屋を見学する。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、今年度は基本第1土曜日 午後2時～3時までの1時間

場 所：博物館バックヤード

(4) 受講方法・定員

受講方法：当日9時から総合案内にて受付。

定 員：12名（当日先着順）



2 バックヤードツアーの実施状況

バックヤードツアーは、より専門性を生かした内容とリピーターづくりを目指し、学芸員が月ごとに講師を務めた。安全性を考慮し、常に学芸員と指定管理者スタッフの2名体制で臨んだ。

学芸員研究室、研究資料室(書庫)、自然史実験室、トラックヤード、写真撮影室、冷凍室、工作室を基本コースとしたが、収蔵庫は専門分野を中心に案内することにより、資料に関する質問にも的確に対応することができた。また、建物の構造やIPM(Integrated Pest Management:総合的有害生物管理)の取り組み、資料の修復について解説するなど、来館者に博物館の役割や使命を理解してもらうための工夫が担当毎に見られた。参加者層は、県外からの旅行客を含む一般来館者が大多数を占め、夏休み期間中は、親子連れが目立った。全12回132名(定員12名、平均参加人数11名)の参加があった。

	日程	分野	講師名	定員	参加者
1	4月22日	人類	山崎真治	12	12
2	5月27日 *無料開放日で 2回実施	地学	宇佐美 賢	12	13
		教育普及	大川 剛	12	14
3	6月24日	歴史	久部良和子	12	13
4	7月29日	教育普及	大川 剛	12	10
5	8月26日	歴史	外間一先	12	12
6	9月30日	人類	澤岷大佑	12	4
7	10月28日	美術工芸	篠原あかね	12	*台風のため中止
8	11月25日	生物	山崎仁也	12	15
9	12月23日	民俗	大湾ゆかり	12	12
10	1月27日	美術工芸	與那嶺一子	12	10
11	2月24日	美術工芸	園原 謙	12	12
12	3月10日	考古	山本正昭	12	5
合計人数				156	132

Ⅷ 夏休みこどもフェスタ 2017 (博物館学芸員教室)

1 学芸員教室の実施要項

夏休み期間中における、当館学芸員による児童生徒への対応については、平成 22 年度 (2010)「夏休み子ども相談週間 (8月4日～6日)」として、児童生徒の自由研究や調査研究に対する対応としてスタートした。

翌年平成 23 年度 (2011)からは、学芸員が児童生徒を対象とした講座として実施され、平成 29 年度 (2017)現在に至る。また今年度から「夏休みこどもフェスタ 2017～博物館学芸員教室～」と名称を変更し、博物館と美術館教育普及担当が協働した夏休み期間の催事として実施した。

(1) 趣旨・目的 (博物館学芸員教室)

学芸員が、夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、可能な限り博物館の情報を提供し、郷土への興味・関心を高める。

(2) 内容

総合・部門展示、ふれあい体験室、情報センターなどの博物館の機能を紹介し、博物館を通じた、沖縄の自然、歴史、文化について子ども向けの教室を行う。

(3) その他

①実施方法

- 対象：県内の小学生・中学生
- 実施日：平成 29 年 7 月 25 日 (火) から 7 月 28 日 (金) まで
- 時 間：10:00～16:30
* 1 教室およそ 90 分程度 (教室によって変更あり)
- 定 員：各分野 20 名程度 (事前申込制)
* 教室によって変更あり
- 参加料：無料
* 材料費は実費：講座により異なる
- 場所：実習室を中心に行う。

②受講方法

- 各分野の担当学芸員の日程表をチラシ等で告知し参加者を募る。
- 事前申込制 ※応募者多数の場合抽選。
- 各担当学芸員の指示のもと諸注意を守り受講する。

2 学芸員教室の実施状況

期日・教室内容・講師	参加
【7月25日(火)】 ①けんびきょうをつくろう！ ②貝器を作ろう！ ③知り隊！鐘のこと！	山崎 仁也 【生物担当】 20人 山崎 真治 【人類担当】 10人 久部良 和子【歴史担当】 15人
【7月26日(水)】 ④藁算づくりにチャレンジ！ ⑤折り紙で琉服を作ろう ⑥焼き物をつくろう！	大湾 ゆかり【民俗担当】 15人 與那嶺 一子【美工担当】 15人 篠原 あかね【美工担当】 15組
【7月27日(木)】 ⑦アンモナイトの秘密をさがせ！ ⑧考古学者体験！ ⑨漆喰シーサーを作ろう	宇佐美 賢 【地学担当】 16人 山本 正昭 【考古担当】 10組 15人 外間 一先 【歴史担当】 10組 15人

学芸員教室 1 日目 7月25日(火)

①けんびきょうをつくろう！



②貝器を作ろう！

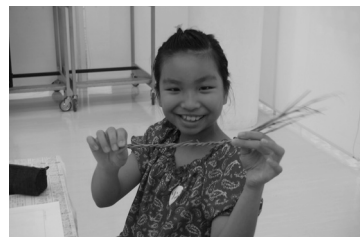
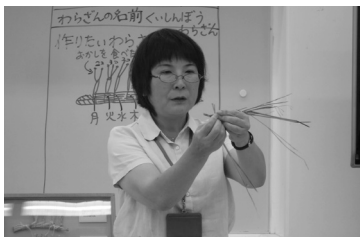


③知り隊！鐘のこと！



学芸員教室 2日目 7月26日(水)

④藁算づくりにチャレンジ!



⑤折り紙で琉服を作ろう



⑥焼き物をつくろう!



学芸員教室 3日目 7月27日(木)

⑦アンモナイトの秘密をさがせ!



⑧考古学者体験!



⑨漆喰シーサーを作ろう



3 学芸員教室のあゆみ

おもろまち新館 平成23年～28年度（2011～2016）

年	期日・教室内容・講師	参加			
平成二十三年 度	【8月2日（火）】 ①植物でおもちゃを作っちゃおう ②遺跡を調査せよ ③カタツムリを調べてみよう 【8月3日（水）】 ④ちょっと昔の沖縄を調査せよ ⑤海の砂の中から宝を探せ ⑥拓本&てん刻にチャレンジ 【8月4日（木）】 ⑦海辺の生物の観察方法教えます ⑧チキンを食べて骨格標本を作っちゃおう ⑨着物からわかることってどんなこと？	岸本 敬 【民俗担当】 片桐 千亜妃【考古担当】 田中 聡 【生物担当】 岸本 弘人 【歴史担当】 仲里 健 【地学担当】 園原 謙 【美工担当】 濱口 寿夫 【生物担当】 藤田 祐樹 【人類担当】 與那嶺 一子【美工担当】	9/10 組 5/10 組 8/10 組 5/15 名 10/10 組 6/10 組 15/15 組 10/10 組 中止		
	平成二十四 年度	【7月25日（水）】 ①博物館の庭の植物で昔あそび ②神が宿る石「勾玉」を削り出そう！ ③ぼく、わたしのルーツを調べよう 【7月26日（木）】 ④砂の中から宝を探せ ⑤動物と生き物の関係を研究せよ ⑥生き物の自由研究い・ろ・は 【7月27日（金）】 ⑦沖縄の伝統的な民家を調査せよ ⑧千代紙で琉服を作って考える！ ⑨印じゃな～い？	岸本 敬 【民俗担当】 片桐 千亜妃【考古担当】 崎原 恭子 【生物担当】 仲里 健 【地学担当】 藤田 祐樹 【人類担当】 山崎 仁也 【生物担当】 久場 政彦 【館長/民俗】 與那嶺 一子【美工担当】 園原 謙 【美工担当】	7/10 組 20/20 人 7/15 組 9/9 組 20/20 人 19/20 人 8/10 人 11/15 人 9/10 人	
		平成二十五 年度	【7月31日（水）】 ①印じゃな～い？ ②動物の歯と食べ物の関係を研究せよ ③動物の歯と食べ物の関係を研究せよ 【8月1日（木）】 ④糸を作ってみよう！ ⑤神が宿る石「勾玉」を削り出そう！ ⑥神が宿る石「勾玉」を削り出そう！ 【8月2日（金）】 ⑦民具手帳をつくろう！ ⑧砂の中から宝を探せ ⑨砂の中から宝を探せ	岸本 弘人 【歴史担当】 藤田 祐樹 【人類担当】 藤田 祐樹 【人類担当】 與那嶺 一子【美工担当】 片桐 千亜妃【考古担当】 片桐 千亜妃【考古担当】 大湾 ゆかり【民俗担当】 仲里 健 【地学担当】 仲里 健 【地学担当】	10 人 21 人 20 人 10 人 20 人 17 人 19 人 15 人 15 人

平成二十六年 年度	【7月29日(火)】			
	①貝器づくりに挑戦	山崎 真治	【人類担当】	10人
	②板絵を描いてみよう	園原 謙	【美工担当】	20人
	【7月30日(水)】			
	③動物の歯と食べ物を研究せよ	藤田 祐樹	【人類担当】	19人
	④砂の中から宝を探せ	仲里 健	【地学担当】	21人
	⑤顕微鏡でのぞく不思議ワールド	山崎 仁也	【生物担当】	20人
	【7月31日(木)】			
	⑥神が宿る石「勾玉」を削り出そう!	片桐 千亜妃	【考古担当】	22人
	⑦印じゃな〜い?	石垣 忍	【歴史担当】	10人
【8月1日(金)】				
⑧オリジナルの家系図をつくろう	崎原 恭子	【歴史担当】	8人	
⑨民具手帳をつくろう	大湾 ゆかり	【民俗担当】	12人	
⑩糸をつくってみよう!	與那嶺 一子	【美工担当】	12人	
平成二十七年 年度	【7月28日(火)】			
	①砂の中から宝を探せ	仲里 健	【地学担当】	17人
	②貝器づくりに挑戦	山崎 真治	【人類担当】	15人
	③印じゃな〜い?	石垣 忍	【歴史担当】	10人
	【7月29日(水)】			
	④動物の歯と食べ物を研究せよ	藤田 祐樹	【人類担当】	20人
	⑤糸をつくってみよう!	與那嶺 一子	【美工担当】	14人
	⑥アダン葉のハブグワーを作ってみよう!	大湾 ゆかり	【民俗担当】	13人
	【7月30日(木)】			
	⑦玉虫模様のゾウリムシを観察しよう!	山崎 仁也	【生物担当】	17人
⑧カンカラ三線を作って弾いてみよう	園原 謙	【美工担当】	20組(親子)	
【7月31日(金)】				
⑨オリジナルの家系図をつくろう	崎原 恭子	【歴史担当】	9組(親子)	
⑩漆喰シーサーを作ろう	外間 一先	【美工担当】	17組(親子)	
平成二十八年 年度	【7月26日(火)】			
	①動物の歯と食べ物を研究せよ	藤田 祐樹	【人類担当】	16人
	②貝器づくり体験	山崎 真治	【人類担当】	10人
	③印じゃな〜い?	石垣 忍	【歴史担当】	7人
	【7月27日(水)】			
	④折り紙で琉服をつくろう!	與那嶺 一子	【美工担当】	15人
	⑤砂の中から宝を探せ	宇佐美 賢	【地学担当】	17人
	⑥レインボーゾウリムシをつくろう!	山崎 仁也	【生物担当】	20人
	【7月28日(木)】			
	⑦ハブグワーを作ろう!	大湾 ゆかり	【民俗担当】	15人
⑧神が宿る石「勾玉」を削り出そう!	片桐 千亜妃	【考古担当】	18人	
【7月29日(金)】				
⑨オリジナルの家系図をつくろう	崎原 恭子	【歴史担当】	6組(親子)	
⑩漆喰シーサーを作ろう	外間 一先	【美工担当】	18組(親子)	

Ⅸ ふれあい体験室

1 ふれあい体験室の概要

(1) ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋である。この部屋は、常設展示として、総合展示・部門展示と補完しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せ持っている。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場となる。

(2) 体験キットの位置づけ

展示物(体験キット)は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」に触れる・見る・聞くなどの五感で体感できる操作や組立てなどの遊びを通じて、展示資料を深く学ぶことができる。

体験キットは、教育普及資料として位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてが触れることのできるものとする。

体験キットは、来館者が資料に触れあうことで目的が達成するものとして準備されている。来館者が自主的に触れることができるようにするために、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていく。ふれあい体験室では、能動的に“沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」”を発見・再発見することができる展示を行う。

(3) ふれあい体験室・体験キットの対象者

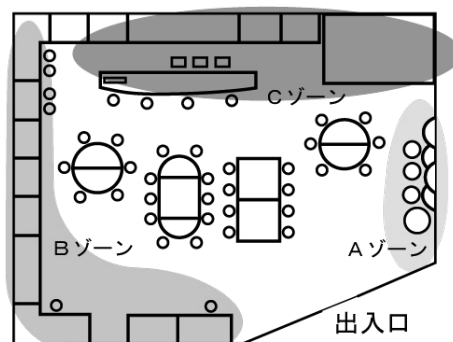
基本的に小学校中学年（3年生以上）を対象とする。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指す。

(4) 体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用することを基本としている。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもある。ふれあい体験室では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けている。

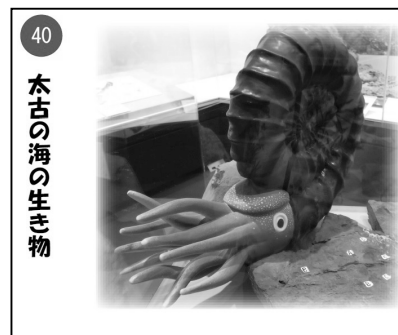
体験キットグループ	キットの種類	来館者への使用制限
グループ A	【見る・触る】 ・直感的に（一見して）内容が分かる。 ・安全性、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできる。 *来館者によっては手助けが必要。
グループ B	【聞く・比べる・聞ける・押す】 ・簡単な操作で内容が分かる。 ・安全性がある程度確保されていて、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできるが、 *来館者によっては手助けが必要な場合もある。
グループ C	【組み立てる・作る・分類する】 ・作業を通して仕組みや内容が分かる。 ・細かい部品や安全面での指導、管理を要する。 ・破損、摩耗しやすい等、耐久性が低い。	・スタッフを介してキットを受け渡し、 介助を得ながら、もしくは目の届く範囲で利用する。 *来館者によっては手助けが必要ない場合もある。

見取り図（ゾーニング図）



2 体験キットの種類

No.	タイトル	分野	小テーマ	中テーマ	大テーマ	備考	
1	サインを見のがすな!	自然史	きみはだあれ?	生物界	自然のしくみ・先人の知恵	平成19年度 製作	
2	小さな生き物の大きな仕事						
3	耳をすませば						
4	この骨だれの?						
5	サンゴと生きる						
6	いろいろなタネ		自然のすがた				
7	いろいろな木と草						
8	いろいろな石と砂						
9	見える星座・見えない星座		考古	地下にねむる 歴史のなぞ			地史
10	化石 ～生きていたあかし～						
11	港川人研究所						
12	土層と遺物からわかること	民俗	食の知恵	人々のくらし			
13	石で築く						
14	ヌチグスイ						
15	イノー ～海の食料庫～						
16	御三味(ウサンミ)						
17	いろいろな道具	食の習わし 生活のくふう 沖縄のコトバ					
18	島々のコトバ						
19	いろいろな玩具						
20	いろいろな楽器						
21	衣からわかること	美術工芸	色のひみつ ・形のふしぎ	人々のくらし			
22	焼物 ～かたちのわけ～						
23	漆 ～飾るたのしみ～						
24	印かんってなあに?	歴史	国のかたち	人々のくらし			
25	島のかたち						
26	記録のくふう						
27	国々とのおつきあい						
28	サンゴとカッチュウソウの深～い仲				自然史	沖縄県立博物館・美術館魅力アップ事業 「ふれあい体験室機能強化事業」実施にお ける体験キットとして製作	平成27年度 製作
29	コロコロ生態系						
30	岩石観察						
31	化石組み立て体験						
32	緋のしくみ	美術工芸					
33	三線のかたち①・②						
34	仁王像						
35	ウチナーの昔話	民俗					
36	チュンジー	歴史					
37	万国津梁の鐘	自然史	開館10周年記念特別展「海の沖縄」における 体験キットとして製作	平成29年度 製作			
38	貝のフシギなかたち						
39	石になった海の生き物						
40	太古の海の生き物						
41	貝さじのナゾ				考古		
42	海を渡った中国古銭						
43	大海原とツナガルマップ	歴史					



3 体験キットの補助ツール

(1) 体験のてびき「ふれたいシート」(平成 22 年度版)

(平成 22 年度博物館教育力向上支援事業)

平成 22 年度に作成したワークシート。27 の体験キットに対応している。ふれあい体験室の案内リーフレットとしての役割も兼ね備えており、シートの内側には室内の鳥瞰図が描かれ、体験キットの配置が分かるようになっている。体験チェックリスト型のワークシートで、チェックが全て埋まるとクリアした証としてスタッフがスタンプを押す仕組みになっている。体験をクリアするまで繰り返し使えるよう、室内に「預け箱」を設置して現在も保管中であるが、希望者には返却している。引き続き活用を行う。

配布期間：平成 23 年 11 月～平成 29 年度配布終了

配布枚数：10,000 部 (平成 25 年度増刷 5,000 部)

作 成：宜寿次 美智 (フリーデザイナー)



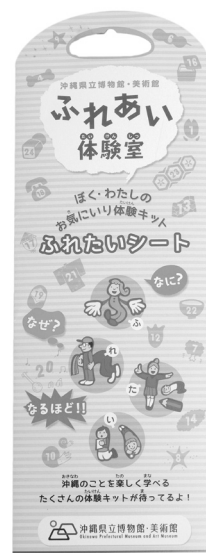
(2) 体験のてびき「ふれたいシート」(平成 29 年度版)

平成 27 年度より体験キットが増設されたことを受け、これまでの 27 の体験キットに対応していたワークシートを一新し、37 の体験キットに対応した「ふれたいシート」を作成した。従来同様ふれあい体験室の案内リーフレットとしても利用できるよう、シートの内側には室内の鳥瞰図が描かれ、体験キットの配置が分かるようになっている。持ち帰り型のワークシートにしたことで、体験した子どもたちが帰宅後自宅でも体験した内容を振り返ることができるようになった。「預け箱」にて預かっている平成 22 年度版のふれたいシートに関しては、現在も引き続きふれあい体験室にて保管し、併用する。

配布期間：平成 29 年 9 月より部数がなくなり次第終了

配布枚数：10,000 部

作 成：宜寿次 美智 (フリーデザイナー)



(3) 補助ツール作成のあゆみ

年度	取 り 組 み	内 容
平成19		
平成20		
平成21		
平成22	平成22年度博物館教育力向上支援事業 体験のてびき「ふれたいシート（平成22年度版）」作成	27の体験キットに対応した体験チェックリスト型のワークシートを作成した。ふれあい体験室の案内リーフレットとしての役割も兼ね備えている。
平成23	平成23年度博物館教育力向上支援事業 ふれあい体験室「外国人対応シート」製作	英語・スペイン語・韓国語・中国語の4ヶ国語を用意した。
平成24		
平成25		
平成26	沖縄県立博物館・美術館魅力アップ事業「ふれあい体験室機能強化事業」 ファサード看板・施設サイン・案内サイン・室内サイン製作	ふれあい体験室をより利用しやすい空間にするべく、施設案内サインを製作した。
	沖縄県立博物館・美術館魅力アップ事業「ふれあい体験室機能強化事業」 多言語体験キット紹介アプリ「沖縄ふれあい体験AR」製作	日本語、英語、中国語(簡体・繁体)、韓国語、スペイン語の5カ国語に対応した、多言語体験キット紹介アプリを製作した。5台の貸出用タブレットにて利用可能。
平成27	沖縄県立博物館・美術館魅力アップ事業「ふれあい体験室機能強化事業」 体験キット点字解説シート製作	ユニバーサルデザイン向上の一環として、平成27年度から全ての体験キットに点字解説シートを追加した。盲学校をはじめ個人の来館者へも点字での案内が可能となった。
	沖縄県立博物館・美術館魅力アップ事業「ふれあい体験室機能強化事業」 体験キット製作	新たに9つの体験キットを製作した。
平成28		
平成29	体験のてびき「ふれたいシート(平成29年度版)」作成	新たに37の体験キットに対応したワークシートを作成した。
	沖縄県立博物館・美術館開館10周年記念特別展「海の沖縄」事業 体験キット製作	「海の沖縄展」に関連した6つの体験キットを製作した。

4 スタッフの配置状況

ふれあい体験室は常駐の職員1名（沖縄美ら島財団）と博物館ボランティアスタッフで運営している。職員は、常勤スタッフ1名とアルバイトスタッフ4～6名を配置し、来館者への体験サポート、室内の安全管理、体験キットの整理・修繕などを担っている。ふれあい体験室のアットホームな空間作りには、博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティアの支援が大きな力となっている。

5 利用者状況

（1）今年度の利用者状況

今年度のふれあい体験室の来場者は、74,001人（1日平均269人／2月28日現在）。前年比2万人超えとなり、過去最高数を記録した。2017年の県内観光客数においても約939万人と5年連続で過去最高を更新しており、外国人観光客増の影響を受け、ふれあい体験室においても外国人観光客の利用者が大幅に増加した年となった。

今年度の新たな取り組みとして、ふれあい体験室ワークシート「ふれたいシート」の改変を行った。平成27年度より体験キット数が増えたことを受け、37の体験キットに対応したワークシートを作成。利用者から預かっている旧ふれたいシートと並行して利用促進を図る【3】。

また、今年度初めて開館10周年記念特別展「海の沖縄」や博物館体験学習教室、第10回移動展と連携してふれあい体験室ワークショップを開催したことで、館全体の来場者数アップに貢献し、ワークショップの新規の利用者およびリピーターの獲得に繋がった【6】。

今後、ワークショップで仕上げた製作物を自宅に持ち帰ることで、博物館での体験を思い出して記憶に残すツールとなること、リピーターに対して飽きさせない環境作りや次の来館を促すきっかけへと繋がることを目指す。

（2）これまでの利用者状況

年度	利用者数	備考
平成19		記録なし
平成20	17,185	11/5～3/31まで
平成21	39,698	
平成22	40,566	
平成23	45,384	
平成24	46,873	
平成25	53,140	
平成26	42,781	
平成27	59,689	
平成28	53,018	
平成29	74,001	2/28現在

6 ふれあい体験室の取組み

(1) ふれあい体験室ワークショップ

今年度のふれあい体験室ワークショップは、体験キットの充実・発展を目的に、各分野担当学芸員や専門の指導者と協力して4つのプログラムを開催した。未就学児から大人まで広い世代に参加してもらえるよう、難易度を低くすることや、短時間で取り組める内容を選定した。参加者には、講座の要点をまとめた「博士カード」を配布し、カードを集める楽しさを取り入れながら、学びを深めてもらった。(主催：沖縄美ら島財団)

場 所：ふれあい体験室前エントランスホール
講 師：ふれあい体験室スタッフ1名
(沖縄美ら島財団：比嘉 麻乃、大城 幸子、
金城 絵舞、鳩間 可奈子、嶺井 良子)
対 象：5歳から大人まで(小3以下、保護者同伴)
参加者数：1,672人／一日平均34人
※3/17現在



①4・5・6月「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」

内 容：体験キットNo.19「いろいろな玩具」から、クログやアダンの葉で作った昔のてづくりおもちゃを画用紙やソフトテープで製作した。

日 時：2017年4月～6月の毎週土曜日

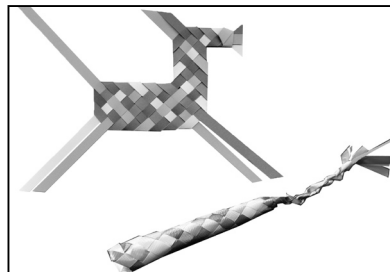
①10:00「カジマヤー」／②10:30「馬グワァ」

③11:00「星コロ」／④11:30「ハブグワァ」

定 員：40人(各回10人)

参加費：100円

参加者数：319人(開催日数13日／1日平均25人)



毎週土曜日 カジマヤー (10:00～) 10:00～

2017年4・5・6月は
ふれたい博士の「てづくりおもちゃ」

体験キットNo.19「いろいろな玩具」から、マニー(クログ)やアダンの葉で作った昔のてづくりおもちゃを、カラフルな画用紙やソフトテープでつくります。ものづくりの楽しさや工夫が詰められたおもちゃづくりに挑戦してみよう!

星コロ (11:00～) 11:00～

ハブグワァ (11:30～) 11:30～

日にち：4/1・8・15・22・29
5/6・13・20・27
6/3・10・17・24

時 間：1回目 10:00 カジマヤー
2回目 10:30 馬グワァ
3回目 11:00 星コロ
4回目 11:30 ハブグワァ

場 所：沖縄県立博物館・美術館
1階ふれあい体験室前

定 員：40人(各回10人)

受 付：当日先着 40人(各回10人)

対 象：5歳～大人

参加費：各回 100円

沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

②7・8・9月「ふれたい博士のかんたん化石のレプリカづくり」

内 容：体験キットNo.10「化石」から、アンモナイトや三葉虫などの化石の型を使い、樹脂粘土おゆまるを流し込んで化石のレプリカを製作した。

日 時：2017年7月～9月の毎週土曜日
①10:00／②10:30／③11:00／④11:30

定 員：60人（各回15人）
※8月より定員40人から60人へ増員

参加費：150円

参加者数：689人（開催日数13日／1日平均53人）



白	7/ 8・15・22・29	受	付	当日先着 60人 (各回15人)
	8/ 5・12・19・26			※9月よりふれたい博士まで受付
	9/ 2・9・16・23・30			
時	①10:00／②10:30			
	③11:00／④11:30			
対	象	5歳以上～大人		
		小学生、大人と一緒に参加		
場	所	沖縄県立博物館・美術館		
		参加費:各回150円		
		1階エントランスホール		

③開館10周年記念特別展「海の沖縄」関連催事

10・11・12月「海へのあこがれ ～ジェルキャンドルで小さな海を作ろう!～」

内 容：博物館班より依頼を受け、海の沖縄展に関連してイノーの仕組みを知り、イノーを表現したジェルキャンドルを製作した。また、10/21～22は「こどもフェスタ2017(秋)たいけんキットであそぼう」の一環として開催した【6-(2)】。

日 時：2017年10月～12月の毎週土曜日
①10:00／②10:30／③11:00／④11:30

定 員：40人（各回10人）

参加費：300円

参加者数：377人（開催日数12日／1日平均31人）



【日づけ】 10月7日(土)・14日(土)・21日(土)・22日(日)・28日(土)
11月4日(土)・11日(土)・18日(土)・25日(土)
12月2日(土)・9日(土)・16日(土)・23日(土)

【時 間】 ①10:00 ②10:30 ③11:00 ④11:30
※10/21・22は特別催事 (①10:00 ②11:00 ③14:00 ④15:00)

【場 所】 1F エントランスホール

【受 付】 当日先着40人(各回10人)
9:00よりふれたい体験室にて受付

【対 象】 5歳～大人まで
小さいお子さまは大人といっしょに参加

【参加費】 各回300円

オリジナルの海をつくってごよう!

④開館 10 周年記念特別展「海の沖縄」関連催事

1・2・3月「海へのあこがれ ～波もようトートバッグを作ろう!～」

内 容：博物館班より依頼を受け、海の沖縄展に関連して、沖縄の工芸品にみられる波模様の歴史や図柄について学んだのち、スタンプを使って波模様のトートバッグを製作した。また、2/25 は「第 10 回移動展 in 北大東島」一環として開催した【6-(2)】。

日 時：2018 年 1 月～3 月の毎週土曜日

①10:00 / ②10:30 / ③11:00 / ④11:30

定 員：40 人（各回 10 人）

参加費：300 円

参加者数：287 人（開催予定日数 13 日 / 1 日平均 26 人）

※3/17 現在



10th ANNIVERSARY

沖縄県立博物館・美術館
開館10周年記念

特別展「海の沖縄」関連催事
ふれあい体験室ワークショップ

毎週
土曜日

海へのあこがれ ～波もようトートバッグ を作ろう!～



沖繩の建築物や工芸品をつくる職人たちは、どんなふうに海の美しさを表現していたのかな？波もようのスタンプで、オリジナルの海を表現したトートバッグを作ります。波もようについて考えてみよう！

【白づけ】 1 / 6・13・20・27
2 / 3・10・17
3 / 3・10・17・24・31 ※2/24 はおやすみ

【時 間】 ①10:00 ②10:30 ③11:00 ④11:30

【場 所】 1F エントランスホール

【受 付】 当日先着 40 人（各回 10 人）
9:00 よりふれあい体験室にて受付

【対 象】 5 才～大人まで
小さいお子さまは大人といっしょに参加

【参加費】 各回 300 円

主催・お問い合わせ先
沖縄県立博物館・美術館
〒981-8611 沖縄県 那覇市 1 番 11 番

(2) ふれあい体験室ワークショップ特別編

①「こどもフェスタ 2017 (秋) たいけんキットであそぼう！」関連催事
「海へのあこがれ ～ジェルキャンドルで小さな海を作ろう!～」

内 容：上記催事の一環として、イノへの仕組みを知り、イノー
を表現したジェルキャンドルを製作した。

日 時：2017年10月21日(土)、22日(日)
①10:00/②11:00/③14:00/④15:00

講 師：大濱萌子、比嘉麻乃(沖縄美ら島財団)

定 員：各日40人(各回10人)

参加費：300円

参加者数：80人



②第10回 沖縄県立博物館・美術館 移動展 in 北大東島
海へのあこがれ ～波もようトートバッグを作ろう!～」

内 容：上記催事の一環として、沖縄の工芸品にみられる波模
様の歴史や図柄について学んだのち、スタンプを使っ
て波模様トートバッグを製作した。

日 時：2018年2月25日(日)
①10:00/②11:00/③14:00/④15:00

講 師：比嘉麻乃(沖縄美ら島財団)

定 員：60人(各回15人)

参加費：300円

参加者数：49人



(3) ふれあい体験室ワークショップのあゆみ

年度	開催月	内 容	参加者
平成22	通年	「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」	659
平成23	通年	「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」	672
平成24	4・5・6	「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」	187
	7・8・9	「ふれたい博士の葉脈標本づくり」	324
	10・11・12	「ふれたい博士の小さな琉服づくり」	147
	1・2・3	「ふれたい博士のわらざんづくり」	147
平成25	4・5・6	「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」	330
	7・8・9	「ふれたい博士の封入標本」	641
	10・11・12	「ふれたい博士の小さなパーキづくり」	213
	1・2・3	「ふれたい博士のティラジャーでコあそび！」	171
平成26	4・5・6	「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」	234
	7・8・9	「ふれたい博士のかんたん化石のレプリカづくり」	544
	10・11・12	「ふれたい博士の糸から布を織ってみよう」	157
	1・2・3	「ふれたい博士の凧づくり ～カーブヤーに挑戦！」	303
平成27	4・5・6	「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」	357
	7・8・9	「ふれたい博士の光合成ペンダント」	551
	10・11・12	「ふれたい博士の土器文様しらべ」	119
	1・2・3	「ふれたい博士の凧づくり ～カーブヤーに挑戦！」	218
平成28	4・5・6	「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」	396
	7・8・9	「ふれたい博士の土器文様しらべ」	228
	10・11・12	「ふれたい博士の星空影絵」	198
	1・2・3	「ふれたい博士のびんがたデザイン」	327
平成29	4・5・6	「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」	319
	7・8・9	「ふれたい博士のかんたん化石のレプリカづくり」	689
	10・11・12	開館10周年記念特別展「海の沖縄」関連催事 「海へのあこがれ ～ジェルキャンドルで小さな海を作ろう！」	377
	1・2・3	開館10周年記念特別展「海の沖縄」関連催事 「海へのあこがれ ～波もようトートバッグを作ろう！」	287 ※3/17現在

※平成22年度より実施

X ボランティア養成事業

1 ボランティア養成事業の概要

沖縄県立博物館・美術館では、県民の自己啓発や学習を発表する場の提供、また博物館支援活動を目的としてボランティアを導入している。

この活動は多様化する来館者のニーズに対し、よりきめ細かなサービスへの寄与と自己学習の場となることを目指しており、現在は活動の種類として、「博物館ボランティア」、「ふれあい体験室専属ボランティア」がある。そして当館では来館者サービスとして、情報センターにおいて総合展示部門解説用の音声ガイドの貸出を行っているが、博物館を訪れる来館者の中には、展示内容についてより詳しい解説を要望する声もあり、現在は総合展示部門ガイドボランティアの配置をおこない、対応を行っている。

また、当館ではおもろまちに新館が設置され、平成 29 年度（2017）には、開館 10 周年の節目を迎えた。来館数も毎年 40 万人を大きく上回り、県民への益々のサービス内容の充実が求められることとなり、博物館ボランティアやふれあい体験室専属ボランティアの育成も急務の課題となっている。

（1）ボランティア養成事業のあゆみ

①首里旧館 平成 5 年～平成 17 年度（1993～2005）

当館でボランティアが組織として正式に発足したのは、沖縄県立博物館（首里）の平成 5 年（1993）7 月 1 日である。当初、ボランティア養成講座の窓口は生涯学習課にあり、運営が博物館ということであった。後、平成 8 年（1996）窓口も博物館へ移行した。ボランティアの活動は、主に教育普及活動全般にわたる活動の補助的役割を担っていた。（沖縄県立博物館 50 年史、平成 8 年）

ボランティア養成では、博物館におけるインタープリテーション（interpretation）活動の考えを基に、発見に向かわせる解説（前田、平成 6 年～平成 7 年）の取組が行われた。展示解説は、子どもの来館をイメージし、知識や情報を教えるだけでなく、興味を刺激し、博物館における学習を啓発する内容となるよう進められた。

②おもろまち新館 平成 19 年～（2007～）

平成 19 年（2007）11 月沖縄県立博物館・美術館として、首里からおもろまちへの移転を機に、平成 19 年度以前のボランティアを 1 期生とし、新体制での活動が始まった。首里の博物館で行われてきた活動を継承発展させるとともに、より教育的支援の必要な学校連携事業の取組みを強化し、展示ガイド、誘導、体験サポート等学校団体に対する支援体制が推進された。学校団体支援におけるボランティアの役割は、重要度が高い。

ボランティアはこれまで、学校団体向け展示解説を主に行ってきたが、多様化するニーズとして、学校団体だけでなく、観光で来県した来館者など県内外から一般来館者向けの解説ガイド要望の声が増加傾向にあった。また、ボランティアの中からも、一般来館者に向けた解説ガイド養成講座開催の要望が高まってきた。博物館ボランティア活動の見直し（池原、平成 24 年）において、一般来館者向け解説ガイドの必要性があげら

れている。

そこで、年々変容する来館者ニーズへの対応、サービス向上およびガイドのスキル向上を目指し、博物館ボランティア員の有志を募り、一般来館者、県内学校団体、修学旅行生向けの総合展示部門解説ガイドボランティア養成事業が平成 24 年度（2012）より開始されることとなった。

（2）おもろまち新館 平成 20 年～平成 29 年度（2008～2017）

年 度	養 成 事 業 内 容
平成 20 年度	○第 2 期博物館ボランティア養成講座 ○第 2 期博物館ボランティア専門講座
平成 21 年度	○第 3 期博物館ボランティア養成講座 ○第 3 期博物館ボランティア専門講座
平成 22 年度	○第 4 期博物館ボランティア養成講座 ○第 4 期博物館ボランティア専門講座
平成 23 年度	○養成講座・専門講座に替わり、ボランティア対象「学芸員教室」開催
平成 24 年度	○第 5 期博物館ボランティア養成講座 ○第 5 期博物館ボランティア専門講座 ○平成 24 年度ふれあい体験室専属ボランティア養成講座
平成 25 年度	○平成 25 年度ふれあい体験室専属ボランティア養成講座 ○第 1 回総合展示部門展示ガイドボランティア養成講座
平成 26 年度	○第 6 期博物館ボランティア養成講座 ○第 6 期博物館ボランティア専門講座 ○平成 26 年度ふれあい体験室専属ボランティア養成講座 ○第 2 回総合展示部門展示ガイドボランティア養成講座
平成 27 年度	○平成 27 年度ふれあい体験室専属ボランティア養成講座
平成 28 年度	○第 7 期博物館ボランティア養成講座 ○第 7 期博物館ボランティア専門講座 ○平成 28 年度ふれあい体験室専属ボランティア養成講座 ○第 3 回総合展示部門展示ガイドボランティア養成講座
平成 29 年度	○平成 29 年度ふれあい体験室専属ボランティア養成講座 ○第 4 回総合展示部門展示ガイドボランティア養成講座→参加なしで中止

2 ボランティア養成事業の実施状況

(1) ボランティア活動について

沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア活動実施要項

平成 20 年 2 月 13 日 館長決済

(趣旨)

第 1 条 沖縄県立博物館・美術館は、博物館が行う教育普及活動または研究資料の収集・整理・充実を図るため、その活動の補助員としてボランティア（以下「博物館ボランティア」という。）を置くことができる。

(博物館ボランティアの活動)

第 2 条 博物館ボランティアは、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 展示解説、文化講座、体験学習教室、ふれあい体験室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的活動。
- (2) 調査研究等を推進するために必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動。

(登録等)

(登録等)

第 3 条 博物館ボランティアの登録は、博物館ボランティア講座の修了者、沖縄博物館友の会の会員、博物館ボランティア活動を希望する者で、登録票(第 1 号様式)により申請のあった者の中から、沖縄県立博物館・美術館館長(以下「館長」という。)が審査のうえ適当と認められる者について、登録簿（第 2 様式）へ登載を行う。

- 2 館長は登録を受けた博物館ボランティアに対し博物館ボランティア登録証(第 3 号様式)を交付する。
- 3 登録期間は、登録した日の属する年度の末日までとする。但し、当該博物館ボランティアが希望する場合は審査のうえ登録を更新することができる。
- 4 館長は博物館ボランティア登録者に博物館の名誉を傷つける等の行為があった場合は、登録を取消することができる。

(研修)

第 4 条 館長は博物館ボランティアの活動が効果的にすすめられるよう、随時研修会を開催する。

(ボランティア室の設置)

第 5 条 館長は博物館ボランティア活動の連絡及び相互交流の場として、ボランティア室を設置する。

(庶務等)

第 6 条 博物館ボランティアの登録は、博物館教育普及担当において処理する。

2 博物館ボランティア活動の連絡調整は、博物館教育普及担当と沖縄博物館友の会において処理する。

(雑則)

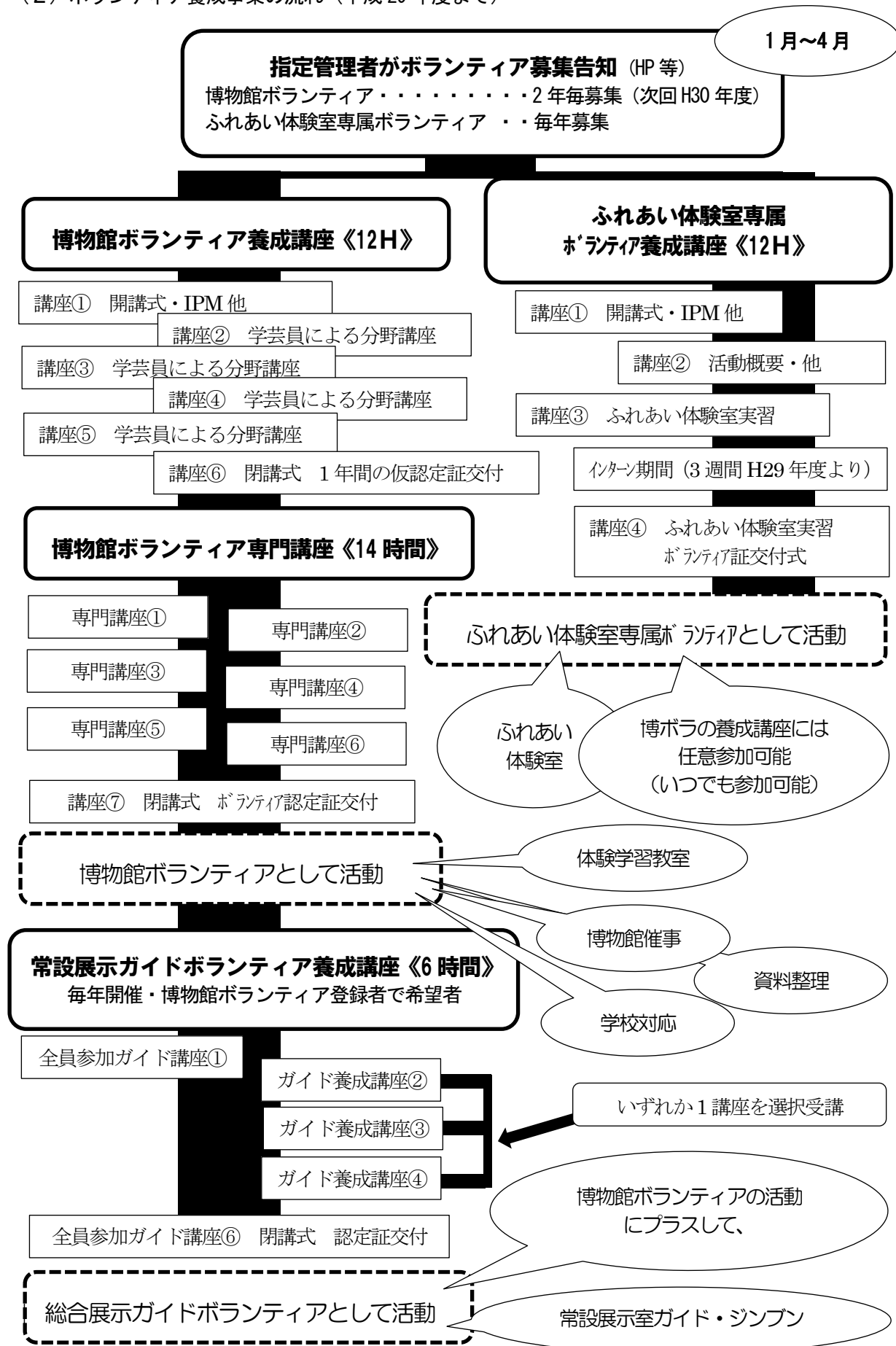
第 7 条 この要項に定めるもののほか博物館ボランティア活動の実施に必要な事項は、館長が別に定める。

付則 この要項は、平成 5 年 7 月 1 日から実施する。

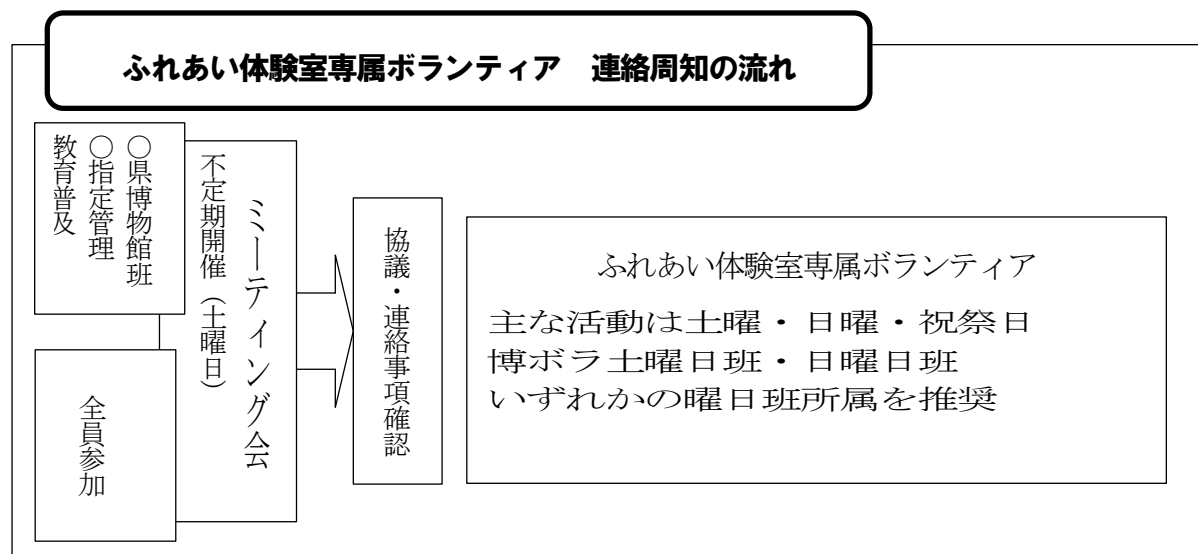
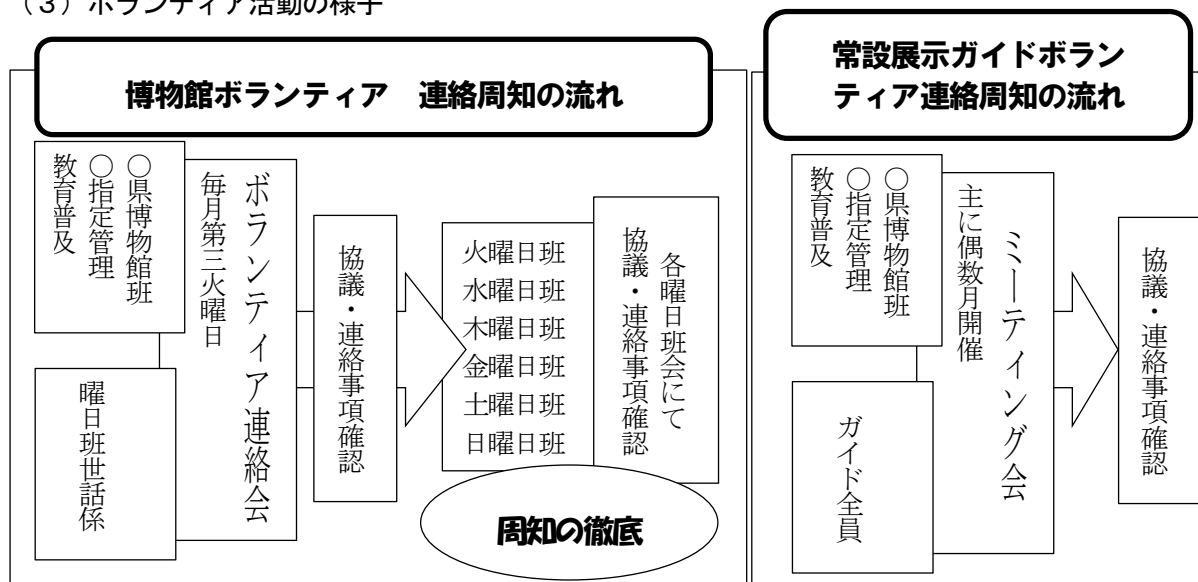
この要項は、平成 12 年 8 月 1 日から実施する。

この要項は、平成 20 年 2 月 13 日から実施する。

(2) ボランティア養成事業の流れ (平成 29 年度まで)



(3) ボランティア活動の様子



博物館ボランティア勉強会

○博物館のボランティアが曜日班等の境なく任意で活動している、「勉強会サークル活動」

○館内での活動では、講師として博物館班の学芸員の協力を得て行う場合もある。（依頼は各勉強会班の代表者が学芸員に直接行っている）

○館外の活動では、学芸員の協力を得てのほか、希望者のみで施設見学・歴史的遺物見学など。

※勉強の成果が博物館における活動の充実に資すると判断され、館内での活動同様「ボランティア保険」適用としている。

※資料の印刷・コピーについては、1回当たり、A4裏表×3枚（6P）／人としている。

歴史班	協力：久部良、外間	自然史班	協力：仁也、宇佐美、真治
民俗・考古班	協力：(民俗) 大湾	協力：(考古) 山本	
美術工芸班	協力：與那嶺、篠原		

3 「ふれあい体験室専属ボランティア」養成講座の実施要項

(1) 趣旨・目的

沖縄県立博物館・美術館では、地域の方々へ自己啓発の場を提供するとともに、博物館活動の活性化、来館者へのサービス向上、多様化するニーズへの対応を目指し、ふれあい体験室専属ボランティアを募集する。

(2) 活動内容・募集人数

ふれあい体験室専属ボランティア（土・日・祝祭日活動）15名での来館サポート

(3) 受講料

無料

(4) 登録と活動

- ・ふれあい体験室専属ボランティア養成講座修了者→ふれあい体験室専属ボランティアへの登録（6月）
- ・登録期間 平成29年6月～平成30年3月31日（1年度毎の更新。継続更新可）

(5) 応募期間と応募方法

平成29年3月～4月

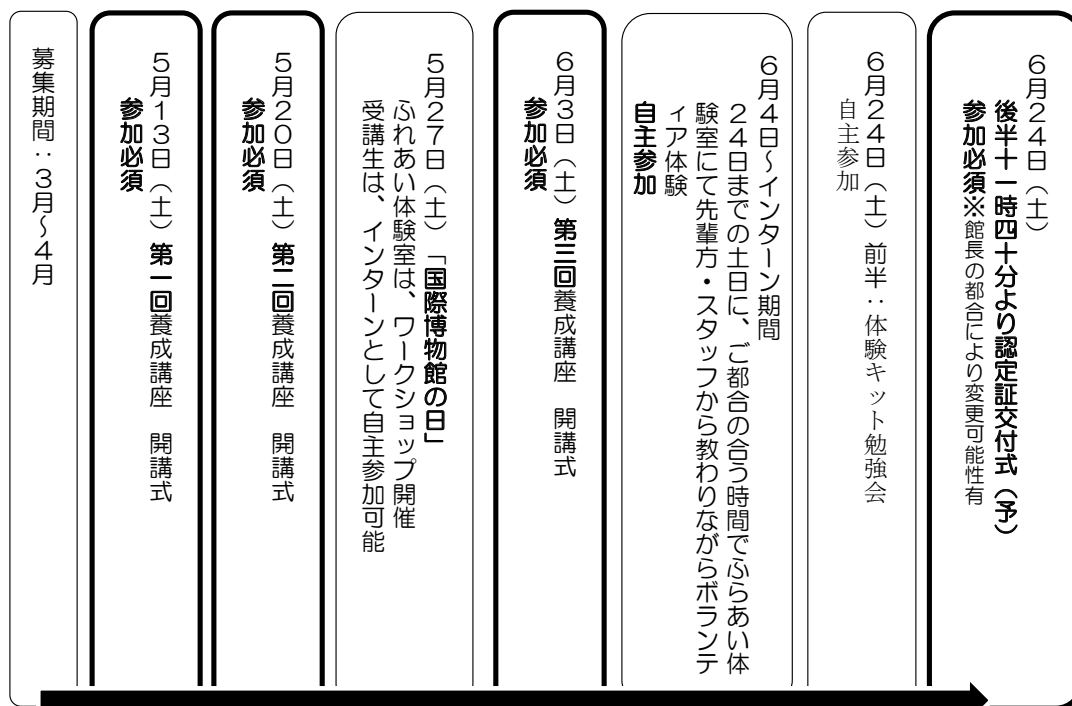
申込用紙に必要事項を記入の上、FAX、郵送、来館のいずれかで。

問合せ先：TEL (098) 941-8200 FAX (098) 941-2392

沖縄県立博物館・美術館（沖縄美ら島財団 担当：比嘉、大瀨）

受付時間：9:00～18:00

(6) 「ふれあい体験室専属ボランティア」登録までの流れ



(7) 「ふれあい体験室専属ボランティア」養成講座の日程

回数	内 容	日 時 9:30~12:00	形態	担 当
第一回養成講座	開講式ほか ○開講式 ○博物館活動について ○博物館ボランティアについて ○ふれあい体験室について ○体験キットについて ○常設展示室との関連について	5月13日(土) 実習室	講 座	教育普及担当
第二回養成講座	ボランティア実習① ○IPMについて ○実習 講師 宇佐美学芸員 「天球儀の使い方」等	5月20日(土) 実習室	実 習	教育普及担当 IPM担当学芸員
自主活動	この日「国際博物館の日」 受講生はインターンとして自主参加可能。ふれあい体験室は、ワークショップを行う。 ご都合の合う方は、ふれあい体験室にて先輩方・スタッフから教わりながらボランティア体験を行う。	5月27日(土) ふれあい体験室	イン ター ン 活 動	教育普及担当
第三回養成講座	ボランティア実習② ○ふれあい体験室での来館者を想定した実地研修 ○登録申請について	6月3日(土) 実習室	講 座	教育普及担当
自主活動	インターン期間として活動 各自ご都合の合う時間で、ふれあい体験室にて先輩方・スタッフから教わりながらボランティア体験を行う。	6月4日(日) 6月10日(土) 6月11日(日) 6月17日(土) 6月18日(日)	イン ター ン 活 動	教育普及担当
自主活動・式	前半：体験キット勉強会 実習 講師 学芸員 後半：閉講式・登録証交付式	6月24日(土) 実習室 前半9:30~11:30 後半11:40~12:00	講 座 ・ 交 付 式	教育普及担当

ふれあい体験室専属ボランティア養成研修



4 「総合展示部門解説ガイドボランティア」養成講座の実施要項

(1) 目的

来館者へのサービス向上や多様化するニーズに対応するため、一般来館者（修学旅行生含む）向けの総合展示部門解説ガイドボランティア養成を行う。

(2) 方針

①総合展示部門解説ガイド養成講座実施に向けて

- 博物館ボランティアの分野別勉強会協力のもと、ボランティアによる総合展示部門解説ガイド養成講座を実施する。
- 指定管理者（沖縄美ら島財団）教育普及担当がコーディネートの役割を担う。
- 解説場所や内容については、「ボランティアガイドマニュアル」を基本とする。

②総合展示部門解説ガイド養成について

- 博物館教育普及担当は平成 29 年度総合展示部門解説ガイドボランティア養成の企画・立案を行う。
- 分野別担当学芸員は、解説ガイドの項目及び内容等について監修をおこなう。

③養成講座の参加資格について

- 「博物館ボランティア」として登録されている者。
- 「ふれあい体験室専属ボランティア」および、すでに「総合展示解説ボランティア」としての資格を持つ者についても、自己のガイドスキルアップ目的での参加を認める。（登録証の交付なし）

(3) 組織体制

①学校団体対象（県内）《実施中》・・・ 現行通りの体制で実施。

情報センター受付 → 学習プログラム（下見必修） * 県教育普及コーディネート
離島小規模校 * 沖縄美ら島財団一友の会連携

②一般来館者（修学旅行生）対象

☆総合展示部門
情報センター受付 → * 沖縄美ら島財団教育普及コーディネート⇄友の会連携

(4) 内容

A 30分コース⇒ 総合展示室のみを30分でまわる

- ①総合展示室 5 か所ほどの展示項目について、来館者を解説案内する。
- ②「展示解説マニュアル」に基づき解説をおこなう。

B ジブンボックス⇒ 総合展示室への配置（時間設定を行う）

- ①総合展示室の 5 か所に配置。一か所 5 分程度を目安に来館者に解説する。
- ②「展示解説マニュアル」に基づき解説をおこなう。

(5) ガイド証公布後の配置方法・受入方法

①配置方法

- 来館者の希望により、[A]・[B]を選択できるようにする。
- 展示解説ボランティアは2人1組でガイドを実施する。
- 沖縄美ら島財団教育普及がコーディネートする。

②受入方法

- ガイドを受ける場合は、事前予約制（開催の2週間前までに申し込み）
- 火・水・木・金の9:30～16:00
- 10名以上の団体から受付
- ガイド1（2人1組）＝1グループ（10名以上）・・・一般来館者、小規模の修学旅行生
- ジブンボックス待機（ボランティア7～14名の配置）・・・100名以上の団体

(6) 「総合展示部門解説ボランティア」養成講座の日程

回	開催日・場所	時間	内容	担当者		
			必ず参加			
①	9月20日 (水)	14:00～14:10 14:10～14:30 14:30～15:00 15:10～16:00	開講式 ガイド心得 総合展示室について 実習Ⅰ 先輩ボランティアに学ぶ	大川、玉城 大川 園原 大川、玉城		
②	9月22日 (金)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> この②～⑦の日程から 選択して、三回以上参加 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> 実習Ⅱ ※2つのグループに分かれて行う。 グループ1（50分程度） 分野①→②→③（後半④⑤へ） グループ2（50分程度） 分野④→⑤（後半①②③へ） </div>	大川、玉城		
③	9月27日 (水)					
④	9月29日 (金)					
⑤	10月4日 (水)				※グループ1・2 2部構成	
⑥	10月11日 (水)				14:00～14:50 (前半)	※9/22～10/13 ②～⑦開催 この6回中3回以上参加する。
⑦	10月13日 (金)				15:00～15:50 (後半)	※受講生同士によるガイド練習 ・講評と寸論（10分程度）
⑧	10月20日 (金)				15:00～16:00	閉講式・秋のボラ総会 ガイド証交付式
			必ず参加			

総合 展示 解説

- (1) 全 8 回中 5 回以上の出席。
※そのうち、①9月 20 日、③10月 20 日は必ず含める)
(9月 20 日は開講式、10月 20 日交付式のため)
- (2) 実習では、1 日あたり各自 2 度のガイド実習（実践研修）を行う。
*1 人=1 度に 2~3 カ所（約 10 分~15 分）
- (3) 講座の補講は設けない。
- (4) 「総合展示解説」の資格をもつ方の勉強目的での参加も認める。
(この場合は、必要参加回数の制約はない)

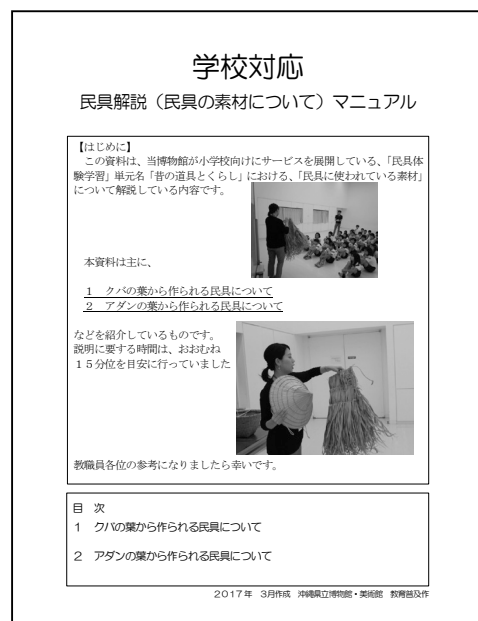
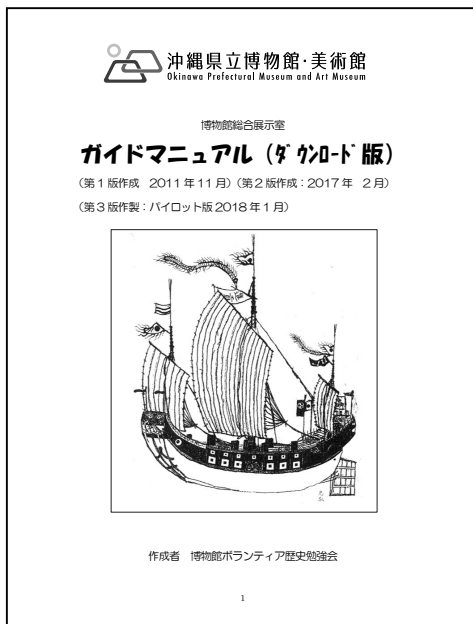


5 『総合展示部門解説ガイドマニュアル』

当館はこれまで、ボランティア対象の各種講座や分野別勉強会（民俗勉強会、歴史勉強会、美術工芸勉強会、自然史勉強会）を通して、展示に関する各種情報の提供を行ってきた。その成果として、①、②のマニュアルがボランティア・分野担当学芸員の努力で完成することができた。

また、平成28年度（2016）には教育普及担当学芸員による③のマニュアルの作成が行われた。なお、平成29年度（2017）現在は写真資料を挿入し、ボランティアがガイド内容を視覚的にも理解しやすくするなどの見直しが進められている。

- ①『民俗部門展示室ガイドマニュアル』（博物館ボランティア民俗勉強会、平成22年4月）
- ②『総合展示部門（歴史）ガイドマニュアル』（博物館ボランティア歴史勉強会、平成23年11月）
- ③『民具体験学習展示解説用マニュアル』（教育普及担当学芸員、平成28年）



沖縄県立博物館・美術館

平成29年度（2017年度版）

博物館ボランティアのてびき

ボランティア活動テーマ

来館者がよろこぶ博物館に！



沖縄県立博物館・美術館
博物館ボランティア

1 目的

沖縄県立博物館は、県民の自己啓発や学習の場の提供、また、博物館支援活動を目的として、「ボランティア」を導入します。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かく適切なサービスへの寄与を目的としています。

2 活動の方針

- (1) 生涯学習の視点から、ボランティアがいつでも参加できる環境作りをすすめます。
- (2) ボランティアの自己啓発を促し、活動を通して無理なく楽しく学べる場にします。
- (3) 来館者を発見へと向わせるような発問の研究を行います。
- (4) ボランティアの自立的な活動を導き、意欲的に参加できる方向をめざします。

3 ボランティアの活動内容

(1) ボランティアの種類

◇博物館ボランティア ◆ふれあい体験室専属ボランティア

(2) 活動の種類

◇博物館ボランティア

- ・展示解説ガイド ・体験学習サポート ・資料整理活動 ・その他
- ・総合展示部門解説ガイドボランティア

◆ふれあい体験室専属ボランティア

ふれあい体験室支援 ⇒ 土・日・祝日における活動

(3) 活動の内容

①展示解説ガイド

- ア 学校団体向け常設展示解説補助（主に学習プログラム対応）
総合展示部門・各部門展示解説補助
- イ 総合展示部門解説ガイドボランティア（学校団体/一般来館者）
「総合展示部門」における展示解説

②体験学習サポート

- ア 学校団体対応
誘導、民具体験学習の支援
- イ ふれあい体験室支援
ふれあい体験室における活動支援
- ウ 体験学習教室支援
体験学習・各種講座・移動展等における補助
- エ 各種行事の際の補助

③資料整理活動

新聞スクラップ整理

④その他

ボランティア間の連絡・各種刊行物の発送業務・沖縄美ら島財団（指定管理者）主催催事支援
ふれあい体験室 I P M 清掃 ※原則：毎月第4月曜日 13：20～

(4) 活動の種類、場所、人員の配置数等

	活動の種類	場所	内容 と ボランティア配置数	指定管理者担当
①	常設展示対応	常設展示室	サポート=数名	1人
②	学校団体対応	常設展示室 ふれあい体験室 民家・実習室	展示解説ガイド 体験学習サポート=数名	1～2人
③	体験学習教室	民家・実習室	サポート=数名	1～2人＋外部講師
④	(県)特別・企画展	特別・企画展示室	サポート=数名	なし

(5) 運営体制

〔ボランティアの構成〕

- ① ボランティアは、博物館ボランティアとふれあい体験室専属ボランティアから成ります。
- ② ボランティアは、博物館養成講座(P.5の8(1)参照)履修のボランティアとします。

〔活動日・曜日班〕

- ① 博物館ボランティアは自身の希望する曜日に、希望する種類の活動をします。
※月曜日が祝日で開館する場合は、ふれあい体験室専属ボランティアを中心にふれあい体験室の支援活動を行います。
- ② 博物館ボランティアは、曜日班に所属し、月1回の定例会で、活動情報を共有します。
- ③ 曜日班の中に、正副世話係をおきます。曜日班の世話係は、活動の連絡を行います。

〔分野別勉強会〕

- ① 博物館ボランティアは、各分野別勉強会に参加することができます。
- ② 各分野別勉強会に正副の世話係をおきます。分野別勉強会の世話係は活動の連絡を行います。

〔連絡会〕

- ① 博物館担当者、分野及び曜日の世話係、沖縄美ら島財団、友の会によるボランティア連絡会を月1回開催します。※原則第3火曜日 15:00～

(6) 経費

- ① 博物館は、ボランティアの活動に際する事故などに備え、ボランティア保険に加入します。
※保険は毎年3月に更新、保険期間は1年とします。
- ② 博物館は、ボランティア活動に必要な名札を購入し、貸与します。
※破損・紛失した場合は、博物館教育普及担当者及び沖縄美ら島財団担当者までお申し出下さい。

(7) 活動日、時間、回数

- ① 活動は原則的に博物館の開館日とします。
- ② 活動時間は、1ヶ月で6時間程度を原則とします。常設展示解説(ジブンBOX)もこの時数に含まれます。

(8) 遵守事項

- ① 博物館の諸規則に従って下さい。
- ② 博物館の展示方針に従って説明等を行って下さい。
- ③ 博物館内での政治活動、宗教活動は行わないで下さい。
- ④ 博物館の名誉を傷つける等の行為は行わないで下さい。

(9) 活動中の事故

- ① ボランティア活動中の傷害事故、偶然な事故によりボランティアがケガをした場合は、ボランティア保険の対象となります。
※館が認めるボランティア主催の館外勉強会等も含まれます。
- ② ボランティアの故意による事故、ボランティア活動外の事故については、原則としてボランティア自身はその責を負うこととなります。(曜日班での館外活動、他勉強会はこれに該当します。)

4 ボランティア活動の各組織

(1) 博物館教育普及

担 当	総 括	副担当
	◎ 大川	玉城

(2) ボランティア担当の役割

- ① ボランティア登録に係る諸業務。
- ② ボランティア研修に係る企画、調整。
- ③ ボランティアの活動に関する企画、調整。

(3) 曜日班

曜日班は、ボランティア間の連絡（連絡網を作成する）や、館におけるボランティア活動の諸情報を収集する場であり、世話係を中心に自立的で協力的な運営をめざします。

- ① 博物館ボランティアは、必ずいずれかの曜日班に属し、毎月の定例の曜日班会議に出席します。
- ② ボランティアの活動を活性化させるために、曜日班に正副の世話係を置きます。（以下世話係）
- ③ 世話係は、曜日班内で選任されます。
- ④ 世話係は、毎月1回のボランティア連絡会に出席します。※原則第3火曜
- ⑤ 世話係は、ボランティア連絡会での情報を、曜日班会議の中で班員に伝えます。
※曜日班定例会は、ボランティア情報の共有と情報交換の場です。
- ⑥ 定例の曜日班会議は、世話係の進行でボランティア室で開催します。
- ⑦ 曜日班は月曜を除く、6つの班で編成します。

班	定例会	時間帯	班	定例会	時間帯
火曜日班	第 火曜		金曜日班	第 金曜	
水曜日班	第 水曜		土曜日班	第 土曜	
木曜日班	第 木曜		日曜日班	第 日曜	

※ふれあい体験室専属ボランティア・・・希望者は土/日いずれかの班への加入も可能。

(4) 分野別勉強会

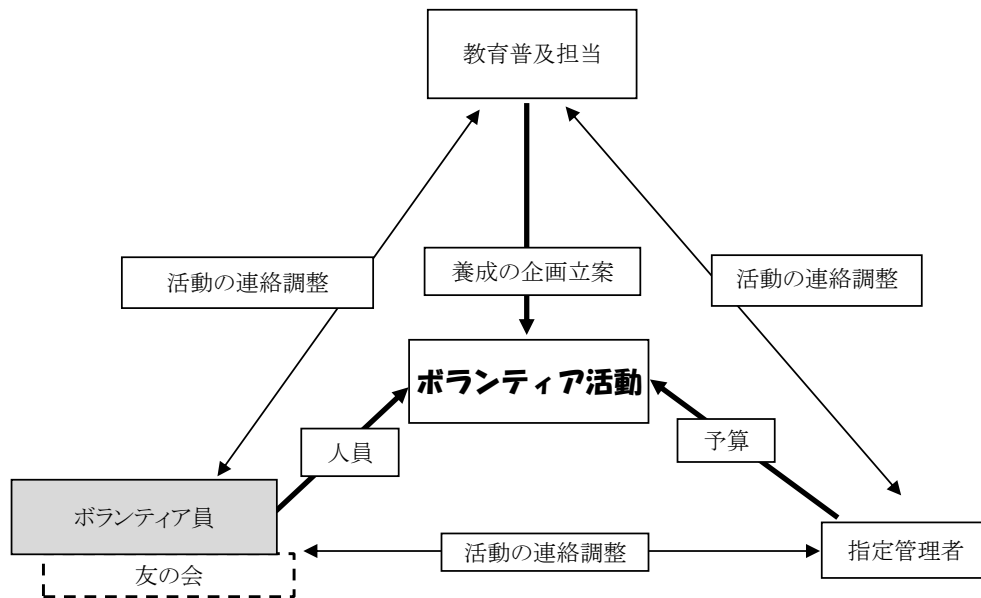
分野別勉強会は、ボランティアが自己研鑽として学習する場の提供と、継続したボランティア養成の補完的役割を担い、世話係を中心に自立的で協力的な運営をめざします。

- ① すべてのボランティア員（ふれあい体験室専属ボランティアを含む）は、分野別勉強会へ自由に参加でき、複数の勉強会への参加も可能です。
※活動は自立的で、協力的であること。勉強会参加を希望する者は、ボランティア室に掲示する参加者名簿に記名をおこない、勉強会への出席に責任をもつこと。
- ② ボランティアの活動を活性化させるため分野別勉強会に正副の世話係を置きます。（以下世話係）
- ③ 世話係は、勉強会内の選任で選出されます。
- ④ 世話係は、毎月1回のボランティア連絡会に出席します。※原則第3火曜
- ⑤ 世話係は各分野の学芸員と連携を取り、研修内容の調整や企画をおこないます。
※分野別勉強会は、ボランティアの自己研鑽の場であり、ボランティア養成の補完的役割を担います。
- ⑥ 分野別勉強会の世話係は、ボランティア室において、全ボランティアに研修計画を告知します。

分野	定例会	時間帯	分野	定例会	時間帯
人類学・自然史	第 土曜		美術工芸	第 土曜	
歴史・考古	第 土曜		民俗	第 土曜	

※開催日時は、諸事情で変更になることがあります

5 ボランティア組織図



※ボランティア活動は、自身の希望する活動の場であり、ボランティアの自立的な取り組みを目指します。

6 登 録

ボランティア登録は下記によりおこないます。

- (1) 仮登録
「養成講座」修了後、応募者については資格要件及び適性を確認し、ボランティア名簿に仮登録します。
- (2) 本登録

◇博物館ボランティア

「養成講座」受講者のうち、当館が定めるボランティア「専門講座」を修了した者で、館長の認定した者を本登録者とします。

◆ふれあい体験室専属ボランティア

ふれあい体験室専属ボランティア養成講座修了後、館長の認定した者を本登録とします。

○総合展示部門解説ガイドボランティア

総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座修了後、館長の認定した者を本登録とします。

登録の更新

- (3) 登録の活動期間は1年とします。但し、P.2の(7)活動、時間、回数(8)遵守事項に示す活動の条件を満たし、継続を希望する者は、更新することができます。

※館の定めた各種研修会並びに全体会等へ不参加（連絡なしの欠席）の者、P.2の(6)(7)に示す活動の条件を満たしていない者は、館指定の更新研修受講後に登録更新を行うものとします。

(4) 申請時の提出

次年度、博物館ボランティア活動、ふれあい体験室専属ボランティア活動の継続を希望する者は、指定の申請書に必要事項を記入し、申請の手続きを行います。

(5) 登録証

- ① 登録者には登録証を交付します。活動時は常に身に付けてください。
- ② ボランティアの継続が出来なくなった際には、登録証は返却するものとします。

(6) 登録の抹消

登録期間中であってもボランティアの資格要件に欠格を生じた場合、また、ボランティアとしてふさわしくない行動があった場合は、登録を抹消することがあります。

7 活動の評価

ボランティア活動の評価は、活動の目標に照らし、博物館側及びボランティアがその機能をどの程度に果たしているかを客観的基準により判断し、それに基づいてボランティア活動改善計画の作成に資することを目的とします。

※評価様式は別に作成する。

活動
の
評価
基準

- ① 国際的交流に対応し、県民の自己啓発や学習の場を提供できたか。
- ② 人にやさしく、親しまれる施設を目指し、県民参画の橋渡しとして活動できたか。
- ③ 多様化するニーズに対応し、きめ細かく適切なサービスに寄与できたか。
- ④ 自主的に活動し、生涯学習の実践の場としての役割を担えたか。
- ⑤ 月に6時間の活動ができたか。

※P. 6の(4)に示す、活動記録簿の記録に基づき、達成状況を判断します。

8 その他

(1) 研修プログラム

今年度なし
<p>◇博物館ボランティア</p> <p>① 養成講座…1日2時間で5日間（講義）＋ 1日2時間で2日間（実習） 合計約14時間 例：（副）館長講話、沖縄の歴史・文化講座、沖縄の自然等についての講座、実地研修など</p> <p>② 専門講座…1日2時間で7日間（講義と実習） 合計約14時間 例：博物館学習ノート紹介、ふれあい体験室(体験キットの解説)、発問の研究など</p> <p>③ 更新研修…1日2時間で2日間 合計4時間</p> <p>④ 臨時研修…必要に応じて随時実習 例：企画展の解説、スキルアップ研修、体験学習教室の事前勉強会など</p>

今年度開催・インターン制度導入
<p>◆「ふれあい体験室」専属ボランティア</p> <p>① 養成講座…1日2時間（講義）＋2日4時間（実習） 合計約6時間</p> <p>② 更新研修…レポート提出（例：ボランティア活動の復習等）</p> <p>③ 臨時研修…スキルアップ研修等</p>

今年度開催
<p>○総合展示部門解説ガイドボランティア</p> <p>① 養成講座…1日3時間で3日間（講義） 合計約8時間 例：館長講話、ガイド心得、沖縄の歴史・文化等の講座、沖縄の自然等の講座、実地研修など</p> <p>② 実践研修…1日2時間で2日間（演習） 合計約4時間 例：総合展示部門での実践形式演習</p> <p>③ 更新研修…1日2時間で2日間 合計4時間</p> <p>④ 臨時研修…必要に応じて随時実習</p>

(2) ボランティア活動時の服装等について

- ① ボランティアとして正式に登録された者には、ボランティア身分証明書として、ボランティア登録証を交付します。
- ② ボランティア活動を行う場合は、安全性と機能性を考え、ボランティア活動にふさわしい服装とします。
- ③ ボランティア登録証を常に身につけるものとします。

※博物館ボランティア登録証・・・青色 ふれあい体験室専属ボランティア登録証・・・緑色
ストラップ・・・緑色

(3) ボランティア室の使用について

- ① ボランティア室については、博物館教育普及担当の許可を得て使用できます。
- ② ボランティア室は、原則としてボランティア活動のために以下のような活動で使用します。
 - ア P.1の3(2)～(5)に示す活動に関する使用
 - イ 日程、連絡等のボランティア活動の掲示
 - ウ ボランティア活動のための用具類の保管及び使用
 - エ 来館者を発見へと向わせるような発問の研究
 - オ ボランティア活動のための休憩
- ③ ボランティア室には勝手に私物をもちこまないで下さい。
※個人の持ち物は、自己の責任で管理して下さい。
- ④ ボランティア室の使用時間は原則として、館の開館日の開館時間から閉館時までとします。
- ⑤ ボランティア室は原則として使用した者が片づけ（整備・清掃）をするものとします。

(4) ボランティア活動記録簿の記入について

- ① 活動終了後ボランティアは、ボランティア室にある活動記録簿に、活動の記録をおこないます。
- ② 分野別勉強会への参加は“ボランティア活動の評価基準”にそぐわないため活動記録簿には記入できません。

※各勉強会のボランティアの参加状況は、各勉強会の世話係が記録（名簿管理や出席状況等）をおこない、12月にまとめて博物館教育普及担当へ提出します（全体会にて勉強会参加者名簿配布）
- ③ 「その他」の欄は、P.1の(3)④その他など、館が臨時召集した内容等を記録します。
- ④ 「会議」の欄は、館が主催する会議への参加を記録します（全体会、曜日班定例会、ボランティア連絡会など）。
- ⑤ P.2の(7)②に示す活動時間は、1ヶ月で6時間程度を原則とします。常設展示解説（ジブンBOX）もこの時数に含まれます。
- ⑥ 1日で複数種類の活動をおこなった場合。
例：午前＝学校対応、午後＝ふれあい体験室支援、出席簿の記入は、2カ所の記入を認めます。

※短時間活動は、1活動当たり30分以上1時間以内と定義する。

※短時間で2カ所の活動を実施しての記入も認める。
- ⑦ 都合により館でのボランティア活動が不可能になる場合、博物館教育普及担当へ活動休止の理由連絡を入れるとともに、活動記録簿にも活動休止のメモを記入します。

(例：7/5～8/31まで活動休止します。など)

(5) 欠席時の連絡について

- 活動当日、都合で来館が不可能になった場合、登録証の裏面に示す番号へ連絡を入れて下さい。
- ①博物館教育普及（大川、玉城） TEL 098-851-5401（内線253）
 - ②沖縄美ら島財団教育普及（大濱、植田、比嘉） TEL 098-941-8200（代表）
098-941-1232（直通）
内線151（大濱） 155（比嘉、植田）
 - ③友の会事務所（座波、野里） TEL 098-868-2722（内線113）
※曜日班ならびに勉強会の問い合わせについては、各世話係りへお願いします。

(6) 台風時の対応

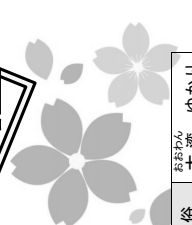
台風時の活動は、館の開館状況に準じます。

- ①午前7時現在、暴風警報（以下「警報」）が発令されているときは、午前中閉館とします。
- ②正午時現在、警報が発令されている場合は午後も休館とします。
- ③開館中に警報が発令された場合は、直ちに休館とします。

※安全面が確認された時のみ、来館をお願いします。

5月1日発行 第115号 (H29 5月)

博物館 ボランティア通信



●平成 29 年度 博物館班メンバー紹介

副館長	むらやま つよし 村山 剛	山崎 真治	しんじん 真治	おがさわら 大瀧 ゆかり
班長	とけい 園原 謙	やまざき 山崎 大祐	たけふし 滝岬 大祐	やまもと 山本 正昭
歴史	とけい 園原 謙	かみすけ 久部良 和子	かみすけ 和子	かみすけ 和子
歴史	とけい 園原 謙	とけい 園原 謙	とけい 園原 謙	とけい 園原 謙
美術工芸	とけい 園原 謙	とけい 園原 謙	とけい 園原 謙	とけい 園原 謙
美術工芸	とけい 園原 謙	とけい 園原 謙	とけい 園原 謙	とけい 園原 謙


教育普及 大川 剛

普及補助 玉城 ちひろ

平成 29 年度のボランティア登録者
博物館ボランティア 67 名
ふれあい体験室専属ボランティア 11 名
新年度もご協力よろしくお願致します！！

●教育普及班 着任のあいさつ

【教育普及業務補助員 玉城 ちひろ (たましろ ちひろ)】
木野さんの後任として赴任することになりました、玉城 ちひろです。
3月まで福岡で工芸を勉強してました。
微力ながら、博物館の教育普及を盛り立てていけるよう頑張りますので、
どうぞよろしくお願致します。



ボランティア各勉強会日程お知らせ(ボラ室掲示版も確認ください)

- 歴史勉強会：今年度は、第1金曜日に勉強会開催 10:00より
- ※5月13日(土)10:00～
- 空手会館(現地集合・解散)30名ほど。久部良学芸員案内。
- 美術工芸勉強会：第4土曜日 琉球漆器について、10:00より

博物館

ボランティア通信

115号

沖縄美ら島財団
Okinawa Churashima Foundation

教育普及班 新メンバーをご紹介します！



よろしく
お願致します♪

比嘉 麻乃(ひが あさの)

博物館ボランティアの皆様、初めまして！
今年度前川貴子さんの産休代理として教育普及を担当することになりました、比嘉麻乃と申します。ふれあい体験室の管理・運営が私の主な仕事となるのですが、子ども向けの体験室と言ってもその展示の分野は幅広く、専門的な内容になっていて知識不足を痛感しています。一日でも早く業務を覚えなければと、ボランティアのふれあい体験室スタッフさんたちの後ろをついて回る日々です。ボランティアの皆様にもご指導お願したいと思っています。名護市出身、元気が取り柄の27歳です。これからどうぞよろしくお願致します！

植田 瑞生(うえた みずき)

今年度の4月から中島さんの後任で教育普及担当になりました。植田瑞生と申します。今年の3月まで阿山県の倉敷芸術科学大学で油画を専攻し学んでいました。4年間岡山県にいたので、沖縄の情報が4年間抜けていて、社会人1年生なので皆様に教えていただくことばかりだと思いますが、早く仕事を覚えて皆様と楽しくお仕事をしたいと思っています。いろいろお聞きすることがあると思いますが、ご指導よろしくお願致します。

教育普及班
大浜萌子(博物館担当) 保久村智恵(美術館担当)

今年のボランティア通信も
普及メンバーがリレー形式で
コラムを書きます！

ボランティア

通信

期日	内容
5/13	開講式、ボランティア活動について講義
5/20	実習①(体験キット、常設展開廊)
5/27	インターン期間
6/03	実習②
6/04-6/18	インターン期間
6/24	実習③、閉講式、登録証授与式

宇佐美学芸員講義。天球儀について、詳しく講義してくれました。



平成二十九年度ふれあい体験室専属ボランティア養成講座始動!

五月十三日(土)平成二十九年年度のふれあい体験室専属ボランティア養成講座がスタートいたしました。期間は六月二十四日まで。参加者は三名。講座のスケジュールは左記の通りです。

今年からは「インターン」期間を設けて、先輩ボランティアの皆さんとやり交流の持てる取り組みをしたいと思います。勉強会へのお誘いや体験キットの使い方など、皆様の暖かい声かけを宜しくお願い致します。



～6月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認ください)～

対象：博物館ボランティア・ふれあい専属ボランティア

※民俗勉強会・・・第1金曜日 10:00～

※歴史勉強会・・・6/10(土) 10:00～12:00 場所：ボランティア室
29年度 活動計画について(続)(※外間学芸員出席予定)

※美工勉強会・・・6/24(土) 10:00～12:00
①伊平屋の阿母加那志 ②君得大君の装身具について

※自然勉強会・・・6/9(金) 10:00～12:00 場所：ボランティア室
10:00～10:30 班会議、10:30～11:30 山崎学芸員による解説会
11:30～12:00 まとめ勉強会

※参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
※内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

☆お知らせ1 燻蒸・消毒休館前の作業(ボランティア室)

対象：博物館ボランティア・ふれあい専属ボランティア
募集用紙をボランティア室へ掲示します。

全体燻蒸・消毒期間(休館)・・・6/26(月)～7/5(水)

○養生作業・・・6/26(月) 10:00～12:00

○養生撤収・復元作業・・・7/5(水) 10:00～12:00

☆お知らせ2 ミーティング

○常設展示ガイドミーティング・・・6/20(火) 14:00～ 場所：実習室

○ボランティア連絡会・・・6/20(火) 15:00～ 場所：ボランティア室

☆お知らせ3 「博物館70年のあゆみ展」新収蔵品展

5/23(水) 開会式がありました。



「新収蔵品展」



70年の重みをかみしめました。



「博物館70年のあゆみ展」

☆お知らせ4 沖縄県立博物館友の会のコピー機使用について

ボランティア連絡会に資料を友の会で印刷するのはご遠慮願います。なお、分野別勉強会で使用する資料については、指定管理者で印刷しますので、大浜・比嘉・植田までお声掛けください。宜しくお願いします。

沖縄県立博物館

ボランティア通信

7月1日発行
第117号 (H29 7月)

六月十三日(火)から二十七日(火)まで前期博物館学芸員実習がありました。琉球大学の学生が参加しました。皆さんの温かい声掛けのおかげで教養普及について楽しく伝えることができました。ご協力ありがとうございました。



博物館
学芸員実習



☆夏休み学芸員教室

対象：博物館ボランティア

教養名・ボランティアの募集状況・勉強会の日程は、ボランティア室掲示で確認ください。

時間	7/25 (火)	7/26 (水)	7/27 (木)
10:00~11:30	生物・山崎(仁)	民俗：大湾	地学：宇佐美
13:00~14:30	人類・山崎(真)	美工：與那嶺	考古：山本
15:00~16:30	歴史：久部良	美工：篠原	歴史：外間

☆ふれあい体験室 PM 清掃

対象：博物館ボランティア・ふれあい専属ボランティア
募集用紙をボランティア室へ掲示します。

日程	時間	募集内容	募集人数
6/26 (月)	10:00~12:00	ふれあい体験室養生(燻蒸前作業)	5~6名
7/5 (水)	10:00~12:00	ふれあい体験室回復(燻蒸後作業)	5~6名
7/24 (月)	13:20~15:00	展示物のほこり落としなど	5~6名

～6～7月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認ください)～

対象：博物館ボランティア・ふれあい専属ボランティア

※自然勉強会・7/14(金)10:00~12:00 場所：ボランティア室
宇佐美学芸員による「沖縄の地層」の勉強会

※民俗・歴史・美工勉強会・未定(最新情報は、掲示板をご確認ください。)

☆ 参加希望者は、掲示板に前名の記入をお願いします。

☆ 内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

博物館



ボランティア通信

117号

着任のごあいさつ

沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 総括責任者
一般財団法人 沖縄美ら島財団
大竹 康道

はいさい！ぐすーよー ちゅーうがなびら。

6月1日付で指定管理者総括責任者に着任いたしました大竹康道です。

前職は、本部町の海洋公園・沖縄美ら海水族館や財団が各所で運営する営業店舗を担当しております。これからみなさんと一緒にできることをたいへんうれしく、また楽しみに思っております。

さて、今までたくさんの方々が育んできた大切な大切な沖縄の自然・文化・歴史を、県民の方へはもちろのこと、県外や海外の方々、そして未来へと伝えることが当館に託された使命かと思えます。博物館ボランティアのみならず、すでに日ごろから館の運営に多大なご尽力をいただいておりますが、この使命を達成するためにも「県民が集い、学び、発表する」自由で楽しい活動の舞台を整えることにより、みなさんとより一層力を合わせて地域に愛される博物館・美術館を作り上げていきたいと思っております。

どうかこれからも、みなさんの引き継ぎのご支援ご協力のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

2017年6月



くまモンもチャレンジャー！！



夢中になって弾いていました。

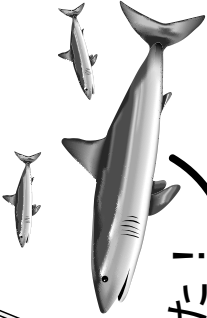
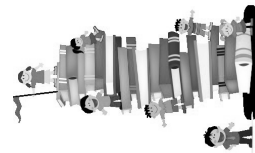
熊本に行ってきました！
三線体験キルト大人気

六月十七日(土) 十八日(日)
全国ミュージアムキッズフェア

このたび、熊本県立美術館 増幅にて行われました、「全国ミュージアムキッズフェア」に、昨年同様参加してきました！
今回は、優てよう三線をテーマにふれあい体験室でもおなじみの三線を持っていきました。
会場となった山鹿市では、弦楽器が全くないそうで、「ワラサには聞いていたが、初めてギター以外の弦楽器に触れた！」と大気でした。そして熊本といえば、沖繩のプースにきてくれて、会場を盛り上げてくれました！二日間、三十度以上の熱気に負けないくらい暑いイベントでした！(大川)

～8月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認ください)～

- 対象：博物館ポランテア・ふれあい専属ポランテア
- ※ 民俗勉強会・・・8/4(金) 10:00～12:00 場所：ポランテア室
「群書制」について、展示室での勉強会 講師：大澤学芸員
 - ※ 歴史勉強会・・・8/12(土) 10:00～12:00 場所：ポランテア室
ガイドマニキュアル改訂版について
(改訂版は、近日発行予定。勉強会当日配布。)
(1) 改訂版の説明 講師：大川学芸員
(2) 内容確認
 - 2. 展示解説
「屏風展(仮)」について 講師：外間学芸員
 - ※ 美工勉強会・・・沖縄の焼物、「琉球漆器」について
 - ※ 自然勉強会・・・未定 (最新情報は、掲示板をご確認ください。)
- ☆ 参加希望者は、掲示板に各前の記入をお願いします。
☆ 内容が変更する場合がございますので、事前にご確認ください。



夏休みがはじまりました！

7/22(土)より夏休み催事第一弾 体験学習教室「昆虫標本作り」を開催しました！



昆虫標本作り

① 虫の捕り方を知る

生物担当の山崎学芸員が網の使い方をレクチャーした後、新都心公園に出かけて昆虫採集にチャレンジャーしました。



② 標本の作り方を知る

ちようちよやセミ・バッタなど、昆虫の特徴を見極めながらオリジナル標本作りにチャレンジャーしていただきました！完成が楽しみです！



コッコツと作業を進めます



せみとバッタのシリーズ



ちようちよのシリーズ

③ 箱を作っておさめて8/19に完成予定！完成品は次号にお知らせします。

沖縄県立博物館

9月1日発行 第119号 (H29 9月)

通信

ポランティア

沖縄県立博物館・美術館
TEL: 098-851-5401
FAX: 098-941-3650

～ご協力ありがとうございました!～

☆夏休み! こどもフェスタ 2017 博物館学芸員教室☆

7/25 (水)



「オリジナル紙飛行機を作ろう!」
仁徳学芸員 (生物)



「鳥籠を作ろう!」
真治学芸員 (人類)



「知り隊! 鶴のごと!」
久朝良学芸員 (歴史)

7/26 (木)



「薫餅作りにチャレンジ!」
大島学芸員 (民俗)



「折り紙でミジンコを作ろう!」
興那学芸員 (美工)



「やさしものを作ろう!」
龍崎学芸員 (美工)

7/27 (金)



「アンモナイトの脚型をさがせ!」
宇佐美学芸員 (地学)



「考古学者体験!」
山本学芸員 (考古)



「漆職シーサーを作ろう!」
外間学芸員 (歴史)

☆その他☆

7/22 (土)、7/23 (日)、8/19 (土)



体験学習教室「昆虫標本作り」
仁徳学芸員 (生物)



バックヤードツアー



8/2 (水)

先生方 (19名) に、「総合展示ガイド」や「民具体験」をレクチャーしました。

成功を花に!



～9月の勉強会日程 (詳細は掲示板をご確認ください)～

対象: 博物館ポランティア・いれあい専属ポランティア

※ 民俗勉強会・・・勉強会はお休みします。
9/2 (土)、大湾先生の学芸員講座がありますので、時間がある方は参加して下さい。

※ 歴史勉強会・・・9/9 (土) 10:00～12:00 場所: ポランティア室
1. ガイドマニュアルの内容について (現在使用中のガイドマニュアルをご持参下さい。)
2. 紀要掲載論文の勉強 (第10号 [2016] p51～)
三枝大悟学芸員著 県立博物館・美術館所蔵「琉球船の図」と関連資料について (紀要10号をお持ちでない方は、掲示板をご確認下さい。)

※ 美工勉強会・・・未定。(最新情報は、掲示板をご確認下さい。)

※ 自然勉強会・・・9/22 (金) 10:30 「わんさか大浦パーク」集会

「天仁屋の稲曲他を見る」 着替え、履き替え靴必須!!

☆ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
☆ 内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。



■ふれあい体験室からのお知らせ■

ふれあい体験室のシートが新しくなりました！



これまでのふれあいシートから…



〈使い方〉

ステップ①：まずは開いてみよう！
ふれあい体験室イチャオンの体験キットに関する情報が載ってるよ！
どんなキットがあるか探してみよう！



ステップ②：イチャオンの体験キットで遊んでみよう！体験したあとはふちっと立ち上げ！



ステップ③：全部体験すると・・・
キットの絵が浮き出てくるよ！
これで書もふれあい体験室マスターだ！



おうちで家族に自慢しちゃおう♪

これまでのふれあいシートとの違いは、ずばり「シートを持ち帰れるようになったところ」です。子供たちがふれあい体験室で過ごした時間（楽しかったこと分かったこと驚いたこと）を自宅でも振り返ることができ、その思い出を家族と共有できるようになりました。また、体験するキット数をイチャオン13キットに絞ったことで、より気軽に遊べるシートになりました。

ポランティアの皆さんも一度手に取り、来館者と一緒に遊んで下さい♪

（ふれあい体験室 比嘉）

ふれあい体験室ワークショップ、大盛況！

7月～9月開催している「ふれあい博士のかんたん化石のレプリカづくり」。

おかげさまで毎週満員御礼でございます！

お湯の取り扱いのあるワークショップということでポランティアの皆様にご協力をお願いしていますが、毎週たくさんの方々が参加して下さい、とても助かっています。本当にありがとうございます！

8月より定員を増員しています。引き続き、ご協力よろしくお願ひします！



ふれあい体験室スタッフ・小柳 果野子さん退職

ポランティアの皆様、こんにちは。

突然ですが、私は8月をもちましてふれあい体験室を退職することになりました。2年間、大変お世話になりました。

ポランティアの皆様には、私がお客様に質問されたときや分からないことがあると、すぐ教えていただいたり何度も助けていただきました。また、おしゃべりをするときも色んな話を聞くことができ、心休まるとても楽しいひとときでした。

私事ではありますが、来年の4月から損保ジャパン日本興亜という会社に就職が決まりました。こちらは得た経験を生かして頑張りたいと思います。会社は那覇市内と近くにありますが、またふれあい体験室に遊びに来ます。その時はぜひ声をかけて下さい！

本当にありがとうございました。

小柳 果野子



ボランティア通信

2日間でのべ1,428人が参加しました☆



2017年
10/21 (土)・22 (日)
10:00-17:00
対象/子供から大人 入場無料*
*ただし、ワークショップは参加費が必要

海を越えて体験キットを郵送して下さり、
お礼状も届きました！
お礼状も届きました！
お礼状も届きました！

ふれあい体験室で「わあお！感動体験」
を行いましたよ！
ふれあい体験室で「わあお！感動体験」
を行いましたよ！

ふれあい体験室「わあお！感動体験」
を行いましたよ！
ふれあい体験室「わあお！感動体験」
を行いましたよ！

ふれあい体験室「わあお！感動体験」
を行いましたよ！
ふれあい体験室「わあお！感動体験」
を行いましたよ！

ふれあい体験室「わあお！感動体験」
を行いましたよ！
ふれあい体験室「わあお！感動体験」
を行いましたよ！

ふれあい体験室「わあお！感動体験」
を行いましたよ！
ふれあい体験室「わあお！感動体験」
を行いましたよ！

ふれあい体験室「わあお！感動体験」
を行いましたよ！
ふれあい体験室「わあお！感動体験」
を行いましたよ！

ふれあい体験室「わあお！感動体験」
を行いましたよ！
ふれあい体験室「わあお！感動体験」
を行いましたよ！

ふれあい体験室「わあお！感動体験」
を行いましたよ！
ふれあい体験室「わあお！感動体験」
を行いましたよ！



植田オリジナルなまこバジも
この日のために作りました(笑)

ご協力いただきましたボランティアのみなさん
本当にありがとうございました。

ボランティア通信

沖縄県立博物館・美術館
TEL: 098-851-5401
FAX: 098-941-3650

関西出張

神戸・大阪・京都・奈良・滋賀

☆本心レポート☆

十一月十九日(日)神戸アートビレシセンターにて「ミュージアムキッズパーティー」に参加してきました。本館からは貝やタネなどの自然史系体験キットと、三線を紹介しました。テーマは『さわくて、かなでておきはく体験』
現地では当日神戸マラソンがあり、来場は少ないかなと予想していましたが、会場には親子連れが多く詰めかけ、一日たつぷり楽しむ方が多い印象でした。スタッフには琉球大学風樹館の島袋さんも同行していただき、自然史部門の解説をしていただきました。
三線は、初めて触れる沖縄の楽器に興味津々。目を輝かせていました。
この日は寒波の中、会場では熱気あふれる熱い一日となりました！



ミュージアムキッズパーティー

☆五感レポート☆

十一月十八日(土)二十三日(木)、大川、玉城、植田の三人で関西出張に行つて参りました！兵庫・大阪・京都・奈良、滋賀の博物館や美術館を回り、学校連携やボランティアの制度、体験キット等についてお話を聞いてきました。
特に、国史民俗博物館(大塚)で、言目の字芸員・広瀬浩二郎氏に会えたのは貴重な経験になりました。見えない方にとって物に触れると言うことは、その物を通して他の地域の人と出会うことだと改めて体験キットの大切さを実感しました。
他に、来年の文化講座の件で、奈良県立万葉文化館にお邪魔したのですが、企画担当のおじさま達の監業努力に圧倒されました。やっぱり、地元で愛されることが博物館を盛り立てる上で大事だと感じました。沖縄県立博物館・美術館も貴方に益々愛されるよう頑張りたいです。



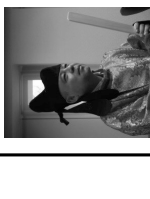
国立民族学博物館



奈良県立万葉文化館



奈良県立万葉文化館



国立民族学博物館

ポランティア通信

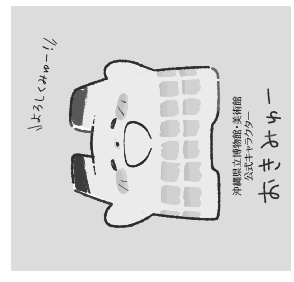
10th ANNIVERSARY
平成29年11月1日
おもろまちに誕生し10周年を迎えました。

おかげさまで11月1日に開館10周年を迎えました。県民の皆さまはもとより沖縄県に観光で訪れる県外や海外の方々にもより親しみやすい施設となるように、当館の愛称とPR大使としてマスコットキャラクターを今年の夏休み期間(8月8日～9月8日)に公募しました。最終的に愛称256件、マスコットキャラクターには862件もの応募を頂きました。当館関係者による選考委員会の厳正な審査の結果、愛称と公式キャラクターが決定しました!

愛称は、**Okimu**
おきみゅー

「おきみゅーにいこう!」「今日はおきみゅーで民具体験をするさあ」などなど、会話の中でも気軽に使っていただけますと嬉しいです。

キャラクターは、
おきみゅーちゃんです。



ポランティアのみなさんには、おきみゅーちゃんバッチをお配りしますので名刺につけていただければ幸いです。引き続き宜しくお願いします。

連絡会・全体会のお知らせ
Oポランティア連絡会 12月27日(木)午後3時～4時
対象：博物館ポランティアお世話係

ふれあい体験室IPM清掃
O12月26日(月)午後1時20分～3時 ※展示物のほごり落とします。5～6名募集します。
対象：博物館ポランティア・ふれあい体験室専属ポランティア

民具体験(小学校3年生) ご協力よろしくおねがいします。 対象：博物館ポランティア
※募集用紙は随時ポランティア室に張り出致します。

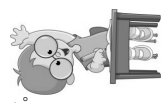
月	火	水	木	金	土	日
1 休館日	2	3	4	5	6	7
8	9 休館日	10 埋花小 1+1クラス 9:45-11:30	11	12 慶安小 3クラス 9:45-11:50	13	14
15 休館日	16 安謝小 3クラス 9:40-11:30	17	18 小暮小 2クラス 9:45-11:25	19	20	21
22 休館日	23	24 さつき小 3クラス 9:45-11:30	25	26 豊小 2クラス 9:45-11:00	27	28
29 休館日	30	31				

民具体験の受入について

●2018年11月

～12月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認ください)～

- 対象：博物館ポランティア・ふれあい専属ポランティア
- 民俗・自然勉強会・12/1(金)10:00～12:00 場所：ポランティア室
合同で「海の沖縄」の展示解説会をします。
10:00-11:00 大澤学芸員
11:00-12:00 山本学芸員
 - 歴史勉強会・12/9(土)10:00～12:00 場所：ポランティア室
1. ガイドマニュアルの内容を確認し、より一層の理解を深めます。
(1) 展示解説パネル及び展示物の確認をします。
(2) 上記に関する疑問点や意見等があれば話し合い、情報交換等を行います。
2. 展示解説：10周年記念特別展 外間学芸員
 - 美工勉強会・未定 ※最新情報は掲示板をご確認ください。
- ※参加希望者は、掲示板に名前記入をお願いします。
※内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。



沖縄県立博物館

12月1日発行 第123号 (H29 12月)

沖縄県立博物館・美術館
TEL: 098-851-5401
FAX: 098-941-3650

ポランティア



通信

新しい年がはじまりました。ボランティアの皆さんには、旧年中は学校対応や教職員向け講座、10周年特別展催事など様々な場面に於いて活躍いただき、感謝申し上げます。

ボランティアの皆さん、そして私たち教員層及び担当にとりましても今年の牛支「成」のよろこび、目標に向かって楽しくに疾走する、飛躍の年になれたと感じます。

なにとぞ今年もご縁じとして公私ともに充実した年となりますよう、また本館におきましては「来館者が豊か博物館へ」をスロトカに、共に邁進して参りましょう。宜しくお願い申し上げます。(木川)



連絡会・全体会のお知らせ

○ ボランティア連絡会 1月16日 (火) 15:00~16:00

対象：博物館ボランティアお世話係

ふれあい体験室 IPM 清掃

○ 1月22日 (月) 13:20~15:00 ※展示物のほこり落としなど、5~6名募集します。

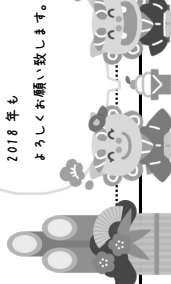
対象：博物館ボランティアお世話係

～12月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認ください)～

対象：博物館ボランティア・ふれあい専属ボランティア

- 人類学・自然史勉強会・1/12 (金) 13:00~14:30 場所：ボランティア室
10周年記念特別展「海の沖縄」の展示解説会 山本学芸員
- 歴史・考古勉強会・1/13 (土) 10:00~12:00 場所：ボランティア室
1. ガイドマニュアルの内容確認 (最終版に向けて)
2. 個人発表 島袋美智子「泡盛のルーツを訪ねて(タイ、ミャンマー、ラオス、中国)」
3. 学芸員講話 (予定) 久部良学芸員
- 民俗勉強会・1/5 (金) 10:00~12:00 場所：ボランティア室
お墨について (予定)
- 美工勉強会・1/27 (土) 10:00~12:00 場所：ボランティア室
沖縄の焼物と漆器について (予定)

☆ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
☆ 内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。



一般財団法人
沖縄美ら島財団
Okinawa Churashima Foundation

沖縄県立博物館

ボランティア通信

ふれあい体験室ワークショップ

■「海へのあこがれ～ジェルキャンダルで小さな海を作ろう!～」■

海の沖縄展関連として、沖縄の海“イノー”をテーマに開催したこのワークショップ。

おかげさまで、この3ヶ月間で349人(12/16現在)もの参加がありました! 去年の同時期の参加人数(176人)と比べると、なんと2倍!! 大人気のワークショップとなりました!



今回も多くのボランティアさんにサポートしていただきました。本当にありがとうございます!!



■2018年1・2・3月ワークショップは・・・!?■

次回もやっちゃいます! 海の沖縄展関連!

その名も…「海へのあこがれ～波もようトートバッグを作ろう!～」

今回は美術工芸分野から、沖縄の工芸品において海の美しさをどのように表現しているのか、特に波模様注目してオリジナルのトートバッグを作ります。乞うご期待!!!

ふれあい体験室に新しいスタッフが入りました♪



11月からふれあい体験室に新しい仲間が加わりました!

左) 神元 七智子 (かみもと なちこ) さん
右) 安座間 早苗 (あざま さなえ) さん

よろしくお願ひします♪
(比嘉)

沖縄県立博物館

2月1日発行 第124号 (H30 2月)

沖縄県立博物館・美術館
TEL: 098-851-5401
FAX: 098-941-3650

ボランティア

ボランティア通信

沖縄県立博物館・美術館 博物館
2月1日発行 第124号 (H30年2月)

一般財団法人
沖縄美ら島財団
Okinawa Churashima Foundation

2/23 (金) ~ 2/25 (日)

「第10回 移動展 in 北大東島」が始まります!

今年度の移動展では、恐竜の骨格など、例年移動展で展示するもの以外に、「開館10周年記念特別展 海の沖縄」の資料を出品します。

民具体験 (小学校3年生) 対象: 博物館ボランティア

- ※ 募集用紙は随時ボランティア室に張り出し致します。
- 2/1 (木) 前田小 (2クラス)・・・ 9:45~11:20
- 2/2 (金) 上間小 (3クラス)・・・ 9:45~11:40
- 2/7 (水) 銘苅小 (4クラス)・・・ 9:45~12:00
- 2/8 (木) 城岳小 (3クラス)・・・ 9:45~11:30

連絡会・全体会 対象: 博物館ボランティアお世話係

○ ボランティア連絡会 2/14 (水) 15:00~16:00 場所: 3F 会議室

ふれあい体験室 IPM 清掃

対象: 博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティア
※ 継続清掃期間 2/19 (月) ~ 2/22 (木)
○ 2/26 (月) 13:20~15:00 ※ 展示物のほこり落としなど、5~6名募集します。

~☆~2月の勉強会日程 (詳細は掲示版をご確認ください) ~☆~

対象: 博物館ボランティア・ふれあい専属ボランティア

- 民俗勉強会・・・2/2 (金) 10:00~
那覇市上間小学校の体験学習がありますので、参加協力をお願いします。
勉強会は中止します。
- 歴史・考古勉強会・・・2/10 (土) 10:00~12:00
新収蔵品の取り扱いについて
資料の段階から展示室で展示されるまでの手順を、実際に資料に触れながら久原良学芸員に教えて頂きます。

- 人類学・自然史勉強会・美工勉強会・・・未定
※ 最新情報は掲示版をご確認ください。

☆ 参加希望者は、掲示版に名前の記入をお願いします。

☆ 内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。



ルーペの使い方はどうでしょう



むずかしいよー!



港川人の骨バズルに夢中になる子や顕微鏡で星砂を探す子石の魅力にはまった子そして、子供さんと一緒に楽しむ保護者のみなさん。みーんな笑顔で当館イチオシのキットを楽しんでいました!

会場には、28の施設が約400人のお客様とサイエンスを通じて博物館の魅力を伝えることができました。

沖縄県立博物館

3月1日発行 第125号 (H30 3月)

沖縄県立博物館・美術館
TEL: 098-851-5401
FAX: 098-941-3650

ポランティア通信

移動展 ～北大東島～

平成30年2月23日(金)より25日(日)まで、北大東村人材交流センターにて、移動展を開催しました！(α切の関係上、移動展の様子は次回にお知らせ致します)

併設されている「民俗資料館」では、北大東島の資料が豊富に展示されています。館長の特別展記念講演や、学芸員による解説など、催事にも利用させていただきました。



民具体験 (小学校3年生) ご協力よろしくおねがいします。 対象：博物館ポランティア

※ 募集用紙は随時ポランティア室に張り出致します。

○ 3月 1日(木) 9:30～11:30 大連小学校 (1クラス)

ポランティア連絡会 対象：博物館ポランティアお世話係

○ 3月 20日(火) 午後3時～4時 場所：ポランティア室



平成29年度も、たくさんのご支援ありがとうございました！

～☆～3月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認ください)～☆～

対象：博物館ポランティア・ふれあい専属ポランティア

○ 人類学・自然史勉強会、歴史・考古勉強会、民俗勉強会、美工勉強会・・2/16 現任、詳細未定。

※ 最新情報は掲示板をご確認下さい。

☆ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。

☆ 内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

沖縄県立博物館・美術館 博物館
3月1日発行 第125号 (H30年3月)

ポランティア通信

一般財団法人
沖縄美ら島財団
Okinawa Churashima Foundation

旧正月イベントを実施しました！
「旧正月は『おきみゆー』へ行こう！ feat. 獲得久榮昇～旧正月が楽しく学べる3日間～」というこことで、2/16(金)から2/18(日)まで様々なイベントを実施しました。今回は、その様子を報告します。

獲得久榮昇先生



小糸高校芸術科美術コース書道専攻の学生と一緒に書いた作品の前で一日館長の委嘱式を行う獲得久榮先生。



NPO法人沖縄伝承話資料センターのみなさんによる旧正月にちなんだ民話のあたり。面白かったようです。



ペーパークラフトでカリジナルのミルク神をつくる体験教室。



大湾学芸員の展示解説会も大盛況！



トコトコがく干支のおもちやランリースは、旧前から実施し今年で干支一周年しました。来年もどうぞ期待！



本年度も大変お世話になりました。また次年度も引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

沖縄県立博物館

4月1日発行 第126号 (H30 4月)

通信

沖縄県立博物館・美術館
TEL: 098-851-5401
FAX: 098-941-3650

ボランティア

移動展～北大東島～

平成30年2月23日(金)より25日(日)まで、北大東村人材交流センターにて、移動展を開催しました！会場には親子連れで大いに賑わっていました！今月号では、その模様をお知らせ致します。(大川)

2月23日(金)



体感キットや美術館の遊具で遊ぶ園児達。



23日初日は、11時開始の開会式からスタート。幼稚園から園児の皆さんが駆けつけてくれました。恐竜の大きな展示物に、驚きの声が上がっていました。



2月24日(土)



担当は宇佐美学芸員、地元中学生が珍しい岩石を発見しました！

2日目24日は、島内を巡るジオツアー、会場外では美術館が作家をお招きしての染め物体験。地元の月桃を使って絞染めを行いました。



夜は館長の講演会が、併設されている民俗資料館で執り行われました。



沖縄美ら島財団、比嘉氏によるトートバッグ作りの様子。



2月25日(日)

最終日25日は、美ら島財団主宰のワークショップが行われ、多くの親子連れが訪れてくれました。また、会場で上映された地元北大東空港の建設映像は大人気でした。

ボランティア総会 ※ボランティア証を交付します。全員参加をお願いします。
○平成30年4月20日(金) 14:00～16:00 場所：博物館講堂
4月のボランティア連絡会は、総会をもって行います。

ふれあい体験室IPM清掃 対象：博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティア
○4月23日(月) 13:20～15:00 (仮)
展示物のほこり落としなど、5～6名募集します。
まだ日程が確定していないので、決まり次第ボランティア室に掲示します。

～4月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認ください)～

対象：博物館ボランティア・ふれあい専属ボランティア

○歴史・考古勉強会・4/14(土) 10:00～12:00 3F 研修室

新収蔵品の取扱いについて(練) 担当：久部良学芸員

- ① 新収蔵品を展示室で展示できる状態にするまでの手順を、実物に触れてから学習します。
- ② 対象の品は寄贈された「世界の古銭及び貨幣」です。5/22(火)に展示予定です。

○人類学・自然史勉強会、民俗勉強会、木工勉強会・詳細未定
※ 最新状況は掲示板をご確認下さい。

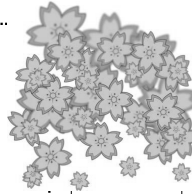
- ☆ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
- ☆ 内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

転勤者のお知らせ(博物館班)

この度の人事異動による転勤者のお知らせをさせていただきます。

○山崎 仁也(生物担当) 転勤 → 沖縄県立八重山高等学校

2017年度もたくさんのご支援ありがとうございました！ (博物館 教育普及担当一同)



沖縄県立博物館・美術館 博物館
4月1日発行 第126号 (H30年4月)

一般財団法人
沖縄美ら島財団
Okinawa Churashima Foundation

ポランティア通信

ふれあい体験室ワークショップ
北大東島行ってきました!

**海へのあこがれ
～海もよりトートバッグを作ろう!～**

10月10日(日) 10:00～12:00
会場: 北大東島 体験室

【内容】
トートバッグの作り方を学び、自分だけのオリジナルトートバッグを作ります。
【参加費】
1人1,000円(材料費含む)

2/25 (日)
10:00～12:00
会場: 北大東島 体験室

【内容】
トートバッグの作り方を学び、自分だけのオリジナルトートバッグを作ります。
【参加費】
1人1,000円(材料費含む)



バッグを作る前に渡もようについてお勉強。
ちっちゃな子たちもしっかりお話を聞いて
いました。



中学生のお兄ちゃん・お姉ちゃんたちに大人気!

※本誌掲載のワークショップは、沖縄県立博物館・美術館で開催されています。



仕上げのアイロン掛け。もうすぐ完成だ!



2月25日に開催し、島の子供たちも含めて49名が参加しました。初めての移動展ワークショップでしたが、友の会キヤラハン隊のみなさんのサポートもあり、おかげさまで無事に乗り切ることができました。本当にありがとうございました!



仲良く、ハイチーズ!
どのバッグも個性が溢れています!



本年度も引き続き締きご支援
のほどお願い申し上げます!

XI その他

1 移動展

(1) 移動展について（平成 29 年度）

- ①名称：第 10 回 沖縄県立博物館・美術館 移動展 in 北大東島
- ②会期：平成 30 年 2 月 23 日（金）～25 日（日）
- ③開催時間：午前 9 時～午後 7 時（金曜日は 11 時から）
- ④開催地：北大東村（北大東村人材交流センター）
- ⑤対象：一般 ⑥観覧料：無料
- ⑦主催：沖縄県立博物館・美術館、（一財）沖縄美ら島財団、北大東村、北大東村教育委員会
- ⑧協賛：琉球エアコミューター（RAC）
- ⑨協力：県立博物館友の会、県立美術館支援会 happ



(2) 趣旨

沖縄県立博物館・美術館では、県民が本県の自然・歴史・文化や芸術を正しく認識できるよう、これまで収集された資料を常設展示やコレクション展示で公開してきた。しかしながら島嶼県である本県では、当館の利用に不便を感じている離島や遠隔地に住む方々が多く、県民が等しく当館を利用することが難しい現状にある。移動展は、離島や遠隔地の方々に収蔵資料の展示をみていただくことによって、沖縄の自然・歴史・文化や、芸術への理解を深めていただくことを目的として実施する。また、当館では平成 29 年 11 月に新館開館 10 周年を迎えたことを記念し、「海」をテーマとした特別展を開催し、「海」をテーマとした巡回展としての移動展を北大東村において開催した。

(3) 移動展の実施状況

① 展示内容・参加人数・関連催事

○会場への来場 328人 ○関連催事への参加人数全 163人

内容	期 日	内 訳
展示 内容	博物館展示	<ul style="list-style-type: none"> ■「世界の化石と輝く石」……………恐竜の骨格標本、岩石の展示 ■「特別展 海の沖縄」資料 特別展において出展された、沖縄の地学・生物・歴史・民俗・考古・美術工芸に関する総合展示
	美術館展示	<ul style="list-style-type: none"> □「展覧会展示パネル」……………これまでの展覧会概要パネルの展示 □「沖縄の映画」……………県出身映画監督作品を上映
来場 人数	2月23日(金)	■来場 121人 (70歳以上1人、一般80人、高大0人、小中13人、未就学児27人)
	2月24日(土)	■来場 92人 (70歳以上5人、一般39人、高大1人、小中24人、未就学児24人)
	2月25日(日)	■来場 115人 (70歳以上6人、一般51人、高大1人、小中35人、未就学児22人)
関連 催事	2月23日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ■館長による講座「琉球の歴史と文化」 参加者数：34人 19：00～20：30 民俗資料館（北大東村人材交流センター内） 講師：田名 真之（沖縄県立博物館・美術館 館長）
	2月24日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ■学芸員による展示解説会「生物展示のここだけは見のがすな！」 参加者数：12人 16：30～17：30 北大東村人材交流センター・民俗資料館 講師：山崎 仁也（生物担当） ■北大東島ジオツアー「まっしろな石が語る島のヒミツとなぞ」 参加者数：24人 9：00～12：00 北大東島内・民俗資料館 講師：宇佐美 賢（地学担当） □月桃の根で染めてみよう！ 参加者数：44人 10：00～15：00（定員100人） 講師：江谷 紋子（染色家）
	2月25日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ☆（一財）沖縄美ら島財団取り組み ワークショップ 「海へのあこがれ ～波もようトートバッグを作ろう！～」 参加者数：49人 10：00・11：00・13：00・15：00（4回開催） 講師：比嘉 麻乃

■博物館 □美術館 ☆沖縄美ら島財団（指定管理者）



01 展示資料搬入風景



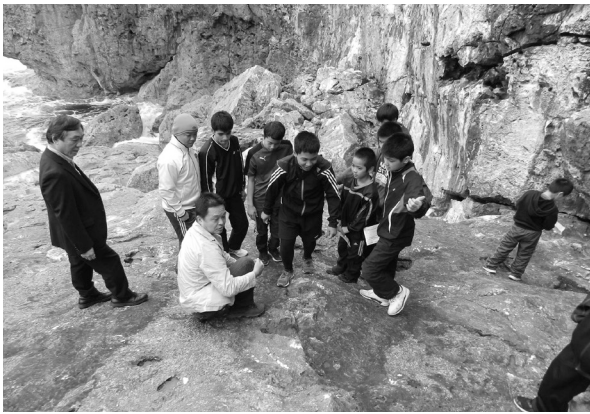
02 開会式テープカット



03 美術館の体験キットで遊ぶ園児



04 山崎学芸員による、展示解説会



05 宇佐美学芸員による島内ジオツアー



06 田名館長による講演会



07 島内の月桃を用いた染色体験



08 トートバッグづくりワークショップ

(4) 移動展のあゆみ

①首里旧館 昭和55年～平成17年(1980～2005)

※予算の単位:千円

回	開催市町村	会場	開催年	初開催	予算
第1回	具志川村	具志川村役場ホール	1980年		
	仲里村	仲里村農村生活改善センター			
第2回	今帰仁村	今帰仁村中央公民館	1980年		
第3回	粟国村	粟国村中央公民館	1981年		
第4回	渡名喜村	渡名喜村民会館	1982年		
第5回	伊江村	伊江村農村環境改善センター	1983年		
第6回	本部町	本部町立中央公民館	1983年		
第7回	平良市	平良市民会館	1984年		
第8回	石垣市	石垣市立八重山博物館	1985年		
第9回	伊是名村	伊是名村離島振興総合センター	1986年		
第10回	伊平屋村	伊平屋村離島振興総合センター	1987年		
第11回	多良間村	多良間村中央公民館	1988年		
第12回	与那国町	与那国町立離島振興総合センター	1989年		
第13回	南大東村	南大東島離島振興総合センター	1990年		
第14回	北大東村	北大東島離島振興総合センター	1991年		
第15回	竹富町	西表大原離島総合センター	1992年		
第16回	竹富町	波照間小学校体育館	1993年		6,001
第17回	伊良部町	B&G財団伊良部海洋センター	1993年		5,396
第18回	座間味村	座間味小中学校体育館	1994年		5,276
第19回	渡嘉敷村	渡嘉敷村中央公民館	1995年		6,389
第20回	国頭村	国頭村総合体育館	1995年		
第21回	久米島(具志川村、仲里村)	具志川村農村環境改善センター	1996年	1980年	6,168
第22回	与那国町	与那国小学校体育館	1997年	1989年	8,639
第23回	伊是名村	伊是名村離島振興総合センター	1998年	1986年	6,495
第24回	上野村	上野村営体育館	1999年	1984年	6,397
第25回	伊江村	伊江村B&G海洋センター	2000年	1983年	5,974
第26回	南大東村	南大東村地域スポーツセンター	2001年	1990年	6,255
第27回	多良間村	多良間村立多良間小学校体育館	2002年	1988年	5,995
第28回	伊平屋村	伊平屋村立伊平屋村民体育館	2003年	1987年	5,524
第29回	北大東村	北大東村立北大東村地域スポーツセンター	2004年	1991年	7,513
第30回	渡嘉敷村	渡嘉敷港旅客待合室	2005年	1995年	5,191

②おもろまち新館 平成20年～平成29年(2008～2017)

※博物館・美術館共同開催の為、名称を移動展と改称

回	開催市町村	会場	開催年	初開催	2度目	予算
第1回	東村	東村農民研修施設/東村山と水の生活博物館	2008年			4,538
第2回	久米島町	具志川農村環境改善センター/久米島自然文化センター	2009年	1980年	1996年	5,488
第3回	石垣市	石垣市民会館	2010年	1985年		6,149
第4回	宮古島市	宮古島市中央公民館	2011年	1984年	1999年	6,104
第5回	粟国村	総合センター・島あしび館	2012年	1981年		4,893
第6回	渡名喜村	渡名喜小中学校体育館・多目的活動ホール	2013年	1982年		6,048
第7回	西表島(竹富町)	中野わいわいホール	2014年	1992年		6,550
第8回	伊是名村	産業支援センター	2015年	1986年	1993年	5,621
第9回	座間味村	座間味離島振興総合センター	2016年	1994年		
第10回	北大東村	北大東人材交流センター	2017年	1991年	2004年	9,000

2 フリーパス

沖縄県立博物館・美術館では、県内の小中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらい、何度も足を運んで欲しいとする目的で「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」の印刷・作成を小・中学校に依頼している。

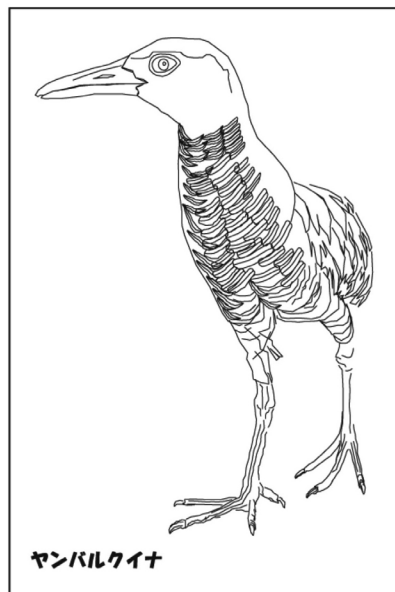
表紙は沖縄の自然、歴史、文化に関する図案を基本とするが、自らデザインした図柄でもよい。裏面にはマス目があり、来館の際にスタンプが押印できる形になっていて、学校で印刷した上で、裏面に校長印を押印し、来館時に総合案内に提出する。

利用の対象は、県内の小・中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用する。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどとして、配慮を行っている。

平成22年度から、ゴールした児童生徒には、情報センターにおいて名前入りの「フリーパス終了証」と記念品（オリジナルクリアファイルと消しゴム）をプレゼントしている。今年度の対象者は 0 名。

【表紙】

【裏面】

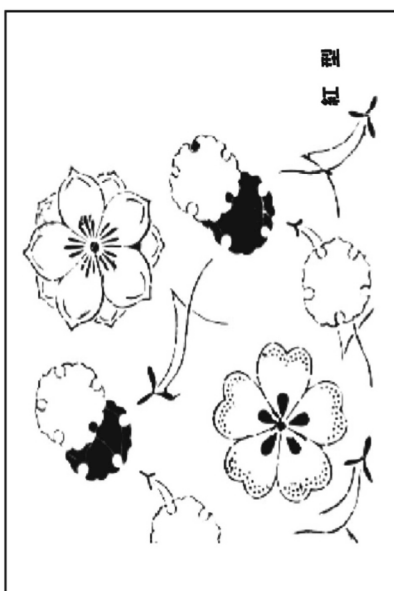


沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年 4年 5年 6年

氏名 _____ 学校名 _____ 校長印 _____

スタート!!				
				10
				ちょっと半分だよ!
				20
もう少し!				30
				ゴール!!



沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年

氏名 _____ 学校名 _____ 校長印 _____

スタート!!				
				10
				ちょっと半分だよ!
				20
もう少し!				30
				ゴール!!

3 職場体験

指定管理者が窓口となり、職場体験およびインターンシップを受け入れた。

平成 29 年度は、中学校・等学校 4 校 14 人を受け入れた。学生たちは、もぎりやミュージアムショップでの接客業務や情報センターでの資料整理他、ふれあい体験室における対応やワークショップの下準備等を体験した。また、博物館・美術館職員による学芸業務の紹介やバックヤード見学なども実施。博物館・美術館に関わる様々な職種を体験することができた。

体験内容：もぎり(入場券の確認)、ふれあい体験室(ワークショップの準備)、ミュージアムショップ(接客、商品の管理)、情報センター(新聞の切り抜き作業・その他資料整理)、博物館・美術館班(バックヤードおよび学芸業務の見学)

受入校：4 校 14 人(中学校 3 校、高等学校 2 校)

- ①那覇市立石田中学校(3 人) 8 月 30 日～31 日(2 日)
- ②沖縄県立沖縄工業高校(4 人) 9 月 12 日～14 日(3 日)
- ③那覇市立那覇中学校(4 人) 11 月 28 日～30 日(3 日)
- ④那覇市立金城中学校(3 人) 2018 年 1 月 31 日～2 月 1 日(3 日)



4 教育普及資料の貸出し

(1) 教育普及資料貸出一覧

	利用者	資料名	利用目的	貸出期間
1	沖縄県立盲学校	○土器4点 ○着衣体験キット	社会科授業	4月20日～27日(2017) 3月6日～13日(2018)
2	南城市立玉城小学校	○着衣の道具	民具体験学習	10月19日～25日
3	沖縄市立沖縄東中学校	○化石組み立て体験	社会科授業	10月18日～25日
4	那覇市立泊小学校	○骨スーツ○説明パネル	理科授業	10月31日～11月7日
5	那覇市立天久小学校	○むかしむんキット ○ティール ○ターゲット ○タライ	民具体験学習	11月14日～22日
6	浦添市立神森小学校	○むかしむんキット	民具体験学習	1月19日～26日
7	那覇市立天妃小学校	○むかしむんキット ○運搬の道具(魚)	民具体験学習	1月30日～2月6日
8	糸満市立光洋小学校	○洗濯板	民具体験学習	2月9日～16日
9	那覇市立石嶺小学校	○着衣の道具 ○運搬の道具(水) ○洗濯の道具	民具体験学習	2月16日～23日
10	浦添市立宮城小学校	○運搬の道具(魚) ○むかしむんキット ○洗濯板	民具体験学習	2月22日～2月28日
11	那覇市立松川小学校	○民具(5種類)	民具体験学習	3月14日～3月16日

博物館の教育普及関係資料等を貸出している。平成29年度の貸出団体数は12件であった。

(2) 教育普及資料活用一覧

	開催地	活用資料	活動内容	期日
1	熊本県立装飾古墳館 (熊本県)	○三線・サンバ ○御三味	ミュージアム キッズ全国フェスタ	6月17日～18日
2	大阪府立弥生文化博物館 (大阪府)	○化石組み立てキット	港川人展	7月1日～9月18日
3	神戸アート・ブリッジセンター(兵庫 県)	○三線 ○琉球玉手箱(自然史)	ミュージアム キッズパーティー	11月20日
4	21世紀の森体育館 (沖縄県名護市)	○琉球玉手箱(自然史) ○化石組み立てキット	なご サイエンスフェスタ	1月27日
5	ロワジールホテル ヒルトン沖縄北谷リゾート	○着物着衣 ○衣からわかること	ゆくゆんミュージアム	1月9日～10日 1月24日～25日

博物館の教育普及関係資料等を活用し、学校団体以外にもアウトリーチ活動を展開した。

平成29年度の貸出団体数は5件であった。

5 ボランティアによる展示ガイド

博物館ボランティアの活動の一つに、展示解説ガイドがある。これは、来館者サービス向上の一環として、博物館常設展示室の「民俗部門」と「総合展示部門」で、ボランティアがわかりやすく解説することを目指している。

まず、民俗部門展示室においては、民俗勉強会のボランティア有志メンバーが中心となり、沖縄県内の離島をはじめとする小規模校（20名以下）の子供たちを対象に解説ガイドを実施している。来館当日は、指定管理者のスタッフが引率教員と担当ボランティアとを引き合わせるが、＜教員との打ち合わせ～オリエンテーション～展示ガイド～まとめ＞までボランティアが先導し行っている。今年度は、合計5校70人を受け入れた。

そして、総合展示部門解説ガイドは平成26年度から本格実施し、今年度は22団体1170人を受け入れた。こちらは、県外の修学旅行や一般団体の他、県内では小学校以外に地域の老人会やデイサービスなど、一般・70歳以上の団体、外国観光客からも依頼があり、幅広い層の来館者へガイドを実施することができた。また、週3回（8月は週4日）午後待機型ガイドでは、2454人（2月時点）に対応した。

広報については、県内外の旅行会社へ向けた説明会の他、ホームページ掲載を行っている。また、団体受付窓口の情報センターから直接案内することもあり、年間を通じて実績を残すことが出来た。これらは、リピーターによる依頼のみならず、口コミなどで情報が発信している様子も窺える。

（1）民俗ガイド実施内容

①実施日：開館日の9:00～16:00

②所用時間：15分～30分

③対象：県内の離島をはじめとする20人以下の小学校・中学校・高等学校

④受付方法：

a 「沖縄県立博物館・美術館 博物館団体受付申込書」に必要事項を記入の上、FAXで送信。

（FAXを送信しただけで、予約は完了ではない）

b その後、受け入れの有無、内容の確認をするため、担当者から連絡する。

※見学をする2週間前までの予約が必要。（先着順）

※ただし、館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もある。

⑤参加費：無料

⑥内容：3種類のメニューから選ぶ。

・Aコース【15分】「海とのかかわりを学びたい子どもたちへ」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室＜ウミのワザ、沖縄の住まいと衣食、年中行事と魔よけ＞

・Bコース【15分】「昔の道具を学びたい子どもたちへ（田畑仕事を中心に）」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室＜アギのワザ、くらしに生きる自然素材、沖縄の住まいと衣食＞

アギとは…ウミに対して、陸地を意味する方言、限られた土地を上手に利用して田畑をこしらえた。さまざまな仕事で使う道具にも人々の知恵と工夫をみることができる。

・Cコース【30分】「民俗分野全体を学びたい子どもたちへ」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室（村落をとりまく世界→御嶽と神人→訪ね来る神々→人の一生→ウミのワザ→アギのワザ→くらしに生きる自然素材→沖縄の住まいと衣食→年中行事と魔よけ→祭り→行事の現在→変わりゆく風景）

※メニューを基準に、内容の組み換えは可能。

※現時点で、民俗分野以外の解説はできないが、他の分野の展示物の見どころをお話しすることは可能。（ただし、解説ではなく、展示物名を紹介する程度。）

（2）総合展示部門解説ガイド実施内容

①実施日：開館日の9:00～16:00

②所用時間：30分～60分

③対象：県内外の一般・修学旅行団体

④受付方法：

a 「沖縄県立博物館・美術館 博物館団体受付申込書」に必要事項を記入の上、FAXで送信。
（FAXを送信しただけで、予約は完了ではない）

b その後、受け入れの有無、内容の確認をするため、担当者から連絡する。

※見学をする2週間前までの予約が必要。（先着順）

※ただし、館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もある。

⑤参加費：無料

⑥内容：3種類のメニューから選ぶ。

・Aコース【30分】「総合展示部門：10～100人以内」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展総合展示部門＜琉球王国の成立、旧首里城正殿鐘、進貢船、琉球王国の衰亡、米軍車両とナンバープレート＞

・Bコース【30分】「ジブンボックス*：100人以上」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→自由見学（総合展示部門5ヶ所、民俗部門2ヶ所にジブンボックスを配置し、各箇所に置いて来場者へのガイドと質問対応をおこなう）

*ジブンボックス：沖縄の方言でジブンとは「知恵」を意味し、「知恵を与える箱」として設置する。今回のガイドでは、このボックスの前でボランティアが来場者に向けた解説を行う。

■民俗班有志による県内小規模校ガイド

	利用区分	地域	日付	団体名	対象	人数	ボランティア 人数		
1	修学旅行	南城市	5月2日	南城市立久高小学校	中1～中3	15	3		
2		宮古島	5月12日	宮古島市立城辺小学校	小6	13	3		
3		石垣島	6月9日	カトリック学園海星小学校	小6～中2	10	2		
4		与那国島	6月22日	与那国町立比川小学校	小5～小6	5	4		
5		石垣島	9月21日	石垣市立平久保小学校	小5～小6	6	2		
		宮古島	9月29日	宮古島市立狩俣小学校	小6	11	2		
合計						—	60	16	—

■総合展示部門解説ガイド

	利用区分	地域	日付	団体名	対象	人数	ボランティア 人数	コース	
1	修学旅行	鹿児島県	5月9日（火）	大和村立大和中学校	中学生	12	4	Aコース	
2	修学旅行	沖縄県	5月16日（火）	宮古島市立西城小学校	6年	19	6	Aコース	
3	研修	沖縄県	5月16日（火）	わったー結の会	一般・70歳以上	17	2	Aコース	
4	ツアー	沖縄県	6月20日（火）	沖縄市安慶名老人クラブ宝寿会	一般・70歳以上	60	3	Bコース	
5	修学旅行	石川県	6月21日（水）	石川県立穴水高等学校	高2	55	5	Aコース	
6	授業	沖縄県	6月22日（木）	那覇市内中学校特別支援学級合同	中学生	150	5	Bコース	
7	研修	沖縄県	7月13日（木）	ユイマール事業 座喜味城寿の会	70歳以上	26	4	Aコース	
8	研修	沖縄県	8月12日（土）	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団	一般	17	8	Aコース	
9	ツアー	沖縄県	9月8日（金）	おきらく会	一般	15	5	Aコース	
10	ツアー	沖縄県	9月12日（火）	読谷楚辺老人クラブ	70歳以上	114	5	Bコース	
11	授業	沖縄県	10月13日（金）	中城村立津覇小学校	5年	51	6	Aコース	
12	ツアー	東京都	10月26日（木）	琉球王国の世界遺産と沖縄の古い村	一般	15	4	Aコース	
13	授業	沖縄県	10月26日（木）	金武町立中川小学校	6年	10	3	Aコース	
14	授業	沖縄県	10月27日（金）	中城村立中城小学校	4年	109	10	Bコース	
15	授業	沖縄県	11月2日（木）	糸満市立高嶺中学校	1年	46	4	Aコース	
16	研修	沖縄県	11月10日（金）	沖縄県職員研修	一般	30	5	Aコース	
17	ツアー	タイ	11月16日（木）	タイ ツアー	一般	80	6	Aコース	
18	修学旅行	滋賀県	2月6日（火）	近江兄弟社中学校	2年	167	6	Bコース	
19	ツアー	熊本県	2月9日（金）	JA熊本中央会・連合会 共通監事室	一般	9	3	Aコース	
20	ツアー	沖縄県	2月23日（金）	泡瀬第三老人クラブ睦会	70歳以上	50	7	Bコース	
21	授業	沖縄県	2月27日（火）	沖縄県立糸満高等学校	1年	100	2	Bコース	
22	ツアー	秋田県	3月7日（水）	秋田県遺族連合会	70歳以上・一般	18	6	Aコース	
合計						—	1170	109	—



6 企画展・特別展関連事業

(1) 企画展「博物館70年のあゆみ」

教育普及では、展覧会関連催事として、文化講座1回（参照：IV 博物館文化講座）実施した。歴代の館長が当時の思い出を語るとともに博物館が歩んできた歴史を紐解いた。

(2) 企画展「ウィルソンが見た沖縄～琉球の植物研究史100年とともに～」

関連催事として、文化講座1回（参照：IV 博物館文化講座）、学芸員講座1回（参照：V 学芸員講座）、体験学習教室1回（参照：III 体験学習教室）を実施した。

(3) 開館10周年記念特別展「海の沖繩」

関連催事として、GODACと連携した体験学習教室（参照：III 体験学習教室）1回、「移動展in 北大東島」（参照：XI その他）、ふれあい体験室ワークショップ（参照：IX ふれあい体験室）を実施した。また、プレイベントとして、「こどもフェスタ2017（秋）たいけんキットであそぼう！」を実施した。ふれあい体験室のハンズオンキットや美術館の新しいキットの紹介のみならず、今回は特別に、九州国立博物館より人気のキットを借用し当館の資料と比較することで参加者に博物館に興味を持ってもらえるよう工夫した。

「こどもフェスタ2017（秋）たいけんキットであそぼう！」

実施日：1日目10月21日（土）10:00～17:00

2日目10月22日（日）10:00～17:00

場 所：当館エントランスホール/ふれあい体験室

対 象：こども～おとな

参加者：1日目624人（定員なし）

2日目804人（定員なし）

参加費：無料



10th ANNIVERSARY 沖繩県立博物館・美術館 開館10周年記念特別展プレイベント

こどもフェスタ 2017 秋

たいけんキットであそぼう

ほぼ一！なるほど！
ドキドキ なんじゃこりゃ？
どんなにおいがする？ わいわい

あそびながら神繩のことを知ろう！

2017年 10/21（土）・22（日） 10:00-17:00

対象 / 子供から大人 入場無料*
*ただし、ワークショップは参加費が必要

美術館のキットもアツクしちゃう
フクフクドキドキするキットが登場！
あそびながらアートをしよう！
どこかで見たことあるかな？
ごちそうクッション作りであそぼう

ふれあい体験室で わあ！感動体験
ふれあい体験室のキットであそぶことが
あるかな？この機会にたくさんキットを
さわってみよう。
おきなわ博士になれるかも！

ふれあい体験室ワークショップ
海へのあこがれ
「ジェルキャンドルで小さな海を作ろう！！」
イノーに住む魚やサンゴなどの生き物について学び
沖繩の海がきれいになる理由を一緒に考えよう。

2日連続だよ！

【会場】 当日先着 40人（各回定員 10人）
9:00からふれあい体験室にて受付
【参加費】 300円
【対象】 5才～大人* 小3以下は大人と一緒に参加。

沖繩県立博物館・美術館 ●開館時間：午前9時～午後5時（金・土は午後3時まで） ●休館日：月曜日（月曜が祝日の場合は開館し、翌平日休館）
〒900-0008 沖縄県那覇市おもろまち1-1-1 TEL: 098-941-0020

7 常設展に関する取組み

(1) 博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな！」の活用

博物館常設展の見学の手助けとして、平成23年度に作成した見どころマップ「ここだけは見逃すな！」を引き続き常設展入口のラックに設置し、今年度は、15,000枚を配布した。また、英語版「ここだけは見逃すな！」も5,000枚を配布した。

(2) 博物館・美術館連携事業「博物館・美術館で平和を考えるイベント」

博物館・美術館連携催事として、慰霊の日に「博物館・美術館で平和を考えるイベント」を開催した。美術館で戦争に関する絵画作品を中心に鑑賞ツアーをおこなった後、博物館へ移動し近現代史の展示資料を解説しながら戦前戦後の沖縄について解説した。そして、最後に黙祷を捧げた。

実施日:6月23日(金) 10:00~10:50

場 所:博物館常設展示室

担 当:外間一先(歴史担当学芸員)

参加者:18人(定員なし)

参加費:無料



8 新聞・雑誌等掲載一覧

博物館で開催した催事に関する新聞や雑誌における掲載は下記の通りである。

○講座・展示解説会

沖縄タイムス	5月28日(日)	社会面	博物館展示解説会 博物館バックヤードツアー
沖縄タイムス	6月4日(日)	文化面	博物館バックヤードツアー
沖縄タイムス	11月30日(水)	文化面	開館10周年特別講演 「成長する物語-濟州島の漂着琉球王子殺害事件-」

○企画展関連

沖縄タイムス	11月2日(木)	社会面	沖縄県立博物館・美術館 開館10周年記念特別展「海の沖縄」開催
		総合面	沖縄県立博物館・美術館 開館10周年記念特別展「海の沖縄」開催

○ふれあい体験室

沖縄タイムス	6月4日(日)	文化面	ふれあい体験室ワークショップ 「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」
--------	---------	-----	-------------------------------------

9 印刷物一覧

	タイトル	規格	デザイン	印刷	部数
1	文化講座（12回）	A4 (片面カラー・片面モノクロ)	—	株式会社プリマール/ 館内手刷り	各500
2	学芸員講座（全12回）	A4 (片面カラー)	—	株式会社プリマール/ 館内手刷り	各500
3	体験学習教室（全2回）	A4 (片面カラー・片面モノクロ)	—	株式会社プリマール/ 館内手刷り	各500
4	夏休み！博物館学芸員教室	A4 (両面カラー)	沖縄美ら島財団	株式会社プリマール	15,000
5	常設展解説シート「これだけは見逃すな」（英語版）	A4 (両面カラー)	—	株式会社プリマール/ 館内手刷り	5,000 (増刷分)
6	常設展解説シート「これだけは見逃すな」（日本語版）	A4 (両面カラー)	—	株式会社プリマール/ 館内手刷り	12,000 (増刷分)
7	ふれあい体験室ワークシート 「港川人研究所 港川人VS現代人」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	2,000
8	ふれあい体験室ワークシート 「土倉と遺物からわかること 黒曜石で切ってみよう」	A4 (片面モノクロ)	—	館内手刷り	1,000
9	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器①チューリップを弾いてみよう」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
10	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器②工工四で弾いてみよう」	A4 (片面モノクロ)	—	館内手刷り	500
11	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち①古地図パズルのおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
12	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち②古地図絵本のおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
13	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち③古地図かるたのおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
14	ふれたいシート	A3変形	宜壽次美智	丸正印刷	10,000
15	教育普及報告書	A4	教育普及班 (沖縄県・沖縄美ら島財団)	企画印刷ハーツ	1,000